

再分析から見えるキャリア教育の可能性

ー将来のリスク対応や学習意欲，インターンシップ等を例としてー

国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター

平成28年3月

目 次

はじめに	2
本報告書について	3
知見の概要	8
第1部：児童生徒が将来の諸リスクと向き合えるようになるために	
解説	10
第1章 予期せぬ困難を乗り越えるためにキャリア教育で何ができるか	13
第2章 「学校から提供された情報」の効果と評価	18
第3章 職業生活上の困難を乗り越えるための知識は誰に届いていないのか	24
第2部：キャリア教育はどのように推進され、どのように変容・成長を促しているのか	
解説	30
第4章 小学校で「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育てるには	33
第5章 キャリア教育における「卒業生の体験発表会」の意義	39
第6章 インターンシップにおける事前指導・事後指導の影響	44
第7章 高等学校における基礎的・汎用的能力と生徒の学習意欲	50
第8章 「キャリアプランニング能力」とキャリア教育諸活動との関連	57
参考資料	64
研究協力者一覧	104

はじめに

近年、社会的・職業的自立に向け必要な能力や態度を育てるキャリア教育の更なる推進・充実がより重要となってきた。本報告書は、これに資するべく、キャリア教育に関する調査データを二次分析し、その知見を取りまとめたものである。

ここ数年、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターが公刊するキャリア教育支援資料については、平成 24 年度実施の「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」の結果に基づいて、テーマ選定や資料作成がなされてきている。このように、キャリア教育の更なる推進・充実を図る上で、データに基づきつつ我が国の実態を把握し、必要な支援を行っていくことが、今後ますます重要となっていくものと考えられる。

その一方で、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターが収集してきた、キャリア教育に関する調査データが持つ潜在的な有効性は、まだまだ活用の余地を残している。「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」については、速報的な内容を取りまとめた『第一次報告書』、テーマを設定し、分析の知見を取りまとめた『第二次報告書』が刊行されてきており、刊行時点で必要と考えられた内容が読者に届けられている。

しかし、「総合的実態調査」が有する計 14 ものデータセットには、異なるテーマ設定や既存のテーマの更なる分析を行いうる余地がまだまだ残されている。上で述べたように、データに基づきつつ我が国の実態を把握し、キャリア教育の更なる推進・充実に資する支援を行っていくという観点からは、既存の調査データの中にもいまだ宝が眠っているのに等しいのである。

これらの認識の下、本報告書の作成事業が企画・実施された。文部科学省の協力の下、文部科学省において保有されている「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究」のデータも併せて分析に用いた。当該調査のデータが利用可能となったことで、テーマ設定や分析の自由度も増している。

本報告書は、タイトルにもあるように、既存のデータを利活用して知見を掘り起こそうという、新たな試みである。本報告書にて取り扱われているテーマは、その重要性が既刊の支援資料等にて指摘されているものも含まれているが、本報告書の分析結果を通じて新たな側面に光が当たり、各教育委員会における施策の充実に、また施策を通して各学校にて実施されるキャリア教育の充実に資することを強く願うところである。

末筆になったが、「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」実施に関わった関係者、並びに、文部科学省初等中等教育局児童生徒課の協力に、感謝申し上げる。

平成 28 年 3 月

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
センター長 頼本 維樹

本報告書について

変化が激しいとされる現代社会の情勢を受け、キャリア教育が果たす役割の重要性は増してきている。と同時に、児童生徒の社会的・職業的自立を目指す上で、このような社会情勢を常に視野に入れながら行う必要があるキャリア教育は、推進・充実を進めていくために検討しておくべき課題も多い。

本報告書は、キャリア教育を取り巻いている、そのような諸課題について、既存の調査データを積極的に利活用し、二次分析を行った結果を取りまとめたものである。本報告書は大きく二部に分かれている。

第1部では、将来の諸リスクへの対応に関する論考を収めた。冒頭で述べたとおり、変化が激しい社会においては、長期的なキャリア展望を持ちづらく、キャリア形成を行っていく上で様々な騒乱要因に出くわすことが予想される。そのような状況を前提とするなら、児童生徒が将来直面する諸リスクに対して、いかに学校で学んでいる間に備えができるかは重要な課題の一つとなってくるであろう。国立教育政策研究所の「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」の結果をひもといても、中学生及び高校生自身が将来の諸リスクについて指導してほしいというニーズをあらわにしている。

第2部は、キャリア教育の方法に関することを扱ったテーマと、キャリア教育で育てる能力を扱ったテーマを収めている。教育活動を通して身に付けさせた力がその後の行動の基盤になることは、自明なことかもしれないが、決して強調しすぎることはない重要な点である。ましてや、将来の社会的・職業的自立に必要な力を育むという、長期的な展望を視野に入れるキャリア教育では、なおのことであろう。このように考えてくると、キャリア教育をどのように進めていけばよいのか、キャリア教育を通じてその後の自立に必要な能力をどのように育ていけるのか、という視点は、極めて重要なものの一つである。

本報告書を作成するために、分析に用いたデータは二つある。そのうち一つは、「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」（国立教育政策研究所実施）である。もう一つが「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究」（文部科学省委託研究・浜銀総合研究所実施）である。

○ キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」は、我が国のキャリア教育・進路指導の実態を明らかにすべく、全国の都道府県・政令市を対象に行われた抽出調査である。調査は平成24年10月上旬から11月中旬にかけて実施された。調査の種類や設計に関しては、下記のとおりである（下記は『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書』5-9ページに記載の情報を抜粋、整理したものである）。

調査は次の5種類が各行われ、計14のデータが得られた。

- （1）進路指導の実施状況と意識調査（学校調査）
- （2）学級・ホームルーム担任の進路指導及びキャリア教育に関する意識調査（学級・ホームルーム担任調査）
- （3）在校生の意識調査（児童生徒調査）

- (4) 在校生の保護者の意識調査（保護者調査）
 (5) 就職及び進学した卒業者の意識調査（卒業者調査，中学校・高等学校のみ）

(1) 学校調査

各都道府県，政令指定都市教育委員会において所管されている公立小学校・中学校・高等学校（本校のみ）の中から指定された数の学校を抽出する。その際，小学校・中学校については，(i)200人未満，(ii)200人以上 600人未満，(iii)600人以上，高等学校については，(i)600人未満，(ii)600人以上 1,000人未満，(iii)1,000人以上の規模の学校を必ず含むものとした。

(2) 学級・ホームルーム担任調査

上記(1)により選定された学校において，小学校は第6学年，中学校・高等学校は第3学年の学級・ホームルーム担任教員全員の中から2名を無作為に抽出した。ただし，該当学年の学級数が2以下の場合は，学級・ホームルーム担任教員全員を調査対象としている。

(3) 児童生徒調査

上記(1)により選定された学校の中から2校を無作為に抽出する。また，抽出された学校において，小学校は第6学年，中学校・高等学校は第3学年の学級・ホームルーム全体の中から各1学級・ホームルームを無作為に抽出して，当該学級・ホームルームの児童生徒全員を調査対象とする。

(4) 保護者調査

上記(3)により児童生徒調査の対象となった学級・ホームルームの生徒の保護者を対象とした。

(5) 卒業者調査

上記(3)により選定された学校の平成24年3月卒業者の中から20名を無作為に抽出した。なお，調査は，都道府県・政令指定都市教育委員会等を経由して配布・回収した。ただし，卒業者調査のみ調査回答後，直接国立教育政策研究所宛てに返送を求めた。

上記の五つの調査に関して，調査対象数，回収数及び回収率は次の表1及び表2のとおり。また，調査対象の母数は表3のとおりである。

表1 調査対象数

区 分	公立小学校		公立中学校		公立高等学校	
	予定数	依頼数	予定数	依頼数	予定数	依頼数
学校調査	1,000	1,000	500	500	1,000	1,000
担任調査	2,000	(2,000)	1,000	(1,000)	2,000	(2,000)
児童生徒調査	5,360	4,223	5,360	4,422	5,040	4,738
保護者調査	5,360	4,223	5,360	4,422	5,040	4,738
卒業者調査	—	—	2,680	2,679	2,520	2,500

※児童生徒調査・保護者調査の予定数は1学級40名として算出した数、依頼数は調査時点での在籍児童生徒数（実際の調査対象者数）を示している。

※担任調査については、該当学年（小学校：6年，中学校・高等学校3年）の学級・ホームルーム担任教員の中から2名を対象としているが、該当学年の学級数が1の場合、当該学級の担任1名しか回答していないため、依頼数の実数は把握していない。

表2 回収数及び回収率

区 分	公立小学校		公立中学校		公立高等学校	
	回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
学校調査	995	99.5%	500	100.0%	993	99.3%
担任調査	1,681	(84.1%)	950	(95.0%)	1,978	(98.9%)
児童生徒調査	4,179	99.0%	4,235	95.8%	4,660	98.4%
保護者調査	4,008	94.9%	3,931	88.9%	4,259	89.9%
卒業者調査	—	—	1,503	56.1%	1,169	46.8%

※担任調査については、予定数に対する回収率を示した。

表3 調査対象の母数

区 分	公立小学校	公立中学校	公立高等学校
学校数	21,166	9,860	3,688
児童生徒数	1,155,573	1,091,899	770,578
卒業者数	1,161,723	1,099,960	747,456

※学校数，児童生徒数，卒業者数（平成24年3月）は学校基本調査による。

○ 高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究

「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究」は、我が国の高等学校普通科におけるキャリア教育の実践が生徒に及ぼす影響について把握・分析することを目的とし、企画・実施された。平成24年度の高等学校普通科入学者を平成26年度まで追跡して行ったパネル形式の調査である。全国の普通科高等学校から217校を抽出し、当該校の全生徒を対象に年2回、通算6回調査を実施した。なお、生徒を対象とした質問紙調査に加えて、調査対象となった学校における、キャリア教育に関する取組状況の質問紙調査（学校向け質問紙調査）も併せて実施されている。生徒に対する質問紙調査と学校の取組状況の調査を併せて行うことにより、生徒の変容とキャリア教育に関する取組との関連性について検討が可能な調査設計となっている。

対象校の数，生徒向け質問紙調査の実施状況，学校向け質問紙調査の実施は，それぞれ表4，表5，表6のとおりである（下記は『高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究報告書』（平成26年度）4-7ページに記載の情報を抜粋，一部を再構成して整理したものである）。

表 4 調査対象校数（地域ブロック・都道府県別）

地域区分	都道府県	学校数	地域区分	都道府県	学校数	地域区分	都道府県	学校数
A	北海道	13	D	三重県	8	A	札幌市	1
	青森県	3		滋賀県	1		仙台市	1
	岩手県	2		京都府	5	B	横浜市	1
	宮城県	5		大阪府	5	C	名古屋市	3
	秋田県	6		兵庫県	8	D	京都市	1
	山形県	2		奈良県	3		神戸市	2
	福島県	3		和歌山県	4	E	広島市	1
B	茨城県	4	E	鳥取県	1	A 合計		36
	栃木県	1		島根県	3	B 合計		36
	群馬県	3		岡山県	2	C 合計		36
	埼玉県	6		広島県	8	D 合計		37
	千葉県	6		山口県	8	E 合計		36
	東京都	7		徳島県	3	F 合計		36
	神奈川県	8		香川県	2	全体合計		217
C	新潟県	6	F	愛媛県	4			
	富山県	3		高知県	4			
	石川県	4		福岡県	3			
	福井県	1		佐賀県	4			
	山梨県	2		長崎県	7			
	長野県	3		熊本県	3			
	岐阜県	3		大分県	5			
	静岡県	5		宮崎県	4			
	愛知県	6		鹿児島県	4			
				沖縄県	6			

出典：『高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究報告書』から抜粋，一部修正

表 5 生徒向け質問紙調査の実施状況

実施年度	通算回数	学年との対応	調査実施時期	回収された調査票数
平成 24 年度	1	1 年生前半	平成 24 年 6 月	44,912 票
	2	1 年生後半	平成 24 年 11 月～12 月	44,515 票
平成 25 年度	3	2 年生前半	平成 25 年 7 月～9 月	43,444 票
	4	2 年生後半	平成 25 年 11 月～12 月	43,529 票
平成 26 年度	5	3 年生前半	平成 26 年 6 月～7 月	42,937 票
	6	3 年生後半	平成 26 年 10 月～12 月	42,022 票

※いずれの回も，調査対象とした 217 校全ての学校から協力が得られた。

表 6 学校向け質問紙調査の実施状況

実施年度	調査実施時期	回収された調査票数
平成 24 年度	平成 24 年 11 月～12 月	217 票
平成 25 年度	平成 25 年 11 月～12 月	217 票
平成 26 年度	平成 26 年 10 月～12 月	217 票

※いずれの調査も、生徒向け質問紙調査の各年度 2 回目の調査と併せて実施された。

調査は全問選択式で、マークシート方式で実施された。

調査票を各学校にまとめて送付し、各学校において実施、記入された調査票を学校単位でまとめて返送するという手順で調査が行われた。

調査は、性別や進路希望、インターンシップへの参加経験有無のほか、「生活の充実度」「意欲・態度」「学ぶことについての意義・意味付け」「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」「職業観・勤労観」に関する質問項目が設定された。特に本報告書で分析に利用した変数については、参考資料欄にも掲載している（66-68 ページ）。

なお、これらの設問に対しては、それぞれ、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」で回答する四件法が採られている。

本報告書の分析に用いているのは、計 6 回の調査全てに回答したと確認が取れた 29,954 人分の回答データである。全調査に回答したと確認が取れなかったケースについては、分析から除外されている。

本報告書の以降のページでは、各調査や各調査の報告書の名称について、原則的に下記の略称を使用する。

表 7 調査名・報告書名と略称との対応表

正式名称	略称
キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査	「総合的実態調査」
同調査 第一次報告書	『第一次報告書』
同調査 第二次報告書	『第二次報告書』
高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究	「変容調査」
同調査 平成 26 年度報告書	『変容調査報告書』

～～～ 知見の概要 ～～～

下記は、各章の知見の概要である。各章のページ数を併せて記載しているので、特に関心の高いテーマ、内容については、是非当該ページを開いて、読み進めていただきたい。

第1章 予期せぬ困難を乗り越えるためにキャリア教育で何ができるか（13-17 ページ）

- ・ 相談機関の情報提供を受けていない、あるいは受けたかどうかを覚えていない卒業生は、学んだり働いたりすることが困難になった際に、公的機関を活用しようとする者が少なく、解決方法がわからなかったり、一人で問題を解決しようとしたりする者が多い傾向にある。
- ・ 人生上の諸リスクへの対応に関する学習に取り組んでいない、あるいは取り組んでも役立たなかったと感じている卒業生も、同様の傾向にある。
- ・ ゆえに、「人生上の諸リスクに遭遇したときの対処法」に関する教育を充実させ、相談機関について積極的に情報提供することは、問題を解決するために「公的機関を活用する」者を増加させ、「1人で問題解決しようとする」「解決のための方法を知らない」者を減少させることにつながる可能性がある。

第2章 「学校から提供された情報」の効果と評価（18-23 ページ）

- ・ 高等学校卒業後に「学んだり働いたりすることが困難な問題」が生じた際に、相談できる公的機関を知っているのは高等学校卒業生のうちおよそ2割。
- ・ 高等学校での情報提供を受け取っている者の中では、「問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っている」割合が高くなる。
- ・ 「進学にかかる費用や奨学金についての情報」「社会全体のグローバル化(国際化)の動向」「男女共同参画社会の重要性」などについては、高等学校のときの学習が「役に立った」と考える者は、在学時に指導がもっとあれば良かったと考える傾向にある。

第3章 職業生活上の困難を乗り越えるための知識は誰に届いていないのか（24-29 ページ）

- ・ 普通科出身者は、職業に関する専門学科や総合学科の出身者に比べて、職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学習しないまま高等学校を卒業する者が多い傾向にある。
- ・ 一方で、職業生活に関する各相談機関については、公共職業安定所（ハローワーク）を除いては、どの学科の出身者もほとんど情報提供を受けていない。
- ・ 職業生活上で困難が起こったときに相談機関を活用するという意志をもつ者も、どの出身学科においても圧倒的少数である。

第4章 小学校で「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育てるには（33-38 ページ）

- ・ 小学校のキャリア教育では「課題対応能力」と「キャリアプランニング能力」の育成に向けた指導に重点が置かれにくい。
- ・ これらの指導が不十分になりがちな理由としては、教員たちがキャリア教育に関する指導の方法や内容についてどうしたらいいかわからないという点がある。

- ・そして、これらの指導を充実させるには、校内外の研修や授業研究会への参加が有効であることがうかがえるため、これらに参加できるような仕組みを整えることが重要である。

第5章 キャリア教育における「卒業生の体験発表会」の意義（39-43 ページ）

- ・「卒業生の体験発表会」を実施している中学校は3割にとどまるが、26.7%の卒業生（第2位）が実施してほしかったと回答している。
- ・「卒業生の体験発表会」の意義は、同じ学校出身の先輩との交流を通して、生きた情報に触れ、自分の進路について考えることにある。
- ・卒業生は「卒業生の体験発表会」において、特に「高等学校など上級学校のエデュケーション内容や特色」、「卒業後の進路（進学や就職）についての相談の方法や内容」「高等学校などの上級学校や企業への合格・採用の可能性」などを知りたいと考えている。

第6章 インターンシップにおける事前指導・事後指導の影響（44-49 ページ）

- ・インターンシップ経験は生徒の基礎的・汎用的能力を高めることに寄与する。
- ・事前指導については、「就業体験の目的を確認するための指導」が多く行われており61.8%であった。事後指導については、「報告書・レポートの作成」が最も多く、70.6%であった。教科と関連付けた指導は行われていない。
- ・インターンシップ経験が生徒の基礎的・汎用的能力を高めることに対して、事前指導・事後指導が関連を持つことがうかがわれる。
- ・事前指導・事後指導が、その学校で行うインターンシップにとって必要な取組になっているかという視点から点検し、重点化を図ることが重要である。

第7章 高等学校における基礎的・汎用的能力と生徒の学習意欲（50-56 ページ）

- ・「基礎的・汎用的能力」が高い生徒は、「学習意欲」が高い。より厳密には、「基礎的・汎用的能力」の自己評価が高い生徒は低い生徒よりも、約15ポイント～約20ポイント以上の差で「家での学習に積極的に取り組んでいる」。
- ・「学習意欲」が最も低下する2年生前半の時期であっても、「基礎的・汎用的能力」の自己評価が高い生徒は低い生徒よりも、「家での学習に積極的に取り組んでいる」の項目に「あてはまる」と答える割合が約8倍～約10倍高い。

第8章 「キャリアプランニング能力」とキャリア教育諸活動との関連（57-63 ページ）

- ・キャリアプランニング能力を身に付ける者の割合は高等学校生活の進行とともに高まり、高等学校生活に関する意識・態度の高まりとも関わっている。
- ・一方、個人に着目すると、「職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」に対する答えは、調査時期によって揺れ動いている。
- ・「キャリアプラン等の作成」「上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会」「卒業生による講演・体験発表会・懇談会」は、第1学年で行われると「職業・働き方についての情報源の理解」に寄与する。「キャリア・ポートフォリオの作成・活用」は学年を通して、また特に第3学年において「職業・働き方についての情報源の理解」に寄与する。

第 1 部：児童生徒が将来の諸リスクと向き合えるようになるために

解説

第 1 部は、「将来起こりうる人生上の諸リスクへの対応」に関する論考を収めている。

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」に基づく『第一次報告書』、『第二次報告書』並びにキャリア教育支援資料は、「将来起こりうる人生上の諸リスクへの対応」がキャリア教育における重要課題の一つであることを繰り返し示してきた。

例えば、『第二次報告書』では、生徒が「自分の将来の生き方や進路について考えるため、学級活動の時間などで就職後の離職・失業など、将来起こりうる人生上の諸リスクへの対応についての指導を望んでいる」一方で「多くの学校が、『将来起こりうる人生上の諸リスクへの対応に関する学習』を実施していない」ことが示されている（『第二次報告書』46 ページ）。

このように、ニーズはあるものの、必ずしも学習機会があるわけではないことが明らかになっているが、では、子供たちは、実際に「学んだり働いたりすることが困難な問題」が生じた際に、どのような対処行動を取るのでしょうか。「総合的実態調査」の「高等学校・卒業者調査」では問 8 で、「学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったとき、あなたはどうしますか。当てはまるものを一つ選んでください」という問を尋ねている。下図がその回答の結果である。

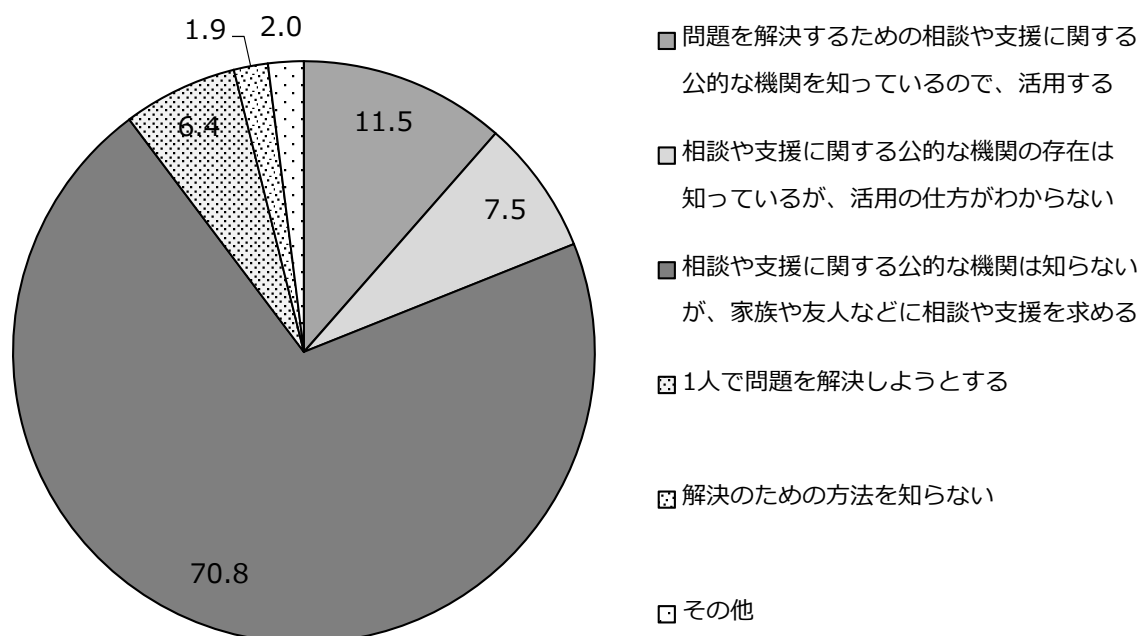


図 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったとき、あなたはどうしますか (%) (有効回答数 = 1,161)

「問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っているので活用する」と回答した割合は 11.5%にとどまっている。「相談や支援に関する公的な機関の存在は知っているが、活用の仕方がわからない」と回答した割合と合わせても、高等学校卒業者のうち「公的な機関を知っている」者の割合は 2 割未満である。

一方、「公的な機関を知らない」者のうちのほとんどが「相談や支援に関する公的な機関は知らないが、家族や友人などに相談や支援を求める」と回答しており、全体に占める割合は 70.8%となっている。「1 人で問題を解決しようとする」者よりも多くの者が「家族や友人などに相談や支援を求める」とした点には、社会的なつながりからの助けを得て困難を乗り越えるという展開を期待することができる。しかしながら、問題解決の手段として公的セクターを活用するという可能性が、私的なつながりを活用する可能性に比べてより小さくしか認識されていない点には、留意が必要である。

家族や友人といった社会的なつながりを通して支援を受けることができ、困難を乗り越えられた者は現状でもたくさんいることだろう。しかし、長いキャリアの途上では、社会的なつながりから支援を得られないタイミングも、そもそも社会的なつながりから断ち切られてしまうことも、起きうることである。あるいは、社会的なつながりから支援が得られたとしても、課題の解決に十分ではないこともあるかもしれない。そして、「1 人で問題を解決しようとする」者が少ないながらもいることも、見逃してはならない。

このように考えると、たとえ今、リスクと無縁かのように見える者であっても、潜在的にはリスクを抱えていることがわかるだろう。したがって、高等学校卒業後すぐに働くか、上級学校に進学するかという選択の別を問わず、困難な問題に直面した際に打てる手立てを多くしておくに越したことはないのである。困難を乗り越えるための手立てを身に付けておくこと、若しくは、その手立てを見付けられるだけの手掛かりを後に活用可能なように身に付けておくことが重要であるのは、図が教えてくれていることの一つである。

このような課題認識を背景に、第 1 部では、将来起こりうる人生上の諸リスクへの対応についてより理解を深めるために、あるいは、今後の施策を考えていくために、高等学校卒業者のデータを用いた分析の結果から、次の三つの章を設けた。

第 1 章は、「予期せぬ困難を乗り越えるためにキャリア教育で何ができるか」である。「人生上の諸リスクに遭遇したときの対処法」に関する教育の充実、及び「学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったときに相談できる機関」に関する積極的な情報提供の重要性を確認している。

第 2 章は、『学校から提供された情報』の効果と評価である。支援機関に関する知識を得ていると、公的機関を活用するよう促される側面があることを示している。また、高等学校において学ぶ知識の有用性とニーズの関係性についても整理している。

第 3 章は、「職業生活上の困難を乗り越えるための知識は誰に届いていないのか」である。職業生活上の困難を乗り越えるための知識が特定の学科において不足していること、職業生活に関する各相談機関に関する情報提供の少なさや、相談機関を活用するという意志をもつ者の少なさがどの学科においても生じていることを示している。

第1部各章の知見を抜粋し、下記にまとめている(「知見の概要」で掲載したものの再掲)。いずれの章も確認してもらいたいが、特に関心と呼ぶ記述があれば、その章から読み進めていただくのもよいだろう。詳細は各章の記述に当たっていただきたい。

第1章 予期せぬ困難を乗り越えるためにキャリア教育で何ができるか(13-17 ページ)

- ・ 相談機関の情報提供を受けていない、あるいは受けたかどうかを覚えていない卒業生は、学んだり働いたりすることが困難になった際に、公的機関を活用しようとする者が少なく、解決方法がわからなかったり、一人で問題を解決しようとしたりする者が多い傾向にある。
- ・ 人生上の諸リスクへの対応に関する学習に取り組んでいない、あるいは取り組んでも役立たなかったと感じている卒業生も、同様の傾向にある。
- ・ ゆえに、「人生上の諸リスクに遭遇したときの対処法」に関する教育を充実させ、相談機関について積極的に情報提供することは、問題を解決するために「公的機関を活用する」者を増加させ、「1人で問題を解決しようとする」「解決のための方法を知らない」者を減少させることにつながる可能性がある。

第2章 「学校から提供された情報」の効果と評価(18-23 ページ)

- ・ 高等学校卒業後に「学んだり働いたりすることが困難な問題」が生じた際に、相談できる公的機関を知っているのは高等学校卒業生のうちおよそ2割。
- ・ 高等学校での情報提供を受け取っている者の中では、「問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っている」割合が高くなる。
- ・ 「進学にかかる費用や奨学金についての情報」「社会全体のグローバル化(国際化)の動向」「男女共同参画社会の重要性」などについては、高等学校のときの学習が「役に立った」と考える者は、在学時に指導がもっとあれば良かったと考える傾向にある。

第3章 職業生活上の困難を乗り越えるための知識は誰に届いていないのか(24-29 ページ)

- ・ 普通科出身者は、職業に関する専門学科や総合学科の出身者に比べて、職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学習しないまま高等学校を卒業する者が多い傾向にある。
- ・ 一方で、職業生活に関する各相談機関については、公共職業安定所(ハローワーク)を除いては、どの学科の出身者もほとんど情報提供を受けていない。
- ・ 職業生活上で困難が起こったときに相談機関を活用するという意志をもつ者も、どの出身学科においても圧倒的少数である。

第1章 予期せぬ困難を乗り越えるためにキャリア教育で何ができるか

1. キャリア形成における予期せぬ困難

高等学校卒業後のキャリア形成の途上には、様々なリスクが潜んでいる。例えば、2012年度新卒者のうち、過去3年以内に離職した高卒者は40.0%、大卒者は32.3%に達する（注¹）。また2014年の調査によると、大卒者が初めて就職した会社を辞めた理由の上位3位は、「労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった」（22.2%）、「人間関係がよくなかった」（19.6%）、「仕事が自分に合わない」（18.8%）といずれも消極的であり（注²）、大半が予期せぬ離職であった可能性が高い。高等学校卒業後に就職した高校生においても、同様あるいはそれ以上に厳しい状況であると推察される。働き続けることができないブラック企業、あるいは学業中断につながりかねない大学生のブラックバイトも大きな社会問題となっている。「ブラック企業」について、新聞社のデータベース（注³）で検索してみると、関連記事は2012年に22件だったものが、2013年度に237件、2014年に279件と急増していることから、そのことが伺える。

このような現状において、卒業後に待ち受けている予期せぬ困難に対処するための方法を、キャリア教育を通じて学習することは極めて重要な意義をもっている。特に、生活基盤を脅かしかねないような深刻な事態については、当事者個人の力だけで乗り切れることは容易でなく、専門的支援を提供できる公的機関を含めて、他者に相談することが問題解決につながることも少なくないであろう。

しかし、「総合的実態調査」の「高等学校・卒業者調査」において、「学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったときの対応」（問8）を尋ねたところ、「公的機関を知っているので活用する」者の割合は1割強にとどまる。一方で、1割弱の卒業生が「1人で問題を解決しようとする」あるいは「解決のための方法を知らない」と回答している。また、「困難な問題が起こったときに相談できる学校から情報提供を受けた機関」（問9）を尋ねたところ、「上記の機関に関する情報提供はなかった」という回答が16.8%、「上記の機関に関する情報提供の有無について覚えていない」という回答は45.8%で、両者を併せると62.6%にも達する。

以下では、これら二つの質問項目（問8と問9）を取り上げて分析を行うことで、予期せぬ困難を乗り越えるためのキャリア教育の必要性と可能性を検討したい。

2. 「困難な問題が起こったときの対応」に関する分析

第1に、「相談機関の情報提供を受けていないか覚えていない者」と「それ以外」とを比較をした（図1）。前者は後者に比べて、「解決方法を知らない」者の割合が1.6ポイント高く、「1人で問題解決しようとする」者の割合が3.4ポイント高く、逆に「公的機関を活用する」者の割合は10.4ポイントも低い。

第2に、キャリア教育において「就職後の離職・失業など、将来起こりえる人生上の諸リスクへの対応に関する学習」に「取り組んでいない」「役立たなかった」「役立った」と回答した卒業生間で比較した（図2）。諸リスクに関する学習に「取り組んでいない」者は、「役立った」と回答した者に比べて、「解決方法を知らない」者の割合が0.7ポイント高く、「1人で問題解決しようとする」者の割合が3.0ポイント高く、逆に「公的機関を活用す

る」者の割合は 7.6 ポイント低い。また、「役立たなかった」と回答した者は、「役立った」と回答した者に比べて、「解決方法を知らない」者の割合が 1.1 ポイント高く、「1人で問題解決しようとする」者の割合が 3.0 ポイント高く、逆に「公的機関を活用する」者の割合は 7.2 ポイント低い。

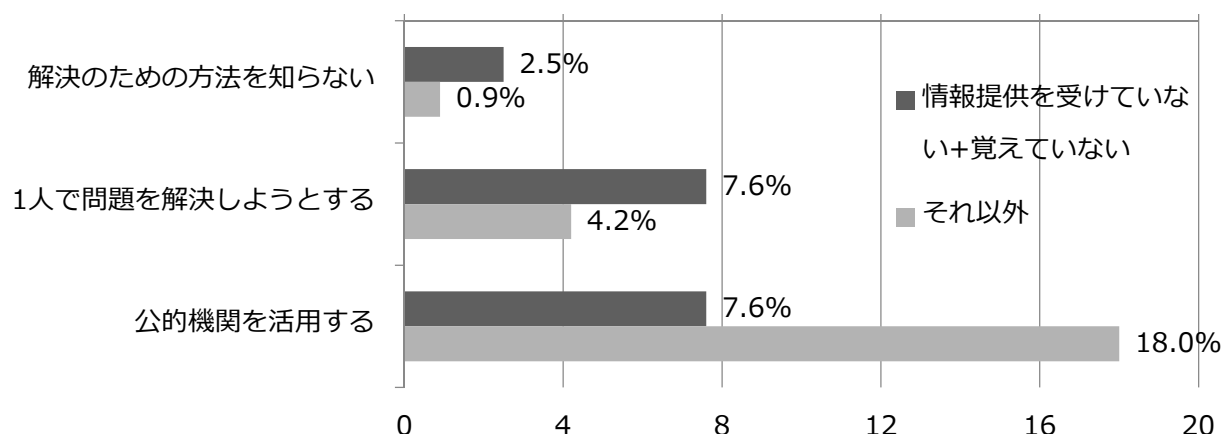


図 1 情報提供を受けていないか覚えていない者とそれ以外の者の「困難への対応」

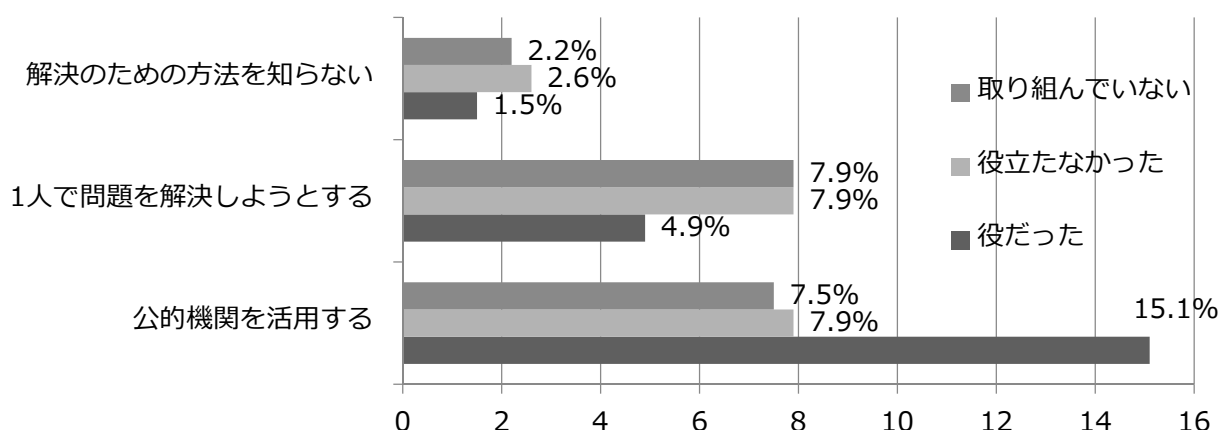


図 2 諸リスクへの対応についての学習状況にみる「困難への対応」

以上のことから、相談機関の情報提供を受けていない、あるいは受けたかどうかを覚えていない卒業生は、学んだり働いたりすることが困難になった際に、公的機関を活用しようとする者が少なく、解決方法がわからなかったり、一人で問題を解決しようとしたりする者が多い傾向にあることが明らかになった。また、人生上の諸リスクへの対応に関する学習に取り組んでいない、あるいは取り組んでも役立たなかったと感じている卒業生も、同様の傾向にある。しかし、「総合的実態調査」によると、「人生上の諸リスクへの対応」について、取り組んでいる担任はわずか 30.1%であり、学習機会のない学校は 49.3%、学習に取り組んでいない高校生は 34.8%、取り組まなかった卒業生は 42.4%にもなる。

3. 「学校から情報提供を受けた機関」に関する分析

第 1 に、「学校から情報提供を受けた機関」について「なし」あるいは「覚えていない」と回答した者について、「困難が起こったときの対応」の回答間で比較した（図 3）。情報

提供を受けていないか覚えていない者の割合は、「解決方法を知らない」者で 81.8%,「1人で問題を解決しようとする」者で 75.0%であるが、「公的機関を活用する」者は 41.2%で過半数を下回っている。

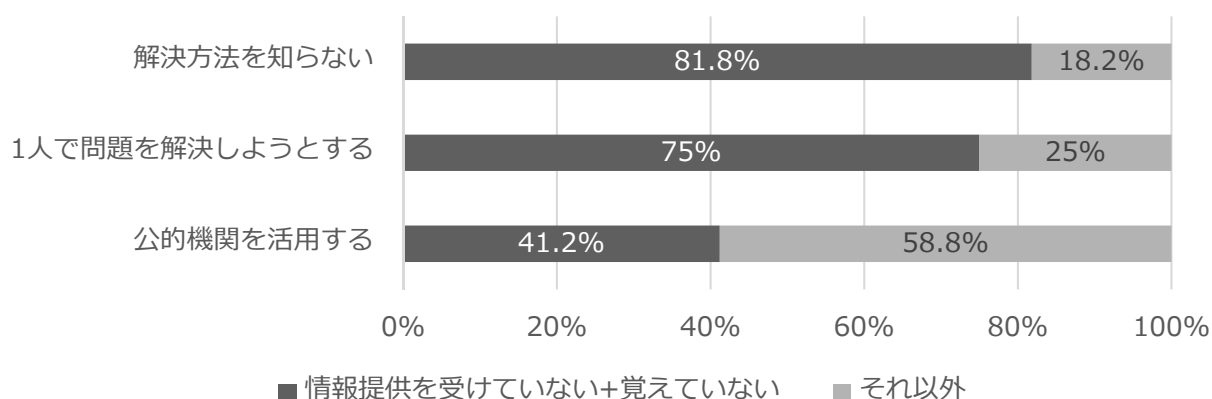


図3 困難への対応別にみる「情報提供の有無」

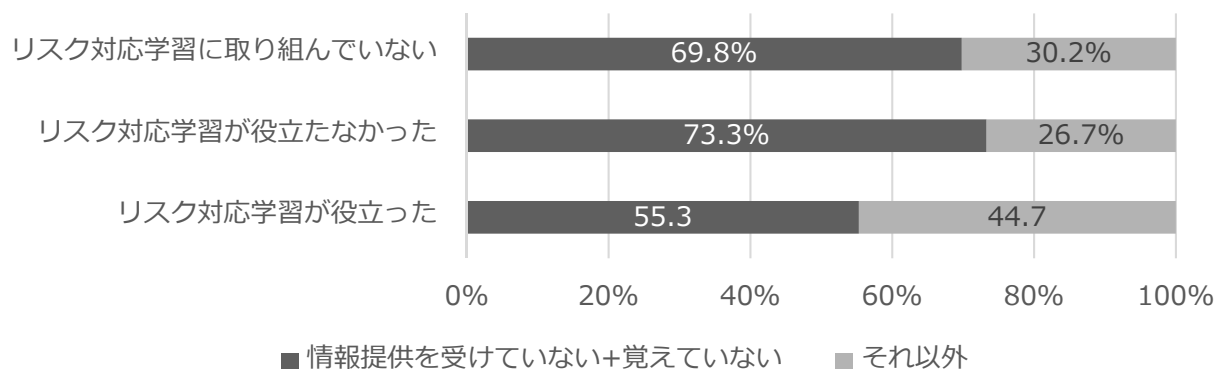


図4 諸リスクへの対応についての学習状況にみる「情報提供の有無」

第2に、キャリア教育において「就職後の離職・失業など、将来起こりえる人生上の諸リスクへの対応に関する学習」に「取り組んでいない」「役立たなかった」「役立った」と回答した卒業生間で比較した(図4)。情報提供を受けていないか覚えていない者の割合は、「取り組んでいない」者で 69.8%,「役立たなかった」と回答した者で 73.3%であるが、「役立った」と回答した者は 55.3%にとどまる。

以上のことから、学んだり働いたりすることが困難になった際に、解決方法がわからなかったり、一人で問題を解決しようとしたりする卒業生には、相談機関の情報提供を受けていない、あるいは受けたかどうかを覚えていない者が多い傾向にあることが明らかになった。また、人生上の諸リスクへの対応に関する学習に取り組んでいなかったり、取り組んでいても役立たなかったと感じたりしていた卒業生も、同様の傾向にある。

4. 分析結果から示唆される課題と可能性

以上の分析の結果、高等学校の教育課程で、「人生上の諸リスクに遭遇したときの対処法」に関する教育を充実させ、特に「学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったときに相談できる機関」について、積極的に情報提供することの重要性が確

認された。これらの取組は、問題を解決するために「公的機関を活用する」卒業生を増加させ、「1人で問題を解決しようとする」「解決のための方法を知らない」卒業生を減少させることに寄与する可能性が高い。

「諸リスクへの対処法」に関する教育の内容については、既に様々な提案がなされているが、以下に一例を示したい。

- ・労働の実態（労働条件，労働環境，労働疎外，メンタルヘルスなど）
- ・職業の実態（産業構造，職種，就職活動，求人票の見方，ブラック企業対策など）
- ・労働者の権利（労働基本権，労働者保護法制，労働組合など）
- ・セーフティネット（社会保険，雇用保険，労働保険，生活保護，奨学金など）
- ・困ったときの相談窓口

また，公的な相談機関としては，次のようなものが挙げられる。

- ・労働組合（誰でも，いつでも，一人でも入れる「ユニオン」もある）
- ・総合労働相談コーナー（労働条件・いじめ・採用などの相談など）
- ・労政事務所（労働相談や労働教育講座など）
- ・労働基準監督署（事業所に対する監督，労働者災害補償保険の給付など）
- ・ハローワーク，ジョブカフェ，地域若者サポートステーション（就業支援など）
- ・雇用均等室（男女の均等な機会及び待遇の確保対策など）
- ・高齢・障害・求職者雇用支援機構（職業能力開発など）
- ・勤労青少年ホーム（働く青少年の余暇活動の支援など）
- ・日本司法支援センター（法テラス）（法律相談）
- ・各大学・専門学校等のキャリアセンター（在学生に対するキャリア支援）

相談機関に関する情報提供を含む，予期せぬ困難を乗り越えるためのキャリア教育は，教育課程内においては公民科の「現代社会」と「政治・経済」及び特別活動の「ホームルーム活動」などの時間において，実践の余地がある。下記に，学習指導要領及びその解説において関連すると思われる箇所を抜粋・引用しておきたい（傍線部は加筆）。

ただし，「総合的実態調査」で「相談機関の情報提供を受けた」（問9）と回答した卒業生の8.4%が「相談や支援に関する公的な機関の存在は知っているが，活用の仕方がわからない」（問8）と回答していることを考慮すると，相談機関の名称などを周知するだけでは不十分な可能性がある。実際のキャリア形成に役立つ取組にするためには，具体例などを挙げながら，多様な文脈における公的機関の活用方法を理解させることが有効ではないだろうか。

①現代社会

【学習指導要領】

(2)エ 現代の経済社会と経済活動の在り方

…また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。

【学習指導要領解説】

「雇用、労働問題」については、近年の雇用や労働問題の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から理解を深めさせる。その際、終身雇用制や年功序列制などの制度の変化、非正規社員の増加、中高年雇用や外国人労働者にかかわる問題、労働保護立法の動向、労働組合の役割、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）などと関連させながら、雇用の在り方や労働問題について国民福祉の向上の観点から考えさせることが大切である。

②政治・経済

【学習指導要領】

(3)ア 現代日本の政治や経済の諸課題

少子高齢社会と社会保障、地域社会の変貌と住民生活^{ばう}、雇用と労働を巡る問題、産業構造の変化と中小企業、農業と食料問題などについて、政治と経済とを関連させて探究させる。

【学習指導要領解説】

「雇用と労働を巡る問題」については、少子高齢化や産業構造の変化、規制緩和の進展などにより就業形態が多様化し労働市場が大きく変化していることなどを、日本の労使関係の特色、勤労の権利と義務、労働基本権の保障、労働条件の改善、労働組合の役割などに触れながら理解させる。

③ホームルーム活動

【学習指導要領解説】

(3) 学業と進路

…また、生徒が、将来直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、生徒一人一人が、学ぶこと、働くこと、そして生きることについて自己の問題として真剣に受け止め、それぞれの深い結びつきを理解していくことが必要である。

エ 進路適性の理解と進路情報の活用

…また、産業・経済の動向に関する情報、職業や職業生活の実情に関する情報など、進路の選択決定に必要な情報を収集、活用する…

オ 望ましい勤労観・職業観の確立

…生徒が、様々な社会的役割や職業及び職業生活について理解するとともに…

※刊行時、最新のものを掲載している。

(注1) 厚生労働省 2015『新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移』。

(注2) 厚生労働省 2014『平成25年若年者雇用実態調査の概況』。

(注3) 朝日新聞社データベース『聞蔵』調べ。

第2章 「学校から提供された情報」の効果と評価

1. 「学んだり働いたりすることが困難な問題」への対処行動

高等学校卒業後の生活において、「学校から情報提供を受けたもの」はどのような意味をもち、どのように評価されているのだろうか。ここでは、「総合的実態調査」の「高等学校・卒業者調査」のデータを検討することを通して、キャリア教育に関連して提供された情報の受け取られ方について整理してみたい。

まず着目するのが、高等学校卒業後に「学んだり働いたりすることが困難な問題」が生じた際の対処行動である。

第1部冒頭の解説でふれたように、「高等学校・卒業者調査」では「学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったとき、あなたはどうしますか」と尋ねている（問8）。これに対する回答のうち、「問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っているので活用する」の割合は11.5%、「相談や支援に関する公的な機関の存在は知っているが、活用の仕方がわからない」の割合は7.5%であった。すなわち、高等学校卒業者のうち「公的な機関を知っている」とする者の割合は2割未満である。

一方、「相談や支援に関する公的な機関は知らないが、家族や友人などに相談や支援を求める」の割合は70.8%を占めている。「1人で問題を解決しようとする」の割合は6.4%、「解決のための方法を知らない」の割合も1.9%であり、問題解決の手段としての公的なセクターの活用可能性が、相対的に小さくしか認識されていない点に留意されなければならない。

2. 対処行動の背景の探索

それでは、問8における異なる回答の背景には、どのようなことをみることができるのだろうか。このことを、問9の「学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったときに相談できる以下の機関のうち、高校生のときに学校から情報提供を受けたものを全て選んでください」への回答結果に照らして考えてみたい。

問8の回答ごとにグループをつくり、問9の回答項目の選択状況を示した（図1）。各グループにおいて、10%以上の回答者が選択した項目に着目して、この結果をみてみたい。

まず「問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っているので、活用する」と回答したグループにおいては、学校から情報提供を受けたものとして「大学や専門学校等の就職支援センター」「大学や専門学校等の学生相談窓口」「公共職業安定所（ハローワーク）」を挙げる割合がいずれも高くなっている。

次に、「相談や支援に関する公的な機関の存在は知っているが、活用の仕方がわからない」と回答したグループでも、同様の3項目を選ぶ割合が一定以上あることがわかる。しかしながら、「公共職業安定所（ハローワーク）」を選択する割合が相対的により高くなっている。

「相談や支援に関する公的な機関の存在は知らないが、家族や友人などに相談や支援を求める」と回答したグループでは、学校から情報提供を受けたものとして「大学や専門学校等の就職支援センター」「公共職業安定所（ハローワーク）」を挙げる割合が高い。しかし、「公的な機関を知っている」とするグループよりも、その割合は低くなっている。

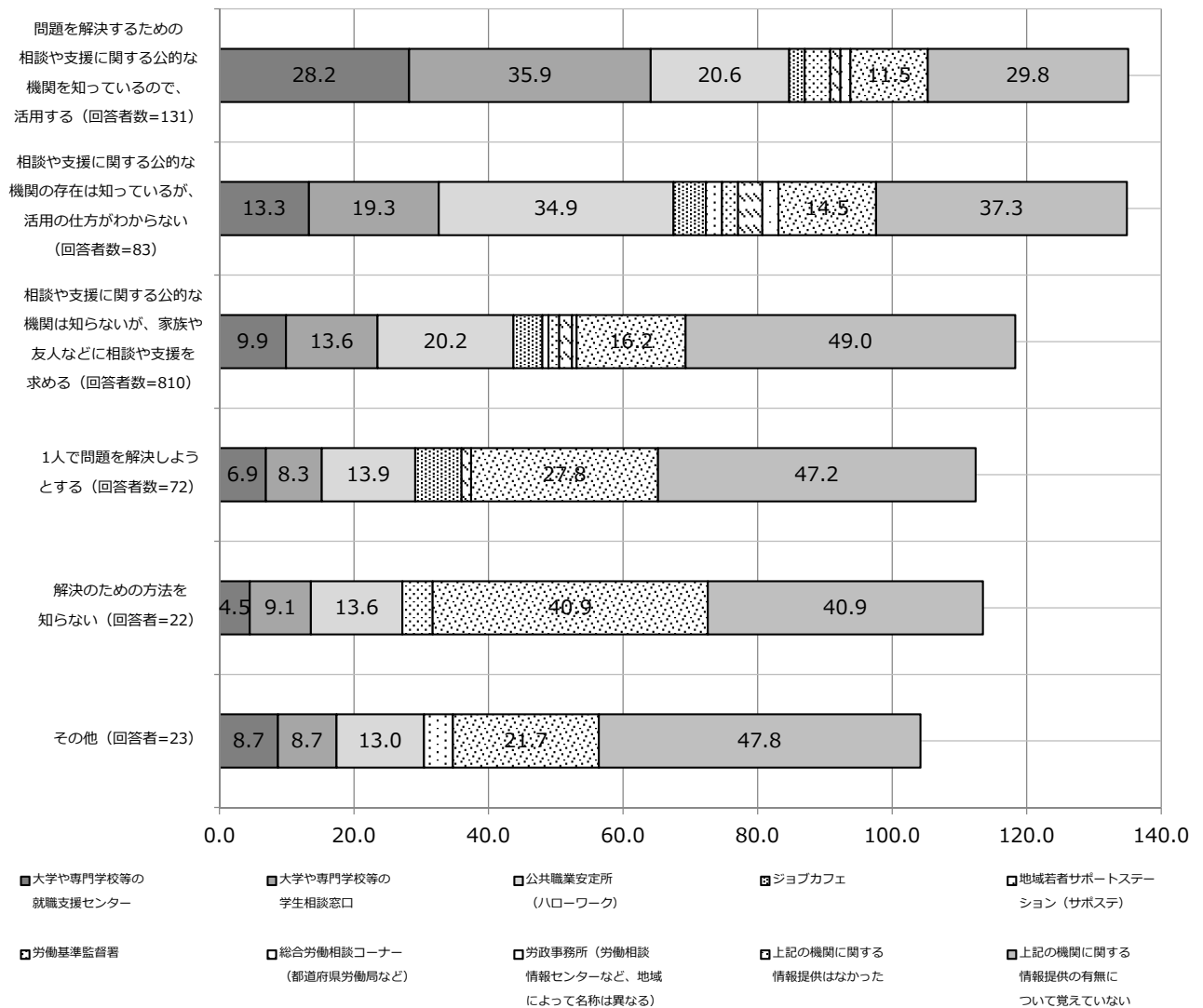


図1 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったときに相談できる以下の機関のうち、高校生のときに学校から情報提供を受けたもの（複数回答）（%）

また、「1人で問題を解決しようとする」「解決のための方法を知らない」「その他」と回答したグループにおいては、それぞれ回答者のうち10%以上の者が学校から情報提供を受けたものとして選択した項目は、「公共職業安定所（ハローワーク）」のみとなっている。

以上のことから、公的なセクターの存在を知っているグループ、また、それを知らないとしても家族や友人などの社会的なつながりを活用可能と捉えているグループにおいては、学校で提供されたものが相対的に強く記憶されており、回答として挙げられる割合が高いことがわかる。

それに対して、「1人で問題を解決しようとする」「解決のための方法を知らない」「その他」と回答したグループにおいては、「大学や専門学校等の就職支援センター」「大学や専門学校等の学生相談窓口」を選択する割合は低いことがわかる。その一方で回答の割合が高くなるのが、「上記の機関に関する情報提供はなかった」「上記の機関に関する情報提供の有無について覚えていない」という項目である。

これらの事実からは、「学校での情報提供」を受けたこと、またそれを記憶していることが、「学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題」が生じたときの対処行動に関わっていることを指摘できる。「学校での情報提供」は、卒業後に直面する問題を社会的なつながりの中で解決できるか否かという点に関わっているといえる。

3. 「学校から情報提供を受けたもの」が行動を促す側面

それでは次に、因果の想定を逆にして、学校から提供を受けた情報がどのような対処行動に関わるのかを確かめておきたい。「大学や専門学校等の就職支援センター」「大学や専門学校等の学生相談窓口」「公共職業安定所（ハローワーク）」の3項目について、学校でその情報提供を受けた者と受けていない者とのあいだで、対処行動にいかなる違いが生じているのか結果を比較した（図2）。

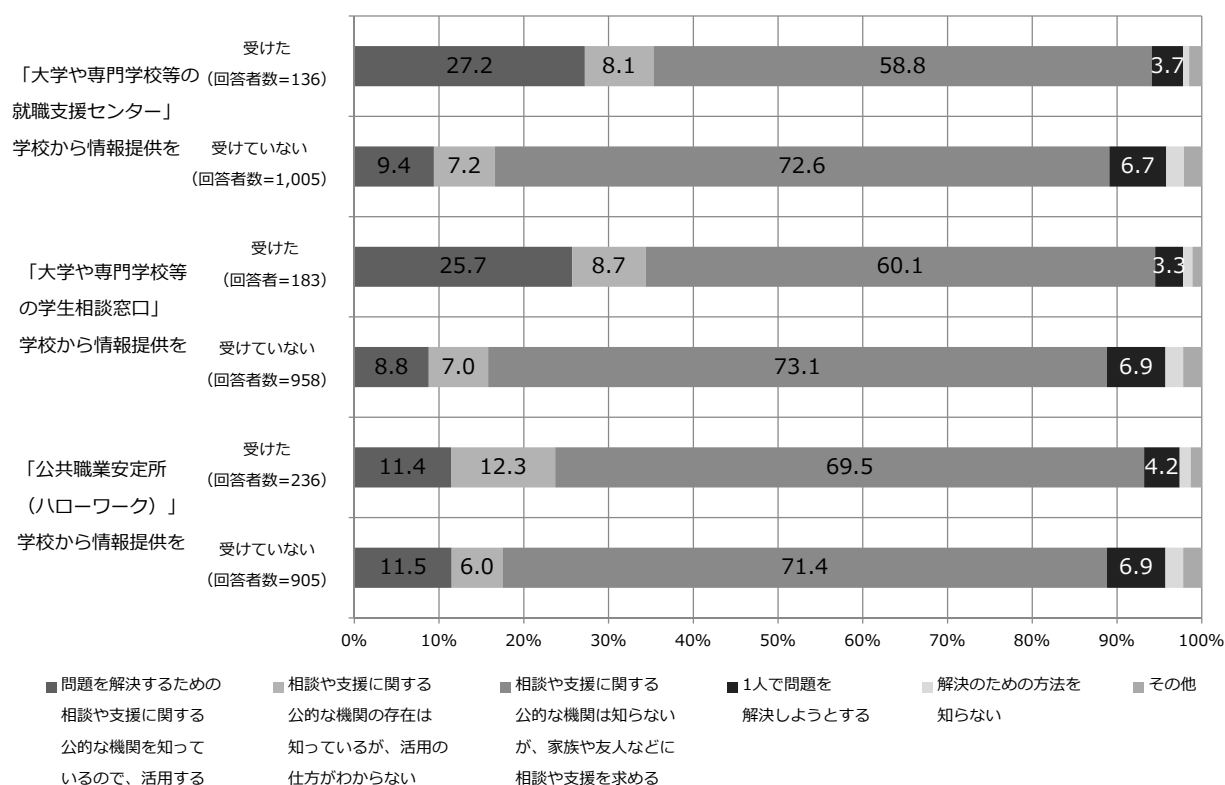


図2 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったとき、あなたはどのようにするかへの回答（％）

まず「大学や専門学校等の就職支援センター」についてみると、学校からその情報の提供を受けたグループでは、「問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っている、活用する」と回答する者の割合が27.2%である。一方、情報提供を受けていないグループでは、その割合は9.4%である。両者の差は大きい。逆に、「相談や支援に関する公的な機関は知らないが、家族や友人などに相談や支援を求める」とする割合が、情報提供を受けていないグループにおいて高くなる。

「大学や専門学校等の学生相談窓口」の情報提供の有無についても同様である。その情報を受け取ったグループにおいては「問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関

を知っている」割合が高くなり、情報提供を受けていないグループにおいては「相談や支援に関する公的な機関は知らないが、家族や友人などに相談や支援を求める」割合が高くなる。

一方、高等学校で「公共職業安定所（ハローワーク）」についての情報提供を受けたグループとを受けていないグループとのあいだでは、回答傾向にそう大きな違いは見られない。

なお、三つの項目ともに、情報提供を受けていないグループにおいては受けたグループよりも「1人で問題を解決しようとする」割合が高くなることにも留意しておきたい。

以上の結果からは、高等学校で「大学や専門学校等の就職支援センター」及び「学生相談窓口」について提供される情報が、特に卒業後の生活における困難へのより有効な対処と関わり合っていると指摘できる。

4. かつての学習内容の評価

最後に、高等学校卒業者がかつての学習内容についてどのように評価をしているのかを検討しておきたい。

「高等学校・卒業者調査」の問 11 では、「高校生のとき、高等学校卒業後の進路や自分の将来の生き方を考える上で、役に立った学習や指導はどれですか」という問いが設定された。「(1) 様々な教科における日々の授業」「(2) 係活動・委員会活動や生徒会活動などの日々の活動」といった学習活動・指導内容が(27)まで列挙され、それぞれについて「役に立った」「少しは役に立った」「役に立たなかった」「取り組んでいない（指導がなかった）」の4項目からの選択による回答が求められた。「学習・指導の有用性」について尋ねる問いである。

また問 13 では、「あなたは、高校生のとき、自分の将来の生き方や進路について考えるために、ホームルーム活動の時間などで、どのようなことを指導してほしいですか。『もっとよく指導してほしい』『指導を受けた記憶はないが、指導してほしい』など、あなたが指導してほしいと思う事柄を全て選んでください」という問いが設定された。「(1) 自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習」「(2) 上級学校（大学、短期大学、専門学校等）の教育内容や特色」といった学習内容が(18)まで列挙された。それらの学習内容を振り返り、評価することを求める問いである。

これら二つの問いの列挙項目のうち、内容が重なっているのが以下の 13 項目である。これらの学習内容について、高等学校卒業者が「学習・指導の有用性」をどう評価しているかという点と、振り返って「指導してほしい」と考えるか否かという点との関連を、検討することができる。

- ① 自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習
- ② 社会人・職業人としての常識やマナーについての学習
- ③ 進学にかかる費用や奨学金についての情報
- ④ 社会全体のグローバル化（国際化）の動向についての学習
- ⑤ 就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応についての学習
- ⑥ 転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組みについての学習

- ⑦ 男女が対等な構成員として様々な活動に参画できる社会（男女共同参画社会）の重要性についての学習
- ⑧ 学ぶことや働くことの意義についての学習
- ⑨ 卒業後の進路（進学や就職）に関する情報の入手方法とその利用の仕方
- ⑩ 将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計
- ⑪ 上級学校（大学，短期大学，専門学校等）や企業への合格・採用の可能性
- ⑫ 労働に関する法律や制度の仕組みについての学習
- ⑬ 近年の若者の雇用・就職・就業の動向についての学習

これら 13 項目について，問 11 の回答と問 13 の回答の関わりを検討したところ，関連が見られたのは①～⑦の 7 項目，見られなかったのは⑧～⑬の 6 項目であった（注 1）。①～⑦の項目については両者の直接的な関わりを想定でき，⑧～⑬の学習についての評価は，ほかの様々な要因が介在し両者のあいだに直接的な関わりを想定しにくいということになる。

①～⑦の項目について結果が意味するところを整理すると，以下のようになる。

●高等学校で「取り組んでいない（指導がなかった）」としたグループにおいて，卒業後の調査で「指導してほしかった」ものとして挙げられる割合が高い項目

- ①自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習
- ②社会人・職業人としての常識やマナーについての学習
- ④社会全体のグローバル化（国際化）の動向についての学習
- ⑤就職後の離職・失業など，将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応についての学習
- ⑥転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組みについての学習

この結果はある意味で当然であり，高等学校時代に取り組む機会がなかったからこそ，卒業後に必要と思われる学習内容だといえる。キャリア教育を進める上で，これらの項目についての潜在的ニーズは高いということになる。

●高等学校のときに「役に立った」としたグループにおいて，卒業後の調査で「指導してほしかった」ものとして挙げられる割合が高い項目

- ①自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習
- ③進学にかかる費用や奨学金についての情報
- ④社会全体のグローバル化（国際化）の動向についての学習
- ⑦男女が対等な構成員として様々な活動に参画できる社会（男女共同参画社会）の重要性についての学習

この結果には注目すべきである。これらの学習内容については，高等学校時代に実際に指導された際に「役に立った」と感じた回答者が，更に卒業後にも「指導してほしかった」と表明したことになる。有用性の評価が更なる学習の需要につながったケースであり，キャリア教育の内容として重視してよいものだととらえることができる。

●高等学校のときに「役に立たなかった」としたグループにおいて、卒業後の調査で「指導してほしい」ものとして挙げられる割合が高い項目

②社会人・職業人としての常識やマナーについての学習

この項目については、「指導してほしい」とする割合が若干ではあるが高くなったことに注目できる。この学習内容は、高等学校時代には役に立たないと思ったものの、卒業後に必要性が感じられていることになる。キャリア教育の内容としては、その学習の方法に工夫や改善がなされた上で、ニーズに応えるに足るものだととらえることができる。

（注１） 分析の結果は参考資料付表２－３に示した。なお、関連が見られたとしている項目は全て、分析の結果が統計的に有意であったものである。

第3章 職業生活上の困難を乗り越えるための知識は誰に届いていないのか

1. はじめに

本章では、1) 誰が高等学校時代に職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学んだのか、2) 誰が職業生活に関する相談機関について学校から情報提供を受けた（受けなかった）のか、3) 誰が職業生活上で困難な問題が起こったときに相談機関を活用しようとする（しない）のか、という3点について、「総合的実態調査」の分析を行う。「誰が」という点については、具体的には、高等学校時代の学科（普通科／職業に関する専門学科／総合学科）と、卒業1年目の状況（在学中・進学準備中／就労中・求職中）という2点に注目する。そして、分析結果をふまえて、現在の高等学校でのキャリア教育にいかなる課題があり、どのような解決策を講じていけばよいのかについて述べる。

分析に用いるデータは、「総合的実態調査」の「高等学校・卒業者調査」（回収数：1,169通）のデータである。

「高等学校・卒業者調査」に回答した1,169名のうち、高等学校時代の学科と卒業1年目の状況がわかる回答者は1,099名であった。回答者の高等学校時代の学科と卒業1年目の状況は、表1のとおりである。

表1 回答者の高等学校時代の学科と卒業1年目の状況

		卒業1年目の状況						
		在学中・進学準備中		就労中・求職中			その他	
		学校に在学している	進学に向けて準備している	仕事（定職）に就いている	仕事（アルバイト・パート）に就いている	仕事に就いておらず、求職中である	家業・家事に従事している	その他
高校時代の学科	普通科	498	59	26	0	1	1	3
	職業に関する専門学科	172	1	237	5	1	0	0
	総合学科	70	2	21	2	0	0	0
	合計	740	62	284	7	2	1	3
		合計						
		1,099						

2. 職業生活上の困難を乗り越えるための知識の学習

まず、誰が高等学校時代に職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学んだのかという点について検討していく。「高等学校・卒業者調査」の中から、「将来の生き方や進路を考える上で役に立った学習や指導」のうち職業生活上の困難を乗り越えるための知識の学習だと考えられる三つの項目を取り上げ、それらを「学んだ」と回答した割合（注1）を高等学校時代の学科別に並べた（図1）。図1からは、普通科出身者が、職業に関する専門学科や総合学科の出身者と比べて、どの項目でも「学んだ」と回答した割合が15ポイント以上低いということがわかる。この結果からは、普通科出身者は、職業に関する専門学科や総合学科の出身者に比べて、職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学習しないまま高等学校を卒業していく者が多い傾向にあるということがわかる。

こうした傾向は、卒業1年目の状況が在学中・進学準備中の場合でも、就労中・求職中の場合でもほぼ同様である（図2）。まず、在学中・進学準備中の場合、普通科出身者は、職業に関する専門学科や総合学科の出身者に比べて、どの項目でも「学んだ」と回答した割合が10ポイント以上低い。また、就労中・求職中の場合には、上の二つの項目について

は、普通科出身者は職業に関する専門学科や総合学科の出身者に比べて、「学んだ」と回答した割合が5ポイント以上低い。

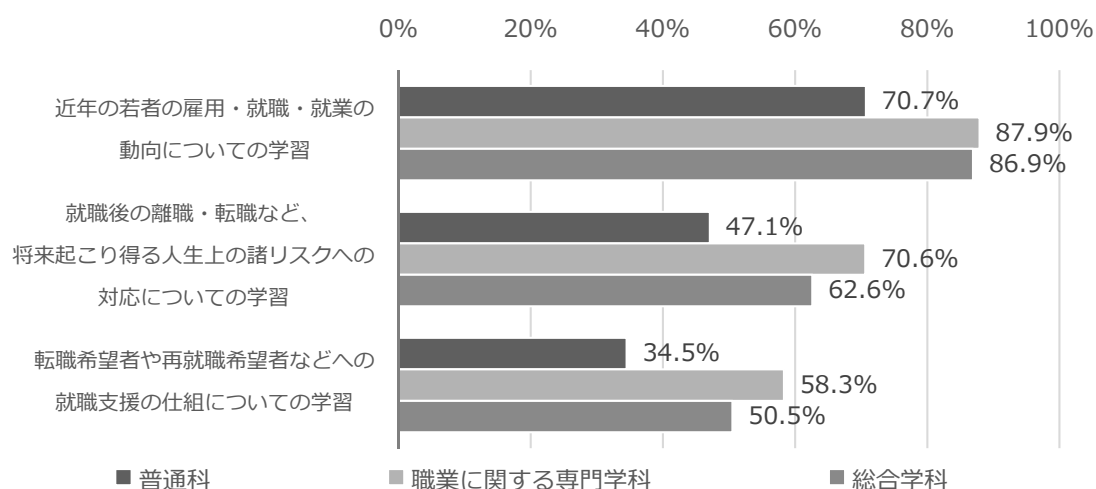


図1 職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学んだ割合（高等学校時代の学科別）

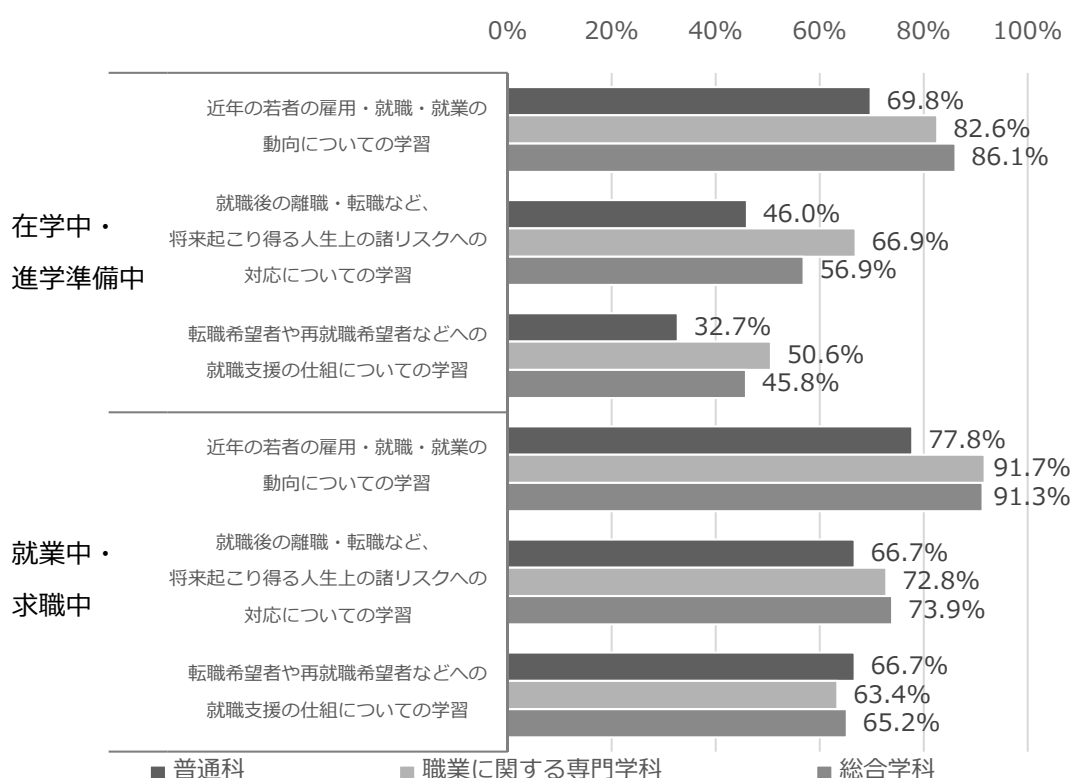


図2 職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学んだ割合（高等学校時代の学科別・卒業1年目の状況別）

なお、図2からは、就業中・求職中の回答者が、在学中・進学準備中の回答者に比べて、どの項目でも職業生活上の困難を乗り越えるための知識について「学んだ」と回答している割合が高い傾向にあることもわかる。このことから、進学希望者に比べて、就職希望者では、職業生活上の困難を乗り越えるための知識について学習する機会が得られている傾向にあることがうかがえる。

一方で、裏を返せば、進学希望者（特に普通科出身の進学希望者）は、職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学習しないまま、高等学校を卒業していくことになる。彼ら／彼女らの中には、進学した学校を中途退学する者も一定数いるはずである。彼ら／彼女らの多くは、職業生活上の困難を乗り越えるための知識を身に付ける機会がないまま、就業を目指すことになると考えられる。

3. 学校から情報提供を受けた職業生活に関する相談機関

次に、誰が職業生活に関する相談機関について学校から情報提供を受けた（受けなかった）のかという点について検討していく。卒業生調査について、「困難な問題が起こったときに相談できる学校から情報提供を受けた機関」のうち職業生活に関する相談機関についての6項目を取り上げ、各項目を選択した回答者と6項目いずれも選択しなかった回答者の割合を高等学校時代の学科別に並べた（図3）。

図3からは、まず、どの学科の卒業生においても、高等学校時代に各相談機関について情報提供を受けていない者が圧倒的多数だということがわかる。六つの相談機関をいずれも選択していない回答者は、どの学科でも6割を超えている。なかでも普通科出身者に関しては、職業に関する専門学科や総合学科の出身者に比べ、上記の六つの相談機関をいずれも選択していない回答者の割合が10ポイント以上高い。このことから、普通科では特に職業生活に関する各相談機関の情報提供がなされない傾向にあることがうかがえる。

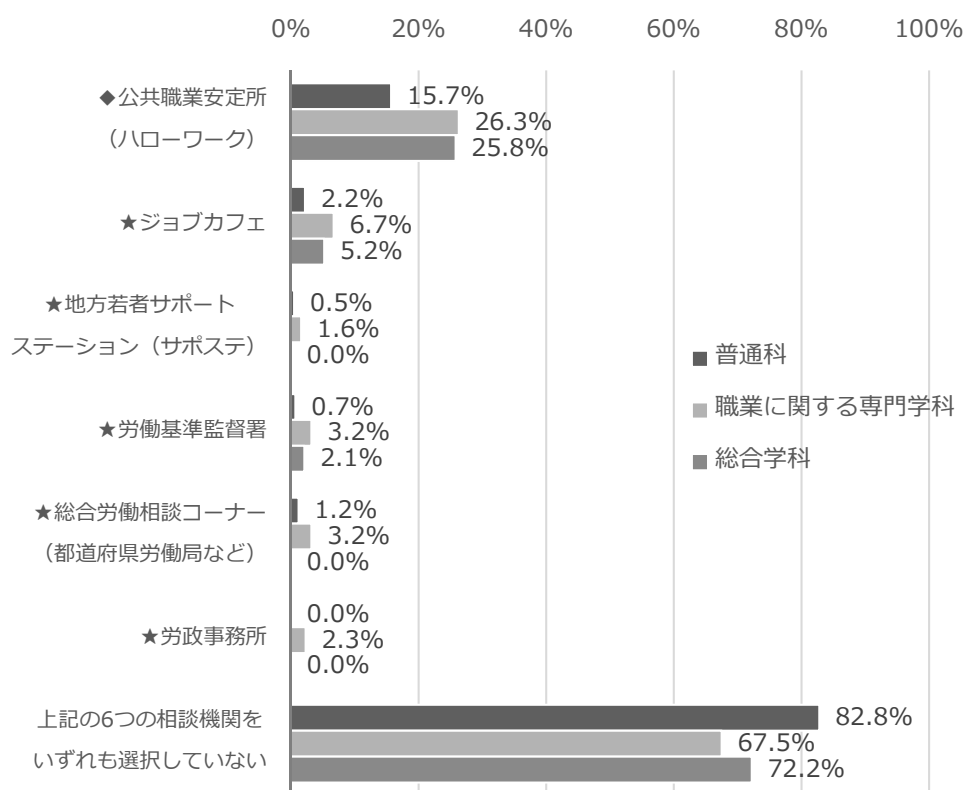


図3 職業生活に関する各相談機関の情報提供を受けた割合（高等学校時代の学科別）

図4は、図3で見られた傾向が、在学中・進学準備中の回答者と就労中・求職中の回答者に分けるとどうなるのかについて確認したものである。図4では、図3で挙げた六つの

相談機関のうち、公共職業安定所（ハローワーク）（◆）と、それ以外の五つの相談機関（★）に分け、後者（★）については五つの相談機関のうち一つ以上を選択した割合を示している。

在学中・進学準備中の回答者については、図3と同様、特に普通科出身者で職業生活に関する各相談機関の情報提供がなされなかったという傾向が見いだせる。一方で、就業中・求職中の回答者については、若干傾向が異なる。公共職業安定所（ハローワーク）以外の各相談機関については、図3と同様、普通科出身者では情報提供がなされていない傾向にある。しかし、公共職業安定所（ハローワーク）に関しては、普通科と総合学科の出身者が、職業に関する専門学科の出身者に比べ、むしろ情報提供を受けている傾向にある。

職業に関する専門学科では、信頼関係に基づいて長年にわたり生徒を継続して就職させている企業（「実績関係」がある企業）が数多く存在する場合も少なくない。しかし、普通科や総合学科では、そうした企業との「実績関係」が少ない傾向にあり、就職希望の生徒は公共職業安定所（ハローワーク）を積極的に活用する必要がある。普通科・総合学科出身で就業中・求職中の卒業生たちが、高等学校で公共職業安定所（ハローワーク）の情報提供を受ける傾向にある背景には、そうした事情があると考えられる。

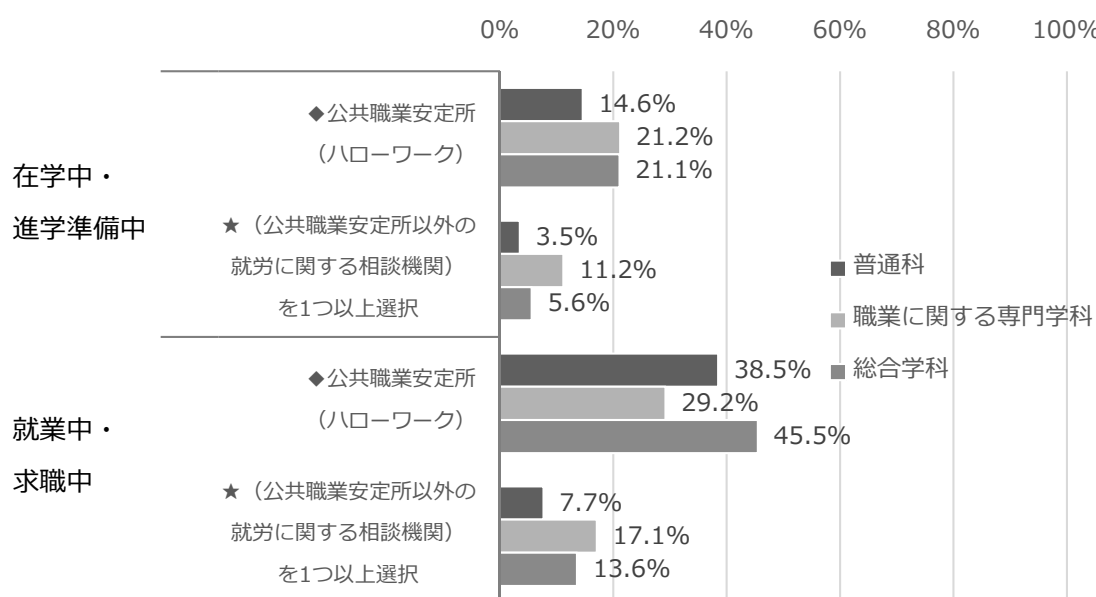


図4 職業生活に関する各相談機関の情報提供を受けた割合
(高等学校時代の学科別・卒業1年目の状況別)

4. 職業生活に関する相談機関の活用意思

最後に、誰が職業生活上で困難な問題が起こったときに相談機関を活用しようとする（しない）のかという点について検討していく。「卒業生調査」の「学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったときの対応」の項目について、各選択肢（一つだけ選択）が選択された割合を、就業中・求職中の対象者に限定して示した（図5）（注2）。

図5からは、どの学科の出身者においても、問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っているので活用すると回答した者は圧倒的少数であるということがわかる。職業に関する専門学科の出身者は、普通科や総合学科の出身者よりは若干割合は高い

が、それでも 11.2%にすぎない。職業生活上で困難な問題が起こったときに相談機関を活用しようと考えようになるための指導は、どの学科においても課題であるといえる。

ところで、就業者・求職中の対象者のうち一定数は、高等学校時代に公共職業安定所（ハローワーク）の情報提供を受けていたはずである。しかし、図 6 からは、公共職業安定所（ハローワーク）の情報提供が職業生活上で困難な問題が起こったときの相談機関の活用につながらない様子もうかがえる。公共職業安定所（ハローワーク）の情報提供を受けた回答者と受けなかった回答者の間で、問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っているのかで活用すると回答する割合には、ほとんど差が見られなかった。このことから、高等学校で就職希望者に提供される公共職業安定所（ハローワーク）の情報が主に「高卒就職」に関するものであり、卒業後の転職・再就職の際に活用できる場であるという情報が彼ら／彼女らに十分に伝わっていないということも予想される。

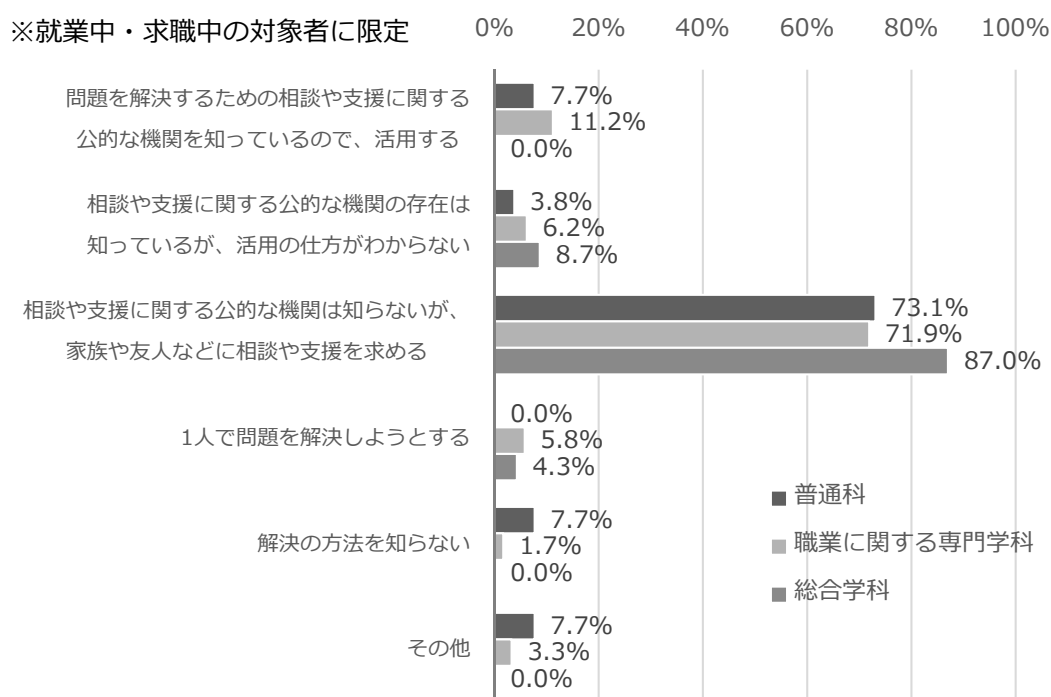


図 5 働くことが困難な問題が起こったときの対応（就業者・求職中の対象者に限定）

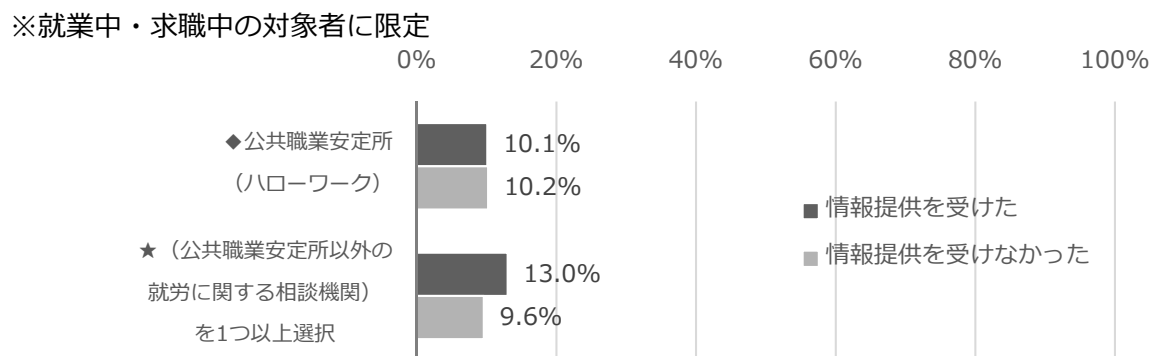


図 6 働くことが困難な問題が起こったときに相談機関を活用する割合（各相談機関の情報提供の有無別，就業者・求職中の対象者に限定）

5. まとめと考察

以上の分析結果からは、まず、普通科出身者は、職業に関する専門学科や総合学科の出身者に比べて、職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学習しないまま高等学校を卒業する者が多い傾向にあることがわかった。一方で、職業生活に関する各相談機関については、公共職業安定所（ハローワーク）を除いては、どの学科の出身者もほとんど情報提供を受けていないということがわかった。さらに、職業生活上で困難が起こったときに相談機関を活用するという意志をもつ者も、どの出身学科においても圧倒的少数であるということも見いだせた。

今後の課題と解決策について述べると、普通科では、職業生活上の困難を乗り越えるための知識を授業の中で提供するという意識が、まずは必要であるだろう。一方で、普通科に限らず、職業に関する専門学科や総合学科にも共通する課題として、職業生活に関する各相談機関の情報を提供し、実際に活用するところまでつなげるという点が挙げられる。図6を改めて確認すると、公共職業安定所（ハローワーク）以外の相談機関の情報提供を受けた回答者は、情報提供を受けなかった回答者に比べて、若干（3.4ポイント）の差はあるが、相談機関を活用すると回答している傾向にある。各相談機関の特徴や役割について、公共職業安定所（ハローワーク）の転職・再就職に関する役割も含め、授業の中で丁寧に伝えていくことが、職業生活上の困難が起こったときに相談機関を活用するという卒業生たちの行動につながるのではないかと考えられる。

（注1） 「役に立った」「少しは役に立った」「役に立たなかった」の割合を合計したものを、「学んだ」と回答した割合としている。

（注2） 就業中・求職中の対象者に限定したのは、在学中・進学準備中の回答者の場合、多くは学ぶことが困難な問題が起こったときの対応について回答すると予想されるためである。

第2部：キャリア教育はどのように推進され、どのように変容・成長を促しているのか

解説

第2部は、キャリア教育の方法に関することを扱ったテーマと、キャリア教育で育てる能力を扱ったテーマを収めている。

第1部の知見を改めて思い起こすと、学校で得た知識及びその有用性を感じ取れたかが、その後の行動を変えうることがうかがわれる。知識にかぎらず、教育活動を通して身に付けさせた力がその後の行動の基盤になることは、自明なことかもしれないが、決して強調しすぎることはない重要な点である。ましてや、将来の社会的・職業的自立に必要な力を育むキャリア教育においては、現在の力がその後の行動の基盤となることは目指すところでもある。

このように考えてくると、キャリア教育をどのように進めていけばよいのか、キャリア教育を通じてその後の自立に必要な能力をどのように育んでいけるのか、という視点は、極めて重要なものの一つである。

そこで、下記の五つの章を設定した。

第4章は「小学校で「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育てるには」である。小学校段階においては、進路指導の蓄積がないために、キャリア教育に相当する既存の活動をキャリア教育として整理し、取り組み始めてからそれほど時間がたったわけでもない。育む能力についても、よく指導されているものも、相対的に指導されていないものもある。これを生み出す背景と今後の展開について、分析・考察した。

第5章は「キャリア教育における『卒業生の体験発表会』の意義」である。キャリアモデルを考えさせるきっかけとして、社会人や職業人の話を聞く経験や上級学校等の体験をすることがあるが、自分と近い経験をしている自校の卒業生に話を聞くということが持つ積極的な意義を考察している。

第6章は「インターンシップにおける事前指導・事後指導の影響」である。体験活動における事前指導・事後指導の重要性は繰り返し指摘されてきた。事前指導・事後指導を行うことで、インターンシップのみの場合と基礎的・汎用的能力の伸びがどのように異なるのかを解説している。

第7章は「高等学校における基礎的・汎用的能力と生徒の学習意欲」である。キャリア教育が学習意欲の向上に寄与することが各所で述べられてきた。学習意欲の向上を説明する図式の一つとして、キャリア教育を通じて育まれる能力である基礎的・汎用的能力の高低が学習意欲に結び付くかを検討している。

第8章は「『キャリアプランニング能力』とキャリア教育諸活動との関連」である。基礎的・汎用的能力の表れである具体的な行動に着目することを試みた。あることができるようになったという認識が必ずしも一貫するわけではないという結果から、個々人の能力等が様々な経験によって揺れ動くことについて議論を提起している。

第2部各章の知見を抜粋し、下記にまとめている(「知見の概要」で掲載したものの再掲)。いずれの章も確認してもらいたいが、特に関心と呼ぶ記述があれば、その章から読み進めるのもよいだろう。詳細は各章の記述に当たっていただきたい。

第4章 小学校で「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育てるには(33-38 ページ)

- ・ 小学校のキャリア教育では「課題対応能力」と「キャリアプランニング能力」の育成に向けた指導に重点が置かれにくい。
- ・ これらの指導が不十分になりがちな理由としては、教員たちがキャリア教育に関する指導の方法や内容についてどうしたらいいかわからないという点がある。
- ・ そして、これらの指導を充実させるには、校内外の研修や授業研究会への参加が有効であることがうかがえるため、これらに参加できるような仕組みを整えることが重要である。

第5章 キャリア教育における「卒業生の体験発表会」の意義(39-43 ページ)

- ・ 「卒業生の体験発表会」を実施している中学校は3割にとどまるが、26.7%の卒業生(第2位)が実施してほしかったと回答している。
- ・ 「卒業生の体験発表会」の意義は、同じ学校出身の先輩との交流を通して、生きた情報に触れ、自分の進路について考えることにある。
- ・ 卒業生は「卒業生の体験発表会」において、特に「高等学校など上級学校の教育内容や特色」、「卒業後の進路(進学や就職)についての相談の方法や内容」、「高等学校などの上級学校や企業への合格・採用の可能性」などを知りたいと考えている。

第6章 インターンシップにおける事前指導・事後指導の影響(44-49 ページ)

- ・ インターンシップ経験は生徒の基礎的・汎用的能力を高めることに寄与する。
- ・ 事前指導については、「就業体験の目的を確認するための指導」が多く行われており61.8%であった。事後指導については、「報告書・レポートの作成」が最も多く、70.6%であった。教科と関連付けた指導は行われていない。
- ・ インターンシップ経験が生徒の基礎的・汎用的能力を高めることに対して、事前指導・事後指導が関連を持つことがうかがわれる。
- ・ 事前指導・事後指導が、その学校で行うインターンシップにとって必要な取組になっているかという視点から点検し、重点化を図ることが重要である。

第7章 高等学校における基礎的・汎用的能力と生徒の学習意欲(50-56 ページ)

- ・ 「基礎的・汎用的能力」が高い生徒は、「学習意欲」が高い。より厳密には、「基礎的・汎用的能力」の自己評価が高い生徒は低い生徒よりも、約15ポイント～約20ポイント以上の差で「家での学習に積極的に取り組んでいる」。
- ・ 「学習意欲」が最も低下する2年生前半の時期であっても、「基礎的・汎用的能力」の自己評価が高い生徒は低い生徒よりも、「家での学習に積極的に取り組んでいる」の項目に「あてはまる」と答える割合が約8倍～約10倍高い。

第8章 「キャリアプランニング能力」とキャリア教育諸活動との関連（57-63 ページ）

- ・ キャリアプランニング能力を身に付ける者の割合は高等学校生活の進行とともに高まり、高等学校生活に関する意識・態度の高まりとも関わっている。
- ・ 一方、個人に着目すると、「職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」に対する答えは、調査時期によって揺れ動いている。
- ・ 「キャリアプラン等の作成」「上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会」「卒業生による講演・体験発表会・懇談会」は、第1学年で行われると「職業・働き方についての情報源の理解」に寄与する。「キャリア・ポートフォリオの作成・活用」は学年を通して、また特に第3学年において「職業・働き方についての情報源の理解」に寄与する。

第4章 小学校で「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育てるには

1. はじめに

進路指導が中学校・高等学校などの中等教育諸学校における教育活動として位置付けられてきたのに対し、キャリア教育は、幼児期の教育から高等教育・継続教育までを一貫する教育活動として構想されてきた。そのため、現在の小学校教員には、キャリア教育の担い手としての役割が期待されている。

しかし、進路指導に取り組んできたという蓄積がある中学校・高等学校に比べ、小学校でのキャリア教育の実践は取り組まれ出してからそれほど時間がたったわけではなく、その指導状況にある種の「偏り」が生じている。「基礎的・汎用的能力」と照らし合わせて述べると、現在の小学校のキャリア教育では、「人間関係形成・社会形成能力」や「自己理解・自己管理能力」を育成しようとする授業・指導に比べて、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成に向けた取組はやや不十分であるといえる。「総合的実態調査」に基づく『第一次報告書』では、小学校6年生の学級担任が「よく指導している」こととして挙げる割合について、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」に関する項目では高く、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に関する項目では低いということを指摘している（『第一次報告書』14ページ）。

では、小学校でのキャリア教育の指導状況には、なぜこのような偏りが出てしまうのだろうか。また、そうした指導状況の偏りを克服していくためには、どのような手立てが必要になるのだろうか。

本章ではこれらの内容について、「総合的実態調査」の分析を行う。分析に用いるデータは、小学校を対象とした(A)「学校調査」(回収数：995通)、(B)「学級担任調査」(回収数：1,681通)、(C)「保護者調査」(回収数：4,008通)の3種類の調査である。

2. 小学校でのキャリア教育の指導状況

『第一次報告書』にもあるように、「キャリア教育を行う上で重点をおいて指導していること」の中で、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に関する項目を「よく指導している」と回答している小学校6年生の学級担任の割合は、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」に関する項目に比べて少ない傾向にある（図1）。

これらの指導状況の偏りは、保護者のニーズに応えた結果というわけではない。「保護者調査」では、同様の質問項目を用いて、保護者にそれぞれの項目についてどの程度指導してほしいかについて尋ねている。図1は、学級担任が「よく指導している」と回答した割合と、保護者が「重点をおいて指導してほしいと思う」と回答した割合を縦に並べたものである。図1からは、保護者が「人間関係形成・社会形成能力」の育成に向けた指導を強く期待するだけでなく、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」についても、「自己理解・自己管理能力」とほぼ同様に重点をおいて指導してほしいと考えている様子がうかがえる。そのため、特に「課題対応能力」と「キャリアプランニング能力」で、学級担任の指導状況と保護者の指導へのニーズにズレがあることが見いだせる。

なお、「学校調査」からも、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成に向けた授業・指導が不十分になりがちである様子がうかがえる。各学校での「基礎的・汎用的

能力」の育成に向けた授業・指導の実施率を、低学年・中学年・高学年にわけて示した（図2）。「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成に関する授業・指導は、特に低学年・中学年で、指導に取り組まれていない傾向がある。

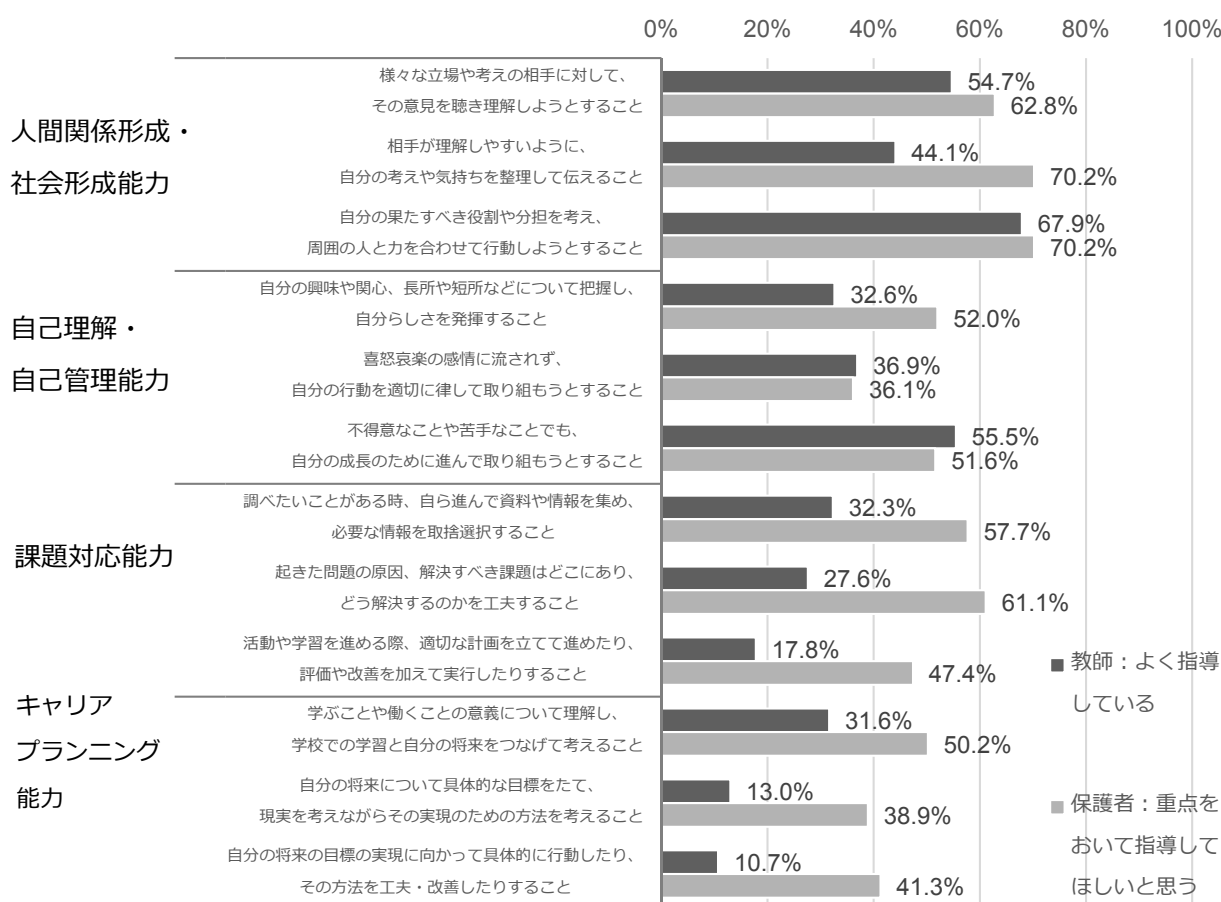


図1 学級担任の指導状況と保護者の指導へのニーズ

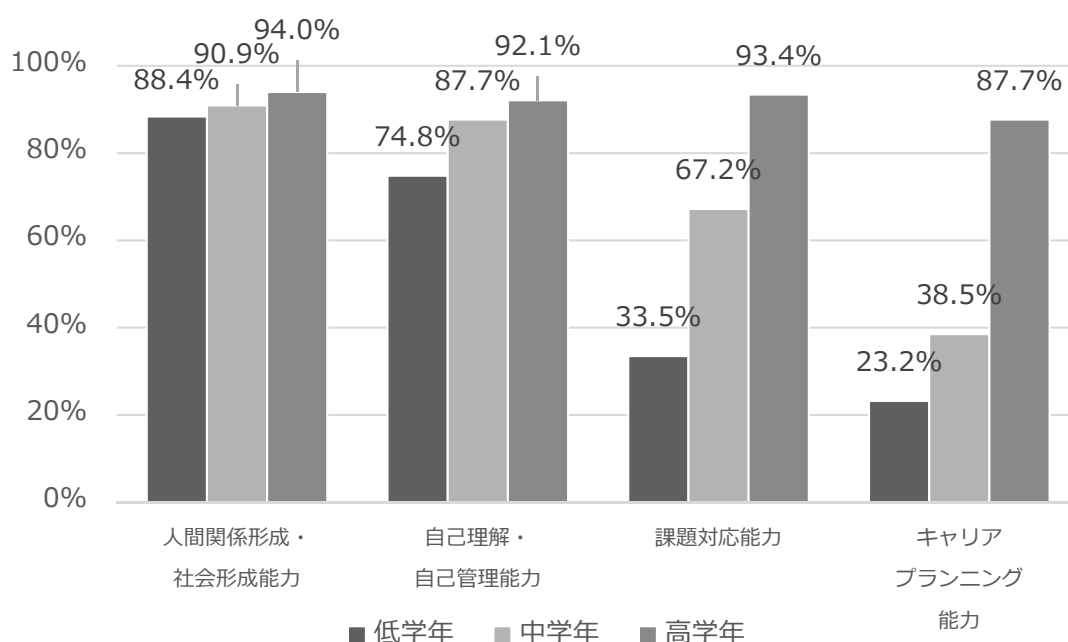


図2 「基礎的・汎用的能力」の育成に関する授業・指導の実施率

3. 「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に関する指導が不十分になる背景

では、なぜ小学校でのキャリア教育では、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成に向けた指導が不十分になりがちなのだろうか。その理由として、授業の実施者である教師たちが、指導の内容や方法をどのようにしたらよいかわからないという点があると考えられる。

「学級担任調査」に関して、図1で挙げた「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況についての六つの質問項目と、「学級のキャリア教育について困ったり悩んだりしていること」に関する質問項目（9項目）の回答結果について、その関連の強さを確認した（詳細は参考資料付表4－5を参照）。その結果、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況についての六つの質問項目と最も強い関連が見られたのが、「指導の内容・方法をどのようにしたらよいかわからない」という質問項目であった（図3）。

図3から確認できるとおり、「指導の内容・方法をどのようにしたらよいかわからない」を選択している学級担任は、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に関して「よく指導している」と回答していない傾向にある。図3の結果からは、小学校教員たちは「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育成するための指導の内容や方法がわからないからこそ、それらの育成に積極的に取り組めていないということが予想される。

一方で、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成に積極的に取り組んでいるのはどのような教員なのだろうか。図3の分析結果からは、それらの育成に関する指導の内容や方法がわかっている教員だということが考えられる。そして、図4・図5からは、キャリア教育の実践について学ぶ機会が、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成に関する指導につながっているという様子が見いだせる。

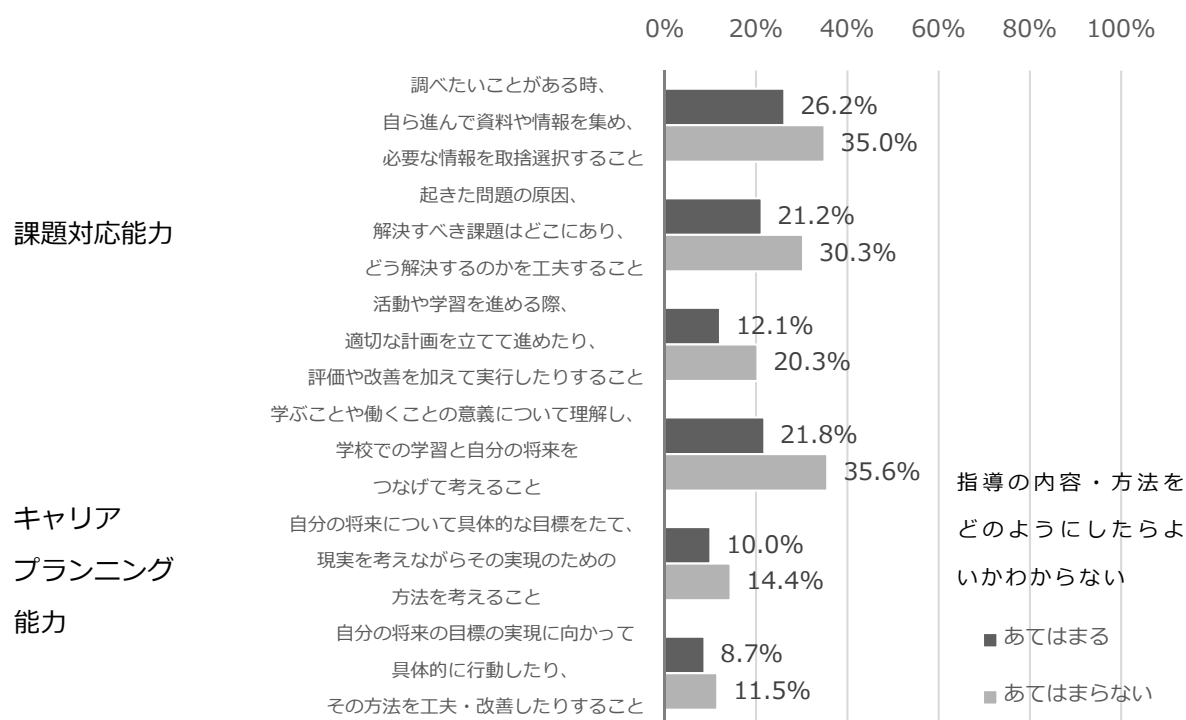


図3 「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況と「指導の内容・方法をどのようにしたらよいかわからない」との関連

「学級担任調査」について、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況についての六つの質問項目と、「今年度参加した（参加予定がある）校内研修会」「学校外における研修等への参加状況」について尋ねた質問項目（計6項目）の回答結果について、その関連の強さを確認した^{（注1）}。その結果、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況についての六つの質問項目と特に強い関連が見られたのは、「（校内での）キャリア教育の授業実践に関する研修」と「ほかの小学校のキャリア教育に関する授業研究会」への参加の有無を尋ねた質問項目であった（図4・図5）。

図4から確認できるように、校内でキャリア教育の授業実践に関する研修を受けた教員（受ける予定がある教員も含む）は、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に関して「よく指導している」と回答している傾向にある。また、図5から確認できるように、過去5年間にほかの小学校でのキャリア教育に関する授業研究会に参加した教員も、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に関して「よく指導している」と回答している傾向にある。図4・図5からは、校内外でのキャリア教育の実践に関する研修・授業研究会に参加することができれば、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成に向けた指導の内容や方法を習得でき、指導に積極的に取り組めるようになるということが予想される^{（注2）}。

ただし、こうした学びの機会を得ていた教員は少数派である。当該年度にキャリア教育の授業実践に関する研修に参加した（あるいは参加予定の）教員は14.8%、過去5年間にほかの小学校のキャリア教育に関する授業研究会に参加した教員は13.6%しかいなかった。

校内外での研修や授業研究会に参加する機会をどのように作り出していくのかについては、今後の課題であるだろう。

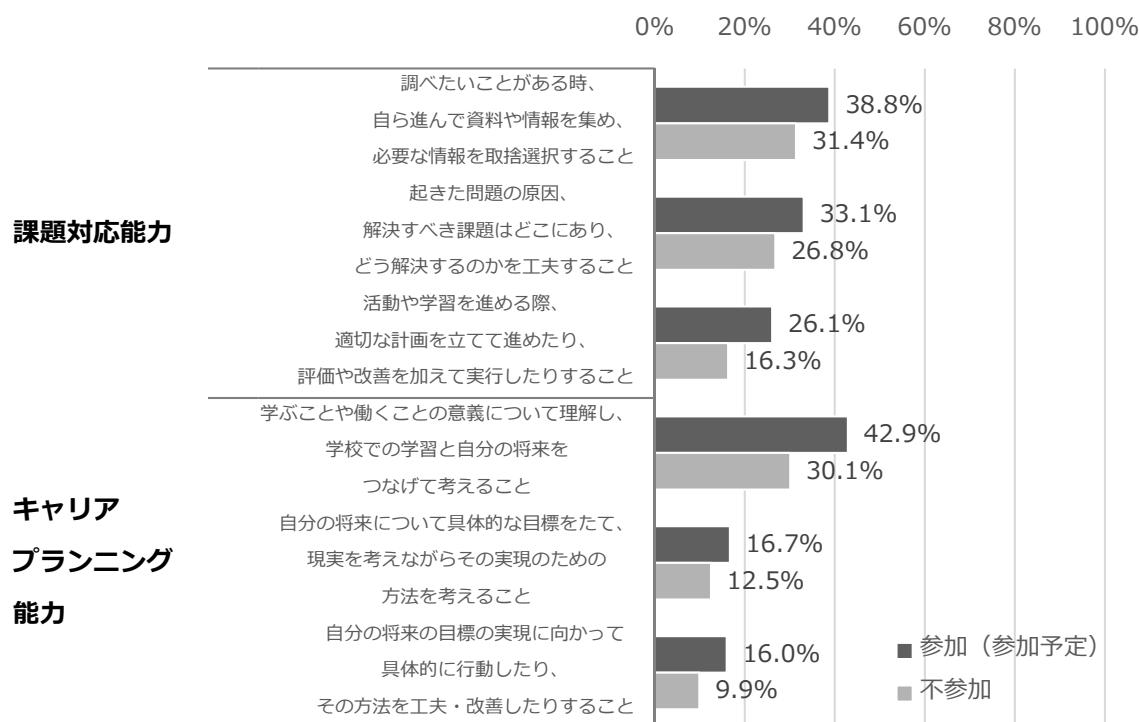


図4 「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況とキャリア教育の授業実践に関する校内研修への参加との関連

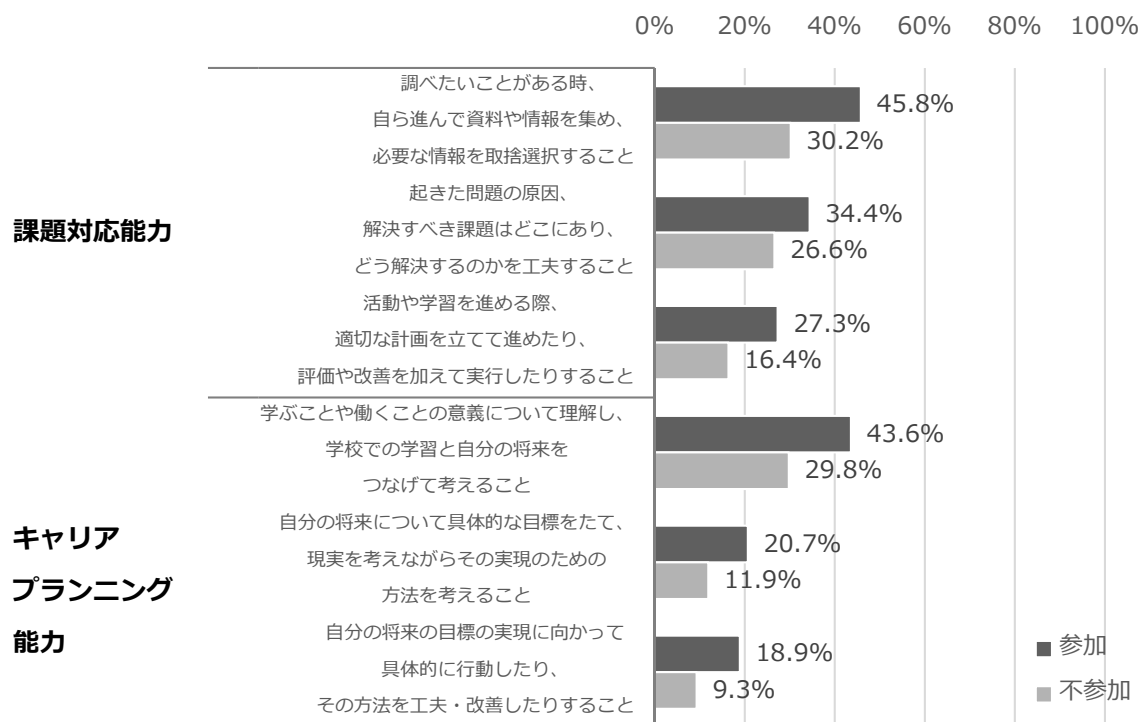


図5 「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況とほかの小学校のキャリア教育に関する授業研究会への参加との関連

4. まとめと考察

以上の分析結果からは、小学校のキャリア教育では「課題対応能力」と「キャリアプランニング能力」の育成に向けた指導に重点が置かれにくい様子が見られた。これらの指導が不十分になりがちな理由としては、教員たちが指導の方法や内容についてどうしたらいいかわからないという点があることが見いだせた。そして、これらの指導を充実させるには、校内外の研修や授業研究会への参加が有効であることがうかがえた。

ただし、キャリア教育の実践に関する校内外の研修・授業研究会に参加した教員は少数派であった。この点については、近年の教員の多忙化の中で、キャリア教育に関する研修の実施や、校外の授業研究会への参加にまで、手が回らないというのが現状なのではないだろうか。

各小学校教員によるキャリア教育の創意工夫を支えていくためには、各教員の時間の余裕をなるべく奪わない形で、校内外での研修や授業研究会に参加できるような仕組みを整える必要がある。教員に時間のゆとりを作ることこそがキャリア教育の推進には重要であるということを、押さえておくべきだろう。

(注1) 詳しくは参考資料欄の付表4－6を参照のこと。

(注2) 他校の授業研究会への参加については、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」についてよく指導しているような熱心な先生だから、他校の授業研究会に参加しているだけなのではないかという、逆の関連性を予想することもできる。しかし、その場合でも、他校の授業研究会に参加することで、「課題対応能力」

「キャリアプランニング能力」について指導できるようになり，更に他校の授業研究会に参加する熱意がわき……というように，授業研究会への参加と指導の充実は連鎖の関係にあるのではないかと考えられる。

第5章 キャリア教育における「卒業生の体験発表会」の意義

1. 異校種間連携と卒業生との交流

発達段階に応じた継続的かつ体系的なキャリア教育を実現し、児童生徒の学校間の移行に連続性をもたせるための方策の一つとして、異校種間連携がある。連携の効果には、生徒に対する効果と学校・教職員に対する効果があるが、前者については「進学する学校についての情報を収集することで、不安が解消され、新しい生活環境に対して円滑に適応」できること、「将来についての視野が広がり、学習意欲の向上や生活全般の向上につながる」こと、年長者と「交流をもつことでよりよい育成につながる」ことなどが期待されている（注1）。

実際、「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」（以下「総合的実態調査」）の「中学校調査」の結果によると、「高等学校等の体験入学や学校紹介など、上級学校に関わる体験活動を取り入れること」を重視してキャリア教育の計画を立てている中学校は75.2%であり、実際に何らかの形で「高等学校などの上級学校」と連携している中学校も69.3%に達する。一方で、取組内容によって差が見られることも事実である。すなわち、「高等学校など上級学校への訪問や見学、体験入学、学校説明会」を実施しているのは97.3%、「高等学校など上級学校の関係者を招いて行う学校説明会」を実施しているのは76.8%であるのに対して、「卒業生（高校生など）による体験発表会」を実施しているのは、わずか30.4%にすぎない。「社会人による生き方や進路に関する講話・講演」の実施が68.2%であることを考えると、先輩と対話する機会よりも、比較的年齢の離れた職業人による講話が優先されている状況である。

しかしながら、「総合的実態調査」の「中学校・卒業者調査」によると、「将来の生き方や進路について考えるために実施してほしかった体験活動」として、「卒業生の体験発表会」は26.7%と第2位を占めており、「社会人や職業人の講演・講話」（17.9%）や「高等学校など上級学校の先生の講話・講演」（14.9%）よりも高くなっている。なお、ここでいう「卒業生」がどのような年齢であるかは定かではないが、「社会人」が別の選択肢として設定されていることを考えると、高校生あるいは大学生が中心であると考えられる。以下では、中学生が卒業生（先輩）との交流を通じて何を望んでいるか、詳しく分析する。

2. 「卒業生の体験発表会」に関する分析

まず、「中学校・卒業者調査」における「将来の生き方や進路について考えるために指導してほしかったこと」について、「卒業生の体験発表会」を実施してほしかったと回答した者と「それ以外」の比較を行った（図1）。前者は後者に比べて、「高等学校など上級学校の教育内容や特色」（16.4ポイント差）、「卒業後の進路（進学や就職）についての相談の方法や内容」（12.5ポイント差）、「高等学校などの上級学校や企業への合格・採用の可能性」（10.7ポイント差）、「卒業後の進路（進学や就職）選択の考え方や方法」（10.4ポイント差）、「将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計」（10.2ポイント差）など多くの項目で、指導を望む者の割合が高くなっている。

ただし、こうした指導が得られる体験活動は、「卒業生の体験発表会」だけではないと考えられる。そこで、先の比較でポイント差の大きかった上位5項目について、「高等学校な

ど上級学校への訪問や見学，体験入学，学校説明会」及び「社会人や職業人の講演・講話」の希望者との比較を行った（図2）。3者の中で，「卒業生の体験発表会」の希望者が最も高かった項目はなかった。一方で，「高等学校など上級学校への訪問や見学，体験入学，学校説明会」の希望者は，「高等学校など上級学校の教育内容や特色」（53.4%）や「高等学校などの上級学校や企業への合格・採用の可能性」（35.4%）の割合が最も高く，また「社会人や職業人の講演・講話」の希望者は「将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計」（37.9%）の割合が最も高い結果となった。

したがって，「卒業生の体験発表会」に対するニーズは，進路情報を入手することだけにとどまるものではない。例えば，上級学校に関する知識を獲得するだけであれば，上級学校訪問や体験入学等で代替可能な場合もあるし，社会人としてのマナーを知るだけであれば，職業人の講話の方が効果的である場合もある。そうではなく，飽くまで同じ学校出身の「卒業生」との交流を通して生き方を考えることに，この活動の意義があると思われる。

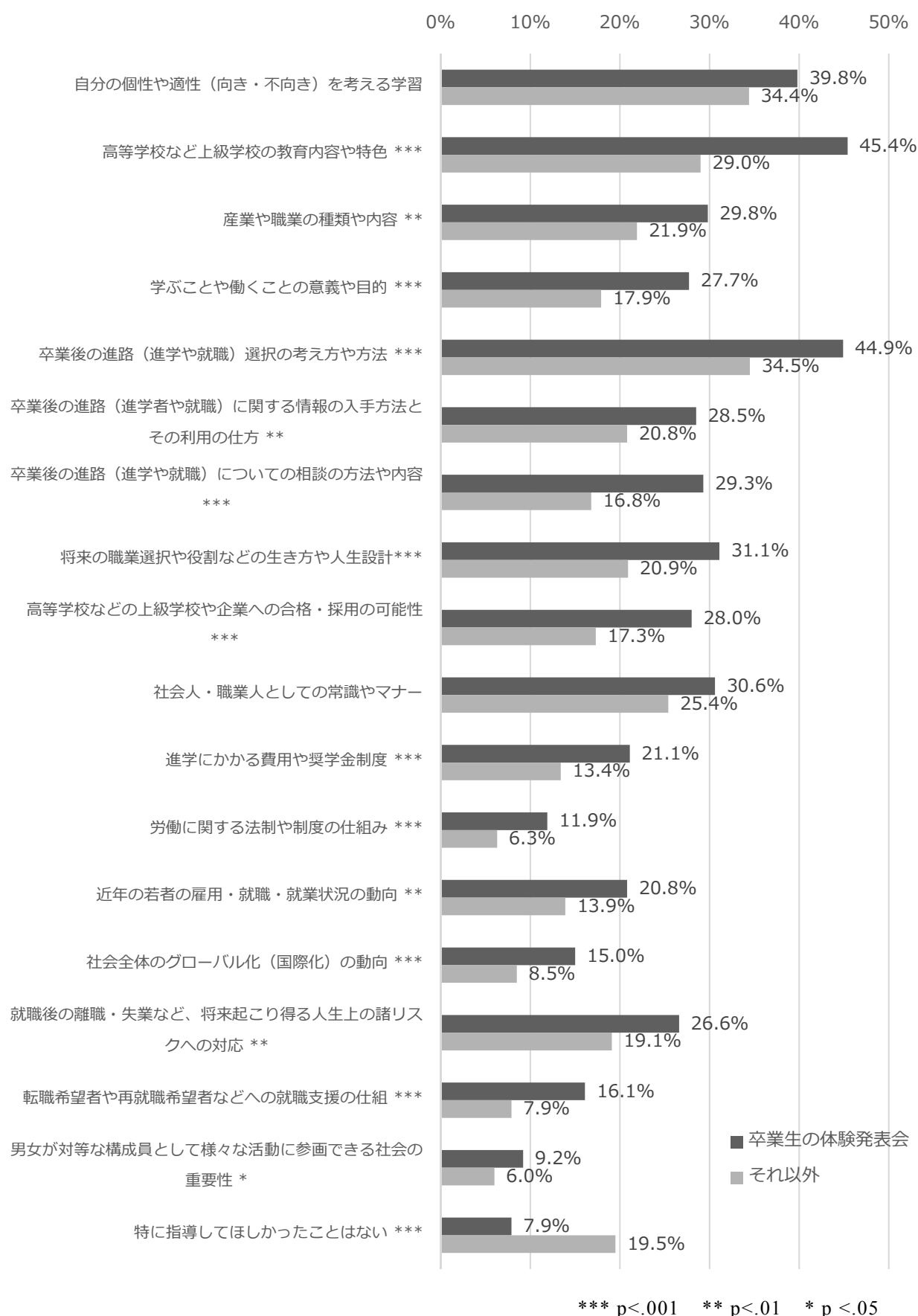


図1 「卒業生の体験発表会」を希望する卒業生が「将来の生き方や進路について考えるために指導してほしかったこと」

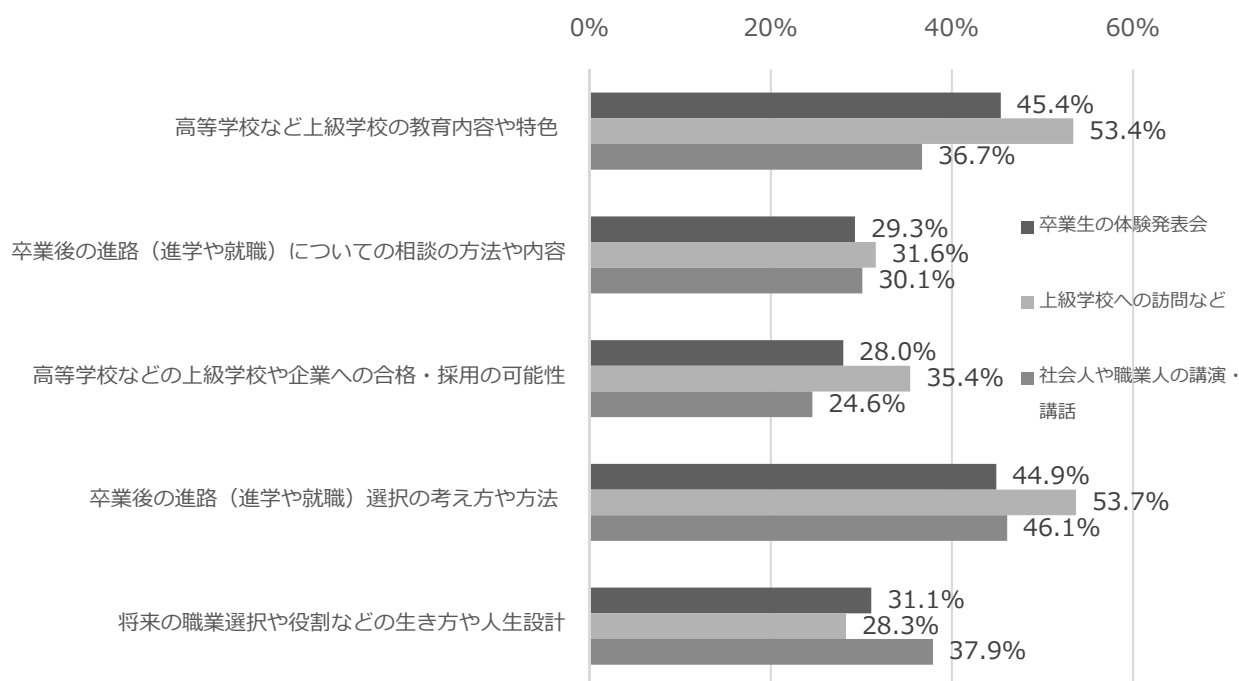


図2 「将来の生き方や進路について考えるために指導してほしかったこと」についての3者間比較

3. 分析結果から示唆される課題と可能性

分析の結果からは、子供たちは年齢の離れた上級学校教員や社会人（職業人）の講話だけでなく、比較的年齢が近い卒業生とのコミュニケーションを望んでいることが示唆される。生徒にとって、同じ中学校出身の先輩は自分たちと類似の経験をしており、生きた情報を提供してくれるため^(注2)、キャリアモデルになりやすい。すなわち、上級学校の教育内容や特色、卒業後の進路についての相談の方法と内容、上級学校や企業への合格・採用の可能性、卒業後の進路選択の考え方や方法、生き方や人生設計、などについて卒業生から学ぶことで、それを効果的に内面化できるのではないだろうか。特に高校生を招く場合、中学生と在学期間中が重なっている「顔見知り」の卒業生（例えば、中学校3年生を対象に実施する場合、高等学校1年生ないしは2年生）に依頼することで、親近感がより一層高まる可能性もある。既に69.3%の学校が「高等学校などの上級学校」と連携していることを考えると、この連携の一つとして「卒業生の体験発表会」を実施するハードルはそう高くないと推察される上に、今後更なる質的充実も期待できる。

最後に、体験発表会の在り方について若干の提案を試みたい^(注3)。まず、生徒からみて魅力的なモデルというのは、個々人の特質や人間関係によって異なる。さらに、生徒にとって適切なキャリアモデルは、本人がどのような進路や生き方を志向しているかにもかかわっており、極めて多様であろう。したがって、体験発表する卒業生を選択する際には、生徒集団の特性やニーズを踏まえることが重要である。可能ならば、場合によっては進路等の異なる複数人に依頼し、幾つかのパターンを用意することも考えられるであろう。生徒は特定の一人をモデルとすることは決して多くはないだろう。多くの場合、複数の人間の様々な側面から影響を受けつつ、自分なりのビジョンを作り上げていくものと考えられる。その点からも、可能なかぎり、様々なモデルに触れる機会があることが望ましい。

さらに、事前と事後の学習も体験発表会の効果を高める^(注4)。体験前には、発表のどの部分に注意すべきかを生徒に意識させておく必要がある。また体験後には、振り返りの時間を設定し、体験の内容とそれを受けての思考過程を言語化することで、記憶を長期間にわたって保持することができる。

2011年に高校生を対象に行われたとある調査では、高校生の約7割が「目指している人やあこがれている人がいない」と回答している^(注5)。こうした状況にあって、中学生が身近な先輩を手掛かりにキャリアモデルを作り上げていくことの意義は小さくないであろう。モデルとなる目標としての人物がいることで、自己のキャリアに見通しをもつことができ、ひいては進路選択に向けた意欲を高めることにもつながるのではないだろうか。

(注1) 文部科学省 2011『中学校 キャリア教育推進の手引』教育出版。

(注2) このような類似した立場の人による支援は、「ピア・サポート」と呼ばれる。それは、「一般に、同じような経験をした人はよりよい関係を結ぶことができ、結果的により確実な共感や妥当な対応を提供できるとの事実」によって定義され、「同様の経験をした人たちは、互いに、専門家には提供できない、思いもよらない実質的な助言や示唆を与え合うことができる」とされる (Mead & MacNeil 2006 “Peer Support: What Makes It Unique?”, *International Journal of Psychosocial Rehabilitation*, 10 (2), pp.29-37)。

(注3) これらの提案は、Albert Bandura のモデリング理論から示唆を得ている (A.バンデューラ 1979『社会的学習理論』(原野広太郎監訳) 金子書房)。

(注4) 「卒業生の体験発表会」を直接取り扱っているわけではないが、体験活動による成長・変容と事前指導・事後指導の関係性については、次章の第6章で取り扱っている。

(注5) リクルート 2012『Career Guidance』No.40

第6章 インターンシップにおける事前指導・事後指導の影響

1. 普及してきたインターンシップ

就業体験活動（以下、インターンシップ）は、活動前までに学んできたことを働く場どのように活用できるのかを確認、実体験することができる重要な機会の一つである。また、それらの経験からその後の進路を考えるきっかけとしても意義がある活動であり、ひいては形成してきた職業観・勤労観や態度を更に変容・成長させる機会になりうるという意味でも、大切な活動として位置付けられる。

高等学校におけるインターンシップは、平成 17 年度の時点では 59.3%の公立高等学校（全日制・定時制）で実施されていたが、平成 26 年度の時点で実施率は 79.3%に上昇しており、普及してきている（注1）。

本報告書で分析に用いている「変容調査」に関しても、インターンシップの経験がある生徒の方が基礎的・汎用的能力が高いという結果が報告されている（注2）。

一方で、このような、大規模調査に基づいたインターンシップの効果が示される以前から、インターンシップを充実させるという目的に照らして、事前指導・事後指導の重要性が繰り返し指摘されてきた（注3）。これらの指摘は、インターンシップ経験が基礎的・汎用的能力に影響することが明らかになったからこそ、以前より重要性が増している。

そこで、本章では、基礎的・汎用的能力へのインターンシップの影響に対して、事前指導・事後指導がどのように関わりを持ちうるのかを検討する。具体的には、学校経由で実施されたインターンシップについて、事前指導・事後指導の有無別に、基礎的・汎用的能力の伸びに関して分析する（注4）。

分析に用いるデータは、「変容調査」の生徒調査のうち第4回及び第6回調査と、学校調査の第3回分である。生徒調査の第4回調査は第2学年の後半で、第6回調査は第3学年の後半で実施されている。また、学校調査の第3回は第3学年における実施状況を尋ねたものである。分析の対象を第3学年に焦点を絞る理由は、事前指導・事後指導に関する項目が利用できるのが第3回調査に限られるためである。本章では、学校として実施したインターンシップについて着目するため、インターンシップを実施していない学校においてインターンシップに行ったと回答した（すなわち、学校とは関係なく自発的にインターンシップを経験したと推定される）生徒は除外して分析する。

生徒調査には、基礎的・汎用的能力に関する項目が四つの領域（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）それぞれに6項目が用意されており、各項目について四件法で尋ねている。本章では、この回答をまとめた合計得点を用いる（したがって、各能力について6～24点の範囲でいずれかの数値を取る）。学校調査からは、インターンシップに関する変数、及び、事前指導・事後指導に関する変数を用いる。なお、変数に関する詳細は参考資料欄（66-68 ページ）に掲載している。

事前指導・事後指導の実施の別で、インターンシップが持つ基礎的・汎用的能力への影響に違いが見られるのであろうか。

2. インターンシップの実施状況と基礎的・汎用的能力の推移

「変容調査」の学校向け第3回調査が実施された時点では、第3学年においてインターンシップを実施している学校は33校で、全体の15.7%を占める（図1）。実施している学校の中で、インターンシップを体験したと回答した生徒の割合は、全体の14.2%（748名）である。ここからは、可能なかぎり比較する際の条件を合わせるため、第1学年及び第2学年でインターンシップを経験したことがある生徒を除外し、第3学年で初めてインターンシップを経験した生徒と、第3学年でもインターンシップを経験することがなかった生徒（すなわち、3年間で一度もインターンシップを経験しなかった生徒）のみに焦点を絞る。なお、第3学年でインターンシップを経験した生徒は485人、経験がない生徒は3,978人である（図2）（注5）。

これらの実施状況を踏まえ、体験したことがある生徒とない生徒の基礎的・汎用的能力の推移を示すと、インターンシップ経験がある生徒の方がいない生徒よりも基礎的・汎用的能力の数値が高くなったり、差を縮めたりといった特徴を見て取れる（図3）。

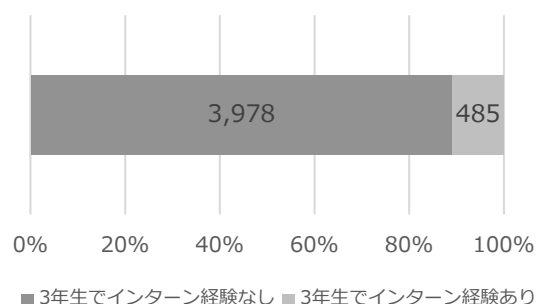
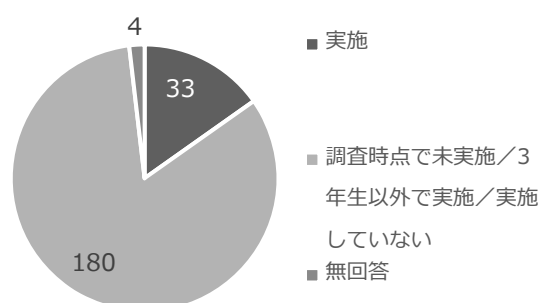


図1 第3学年でのインターンシップ実施状況 (N=217)

図2 第3学年でインターンを経験した生徒の割合 (N=4,463)

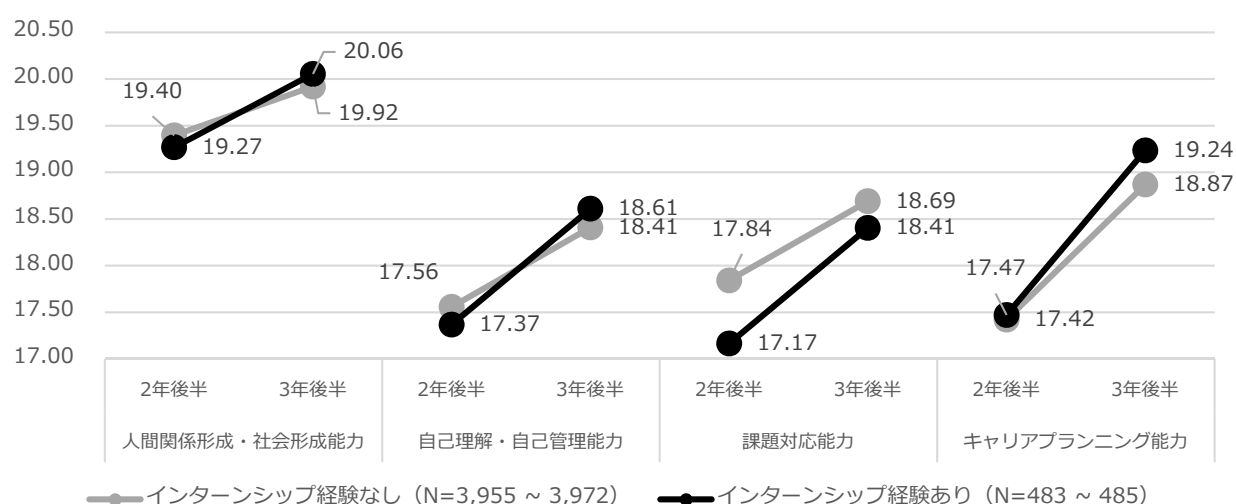


図3 インターンシップ経験の有無別に見た基礎的・汎用的能力

3. 事前指導・事後指導の影響

他方で、事前指導・事後指導について実施状況を見てみると、「変容調査」が尋ねている九つの項目のうち、第3学年でインターンシップを実施している学校では、事前指導については体験活動の目的を確認する指導が、事後指導については報告書・レポートの作成が、多く行われている指導内容であった（図4）。

事前指導については、「就業体験の目的を確認するための指導」が最も多く、61.8%であった。「マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法の指導等）」が47.1%、「就業体験の内容に関する事前の調べ学習」32.4%と続く。

事後指導については、「報告書・レポートの作成」が最も多く、70.6%であった。「訪問・受入先に対するお礼状の作成」が32.4%、「就業体験に関する内容での個人面談・個人指導」が17.6%、「就業体験に関連した成果発表報告会」が11.8%と続く。なお、「就業体験と教科の学習内容とを結び付けた指導」及び「その他の事前・事後指導」は0.0%であった。

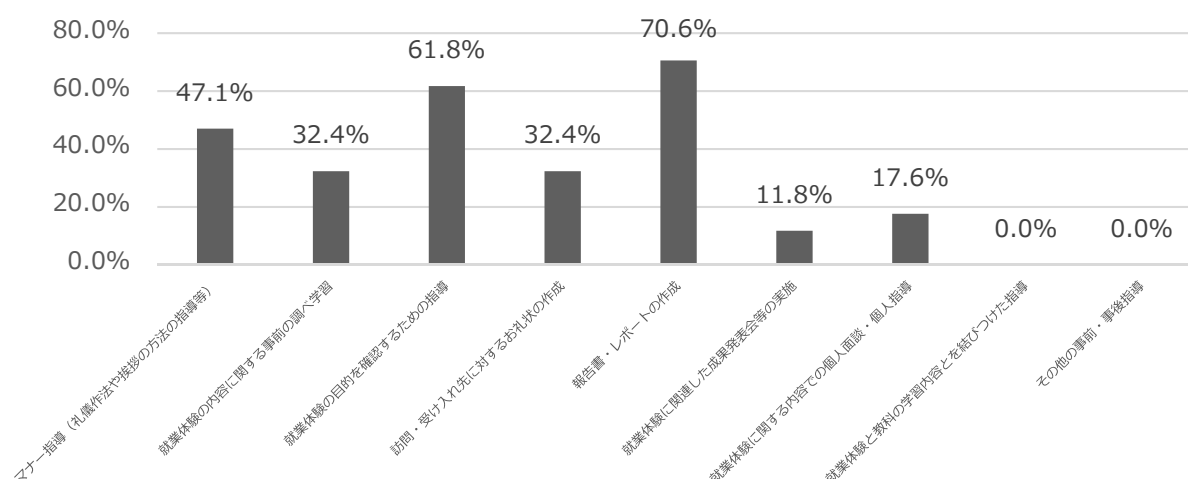


図4 事前指導・事後指導の実施状況（第3学年でインターンを実施している学校）（N=33）

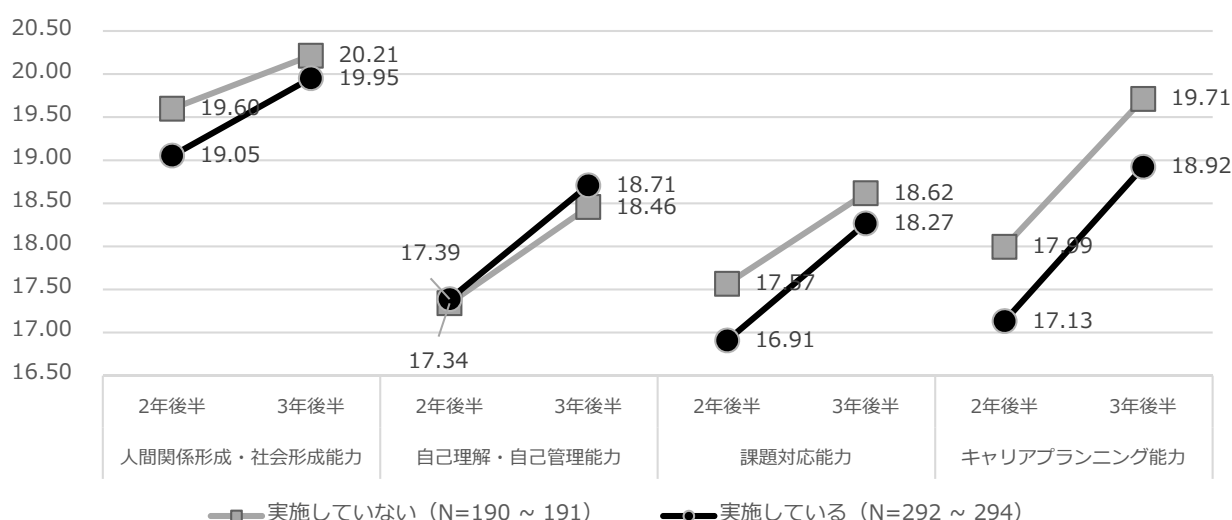


図5 マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法の指導等）の実施別に見た基礎的・汎用的能力の推移

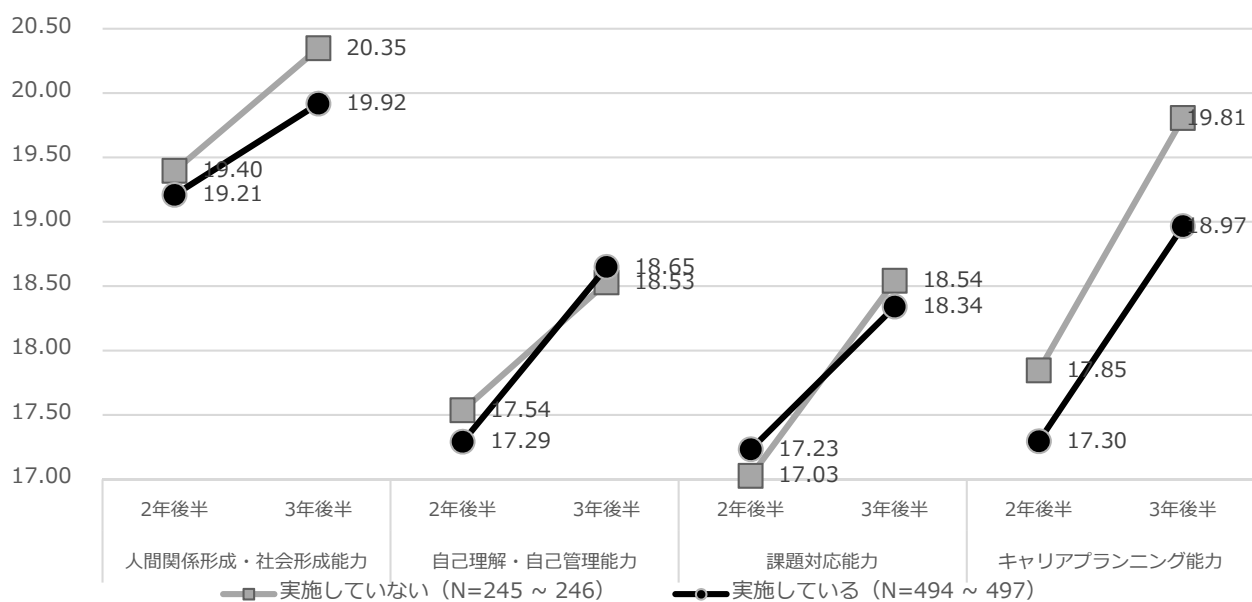


図 6 就業体験の目的を確認するための指導の実施別に見た基礎的・汎用的能力の推移

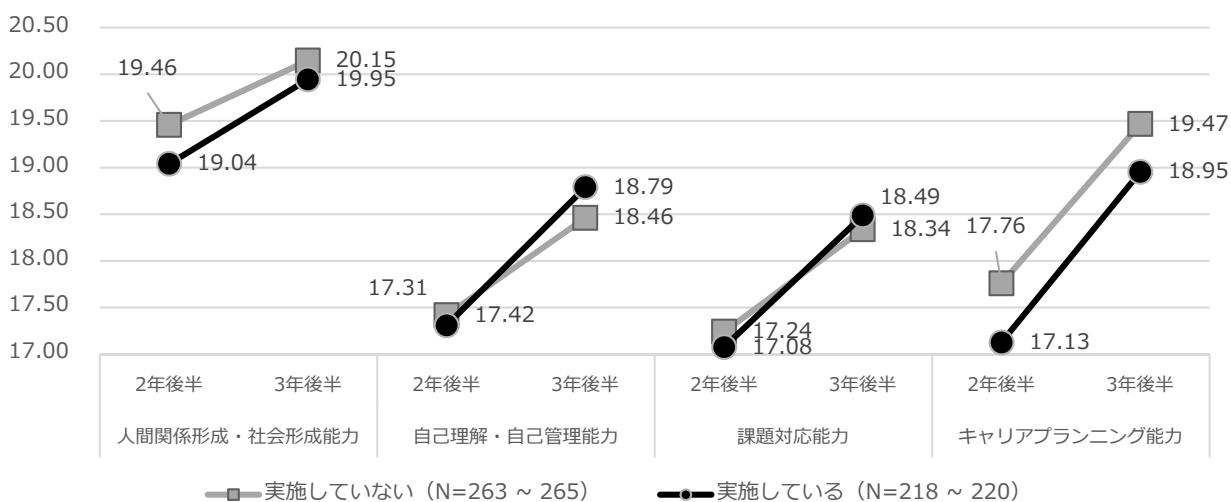


図 7 訪問・受入先に対するお礼状の作成の実施別に見た基礎的・汎用的能力の推移

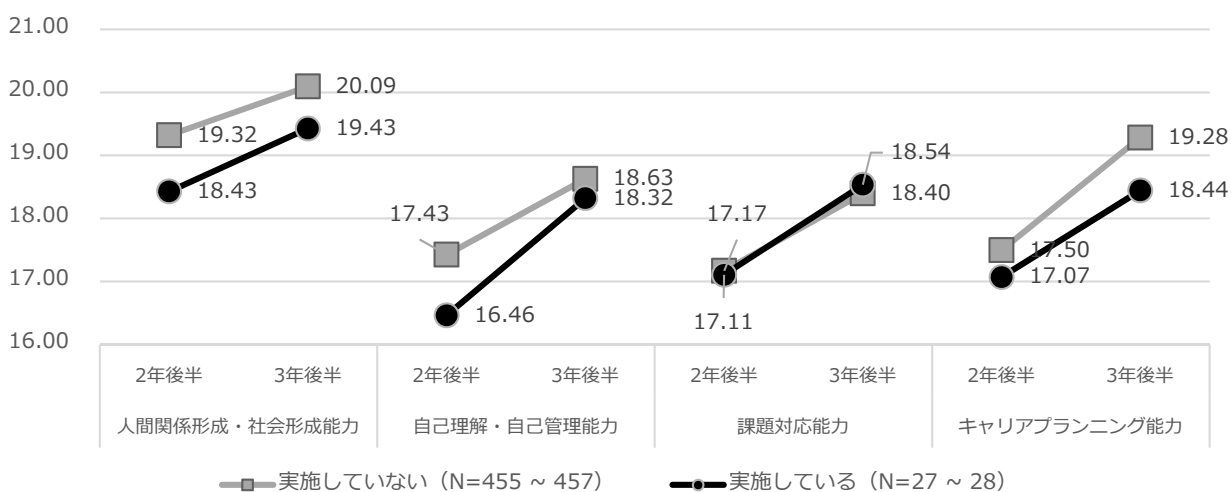


図 8 就業体験に関連した成果発表会等の実施別に見た基礎的・汎用的能力の推移

この状況を踏まえ、学校における事前指導・事後指導の実施状況と生徒のインターンシップ経験の有無を組み合わせ、基礎的・汎用的能力の伸びを示したのが図5から図8である。なお、紙幅の関係から事前指導、事後指導から二つずつ取り上げるにとどめているが、取り上げていないものについては参考資料欄（87-89 ページ）に掲載している。

マナー指導の実施別に見てみると（図5）、マナー指導を実施していない学校でインターンシップを経験している生徒の方が全般的に基礎的・汎用的能力の水準が高いが、2年生後半から3年生後半にかけての基礎的・汎用的能力の推移に着目すると、人間関係形成・社会形成能力や課題対応能力に関しては若干であるが差を縮めており、自己理解・自己管理能力については同じく若干であるが差を広げている。

就業体験の目的確認の実施別に見てみると（図6）、自己理解・自己管理能力については、実施している学校でインターンシップを経験している生徒の方がより高い数値を示すようになる。

訪問・受入先に対するお礼状の作成の実施別に見てみると（図7）、マナー指導に同じく、礼状作成を実施していない学校でインターンシップを経験している生徒の方が基礎的・汎用的能力の水準が高いが、基礎的・汎用的能力の推移に着目すると、こちらもマナー指導と同様に、人間関係形成・社会形成能力に関しては若干であるが差を縮めており、自己理解・自己管理能力や課題対応能力についても若干ではあるが、より伸びている。

成果発表会の実施別に見てみると（図8）、こちらも就業体験の目的確認と同様に、自己理解・自己管理能力については伸びが見られる。

4. インターンシップが持つ可能性と今後の課題

大幅な変化とは言えないものの、インターンシップにおいて事前指導・事後指導の実施が基礎的・汎用的能力の伸長に対して関連を持つ様子がうかがわれた。

今回の数値を見る際に、事前指導・事後指導を実施していない方が基礎的・汎用的能力の平均値は高かったとしても、当該の指導をしない方が良いことを意味するわけではないことには留意が必要である。紙幅の関係から詳細は割愛するが、各種の事前・事後指導は、キャリア教育の学校・学年の目標を設定している学校で実施されている傾向にある。また、進学率が高くない、すなわち、普通科であっても就職が生徒にとっては身近な進路である学校において、事前・事後指導が実施されている傾向にある。

これは何を意味するかといえば、基礎的・汎用的能力の水準の高低そのものよりも、その事前指導・事後がその学校の生徒にとって必要な内容であり、かつ変容・成長につながっているかという視点がこのようなデータを眺める上でより重要である、ということである。マナー指導やお礼状の作成も、体験活動に参加する上でも、生徒の将来にとっても、それ自体に意義がある指導内容である。その学校の生徒にとって必要ならば実施すべきであるし、かつ、それが生徒にとって意義がある内容になっているかという点に着目した方が、より有意義な活動内容になっていくことであろう。この観点から活動を点検したときには、既存の取組を充実させる手掛かりのみならず、既存の取組内容を精選、重点化していく手掛かりも併せて得られていくものと考えられる。

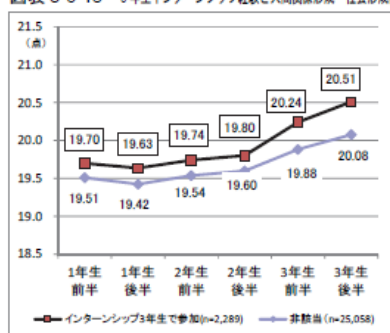
大規模調査のデータから、事前指導・事後指導が影響力を有している可能性はかいま見られた。これを踏まえて本章では、事前指導、インターンシップ、事後指導をどのように

相互に関連付ければより有効な教育活動になるかについて、各校にとって必要な活動なのかという視点から改めて点検し、その結果に基づいて精選や改善を図るという観点を提案したい。

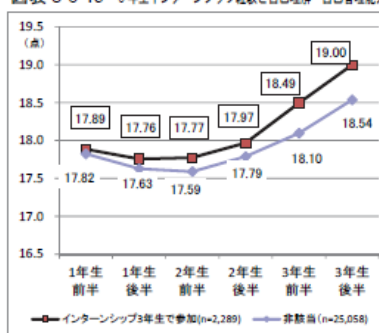
(注 1) 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター『職場体験・インターンシップ実施状況等調査』(各年度版)を参照。

(注 2) 『高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究』平成 26 年度報告書(46 ページ)

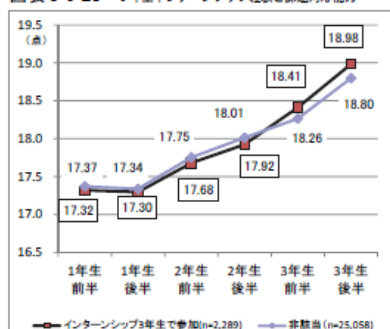
図表 3-6-18 3 年生インターンシップ経験と人間関係形成・社会形成能力



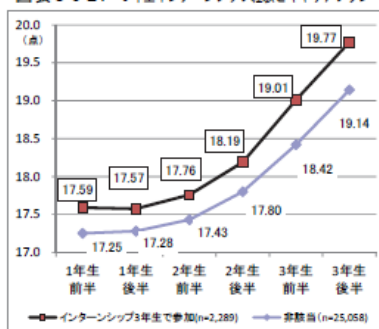
図表 3-6-19 3 年生インターンシップ経験と自己理解・自己管理能力



図表 3-6-20 3 年生インターンシップ経験と課題対応能力



図表 3-6-21 3 年生インターンシップ経験とキャリアプランニング能力



(注 3) 例えば『高等学校キャリア教育の手引き』(文部科学省 2011)ではインターンシップ充実のポイントとして「十分な事前指導・事後指導を実施する」(115 ページ)ことを挙げている。事前指導・事後指導を十分に実施しているホームルーム担任の方がキャリア教育の成果を実感する割合が高いという調査結果もある(国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター2013『「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」パンフレットー学習意欲の向上を促すキャリア教育についてー』)。

(注 4) 『変容調査報告書』でも事前指導・事後指導と基礎的・汎用的能力の関連は検討しているが(51 ページ)、事前指導の一つである事前の調べ学習の実施が基礎的・汎用的能力に対して直接的に影響を及ぼすかを検討しているため、インターンシップと組み合わせた分析にも意義があるだろう。

(注 5) 未回答等で 732 人が分析から除外されている。

第7章 高等学校における基礎的・汎用的能力と生徒の学習意欲

1. 「基礎的・汎用的能力」と「学習意欲」の関係を見る必要性

キャリア教育に求められている課題の一つは、学校から社会・職業への円滑な移行であり、具体的には無業者や早期離職等の状況改善である。また、個人に対する実践上の課題は、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力の個人レベルでの育成である。この基盤能力は、各種の調査報告書・審議会答申で例示されている^(注1)。例えば、社会的・職業的自立と社会・職業への円滑な移行に必要な力の要素として、「基礎的・汎用的能力」が挙げられている^(注2)。

そして、近年はこれらの課題に加えて、キャリア教育は「学習意欲の向上」及び「学習習慣の確立」に寄与するものとして政策的にも期待されている^(注3)。

こうした観点に立ち、近年の幾つかの調査研究においても、キャリア教育と「学習意欲」の関連について分析がなされている。例えば、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターは学校並びに教員を対象とした調査結果から、充実した計画に基づいてキャリア教育を実践している学校ほど「学習意欲」が向上する傾向があることを示している^(注4)。しかしながら、学習意欲を抱く主体である生徒を対象にした調査を分析した結果に基づいたものではなく、生徒に直接回答を求めたデータでも同様の結果が得られるのか、分析が待たれている。

そこで、本章においては「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究」（以下、「変容調査」）のうち、生徒調査データを用いて、キャリア教育を通じて育成が目指されている「基礎的・汎用的能力」と「学習意欲」の関連について分析を行う^(注5)。

2. 「学習意欲」に関する調査項目

「変容調査」では、高校生の「学習意欲」に関する項目として、「意欲・態度」「学ぶことについての意識・意味付け」についての質問がある。例えば、「授業を熱心に受けている」「家での学習に積極的に取り組んでいる」「これからもっとたくさんのことを学びたいと思う」などがある。こうした質問項目に対して四つの選択肢（「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」）の中から生徒が回答する形式であった。

こうした質問項目の中で、「家での学習に積極的に取り組んでいる」について見ると、「あてはまる」「ややあてはまる」と肯定的に回答する割合が、他項目に比較して最も低いことが示されている（図1・図2）。とりわけ、2年生前半の時期の肯定的回答率が最も低く、「あてはまる」が8.5%、「ややあてはまる」が34.7%であった。この2年生前半の時期は、いわゆる「中だるみ」と一般的に言われる時期であり、「家での学習に積極的に取り組んでいる」生徒は半数以下であることから、「学習意欲」が行動に表れていない時期と考えられる。

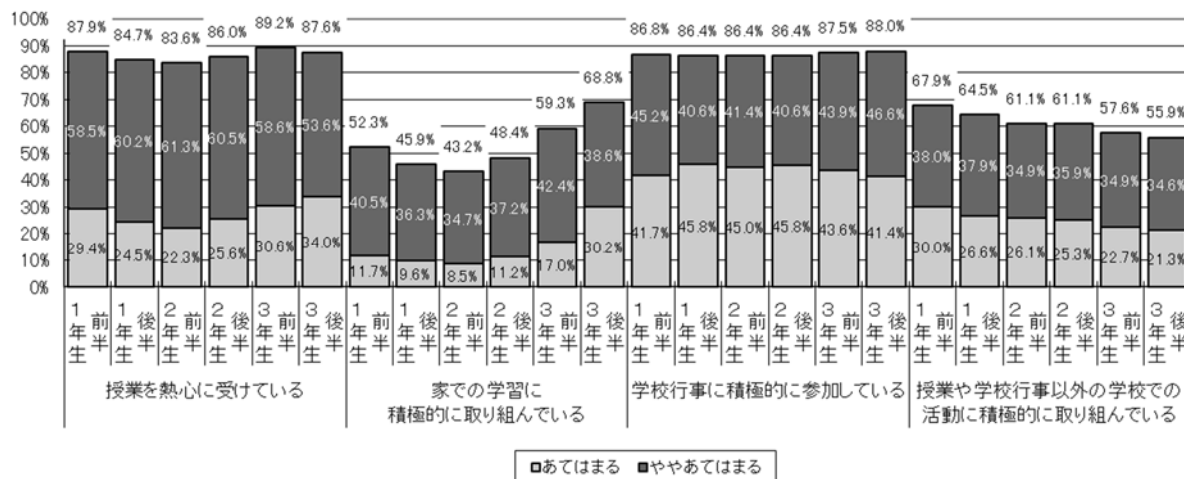


図 1 「意欲・態度」に関する設問の集計結果

(出典：『変容調査報告書』9 ページ)

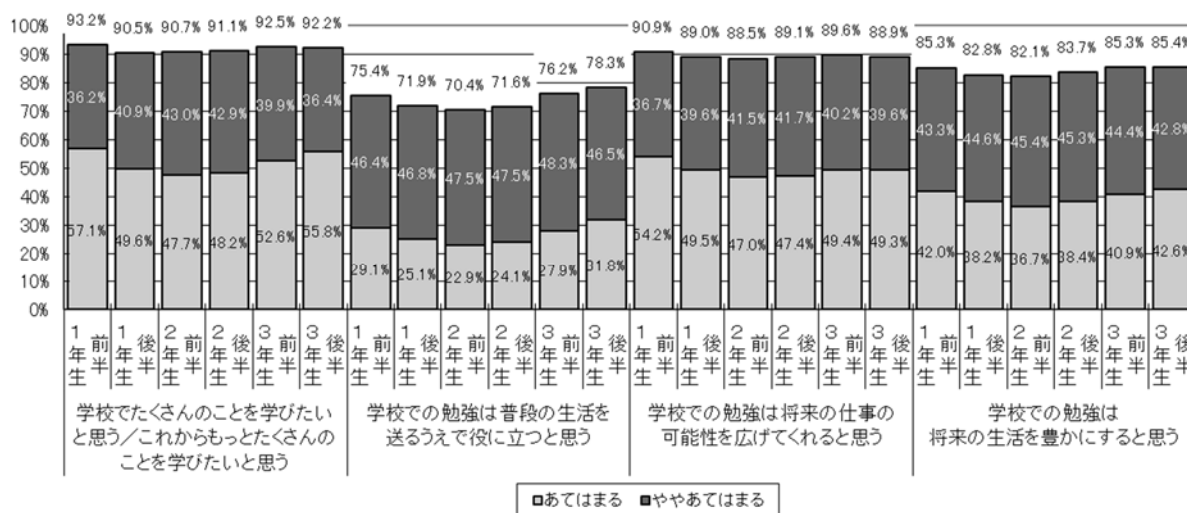


図 2 「学ぶことについての意識・意味付け」に関する設問の集計結果

(出典：『変容調査報告書』10 ページ)

3. 「基礎的・汎用的能力」の自己評価と「学習意欲」の行動側面の関連

次に、キャリア教育を通じて育成が目指されている「基礎的・汎用的能力」と「学習意欲」の関連について検討したところ、「基礎的・汎用的能力」の自己評価がより高い群ほど、「家での学習を積極的に取り組んでいる」ことがわかった（図 3～図 6）（注 6）。

具体的には、次の手順で結果を得た。「基礎的・汎用的能力」については四つの下位領域（①「人間関係形成・社会形成能力」、②「自己理解・自己管理能力」、③「課題対応能力」、④「キャリアプランニング能力」）があると言われている（注 7）。今回の分析に用いた「変容調査」では、この四つの領域につき 6 項目ずつ計 24 項目について、生徒が 4 段階で自己評価する形式で回答を得ている（「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」）。

本章の分析では、四つの各領域自己評価得点の合計点（24 点満点）を基にして、当該能力の自己評価「低群」「中群」「高群」の 3 群に分類した。なお、この 3 群の人数は、ほぼ

均等になるように分けた。そして、この三つの群の間に「学習意欲」に差異が見られるのかについてクロス集計を行った（図 3～図 6）。ここでの「学習意欲」には、「家での学習を積極的に取り組んでいる」という学習行動側面についての質問項目を用いた。分析の結果、「基礎的・汎用的能力」の四つの下位領域全てにおいて、自己評価が「より高い群」（低群より中群，中群より高群）ほど、「家での学習を積極的に取り組んでいる」という項目に「あてはまる」「ややあてはまる」と肯定的に答える傾向があった。

各能力別に見ると、「人間関係形成・社会形成能力」（図 3）においては、1 年生前半～3 年生後半で「家での学習を積極的に取り組んでいる」ことへの肯定的回答（「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計）の割合に約 20～28 ポイントの違いが見られた。次に、「自己理解・自己管理能力」（図 4）においては、1 年生前半～3 年生後半で「家での学習を積極的に取り組んでいる」ことへの肯定的回答の割合に 27～39 ポイントの違いが見られた。

「課題対応能力」（図 5）においては、1 年生前半～3 年生後半で「家での学習を積極的に取り組んでいる」ことへの肯定的回答の割合に 21～37 ポイントの違いが見られた。「キャリアプランニング能力」（図 6）においては、1 年生前半～3 年生後半で「家での学習を積極的に取り組んでいる」ことへの肯定的回答の割合に 23～38 ポイントの違いが見られた。

また、2 年生前半の時期が最も「学習意欲」が低下する時期（第 7 章 2 節（図 1）参照）であったことを踏まえて、この時期における「あてはまる」の割合に着目すると、「人間関係形成・社会形成能力」（図 3）では高群が 18.6%，低群が 2.6%であった。「自己理解・自己管理能力」（図 4）では高群が 21.6%，低群が 2.0%であった。「課題対応能力」（図 5）では高群が 21.1%，低群が 2.1%であった。「キャリアプランニング能力」（図 6）では高群が 20.1%，低群が 2.3%であった。このように 2 年生前半においては、「基礎的・汎用的能力」に対する自己評価が高い生徒は低い生徒よりも 8～10 倍程度「あてはまる」と答える傾向にあった。

この結果から、「基礎的・汎用的能力」に対する自己評価が高い生徒ほど、学習意欲が高い（「家での学習を積極的に取り組んでいる」）ことが指摘できる。

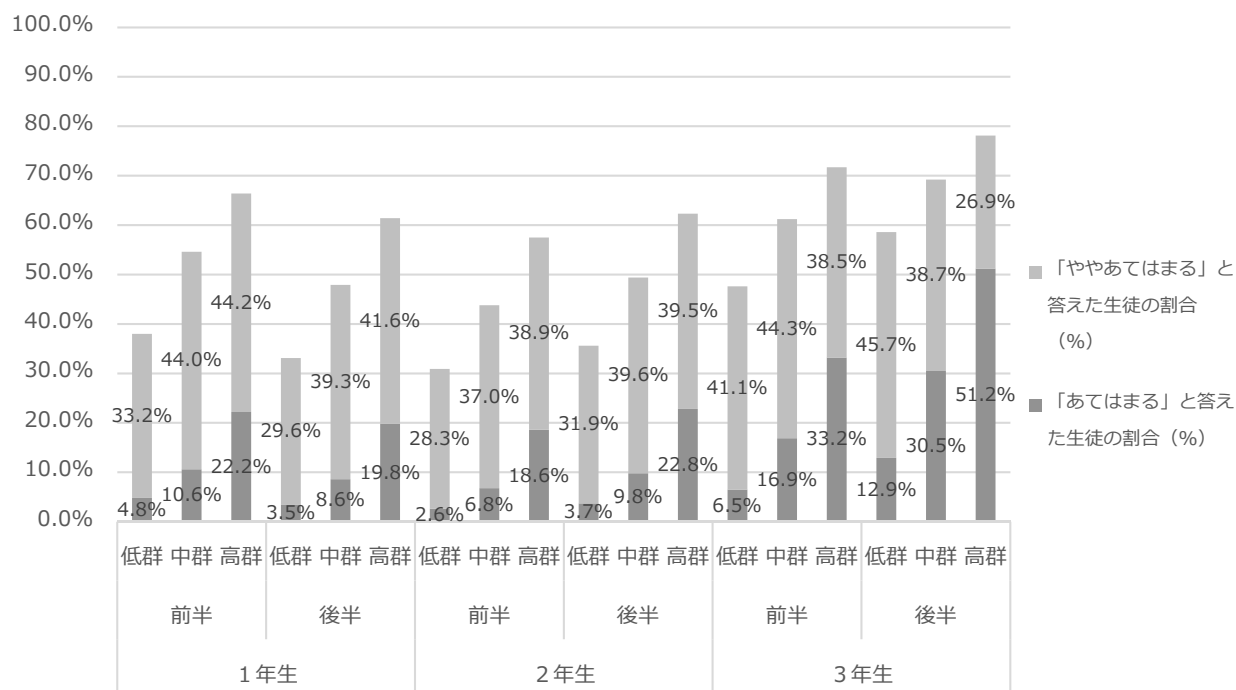


図3 「人間関係形成・社会形成能力」に対する自己評価得点群別の
「家での学習を積極的に取り組んでいる」割合 (%)

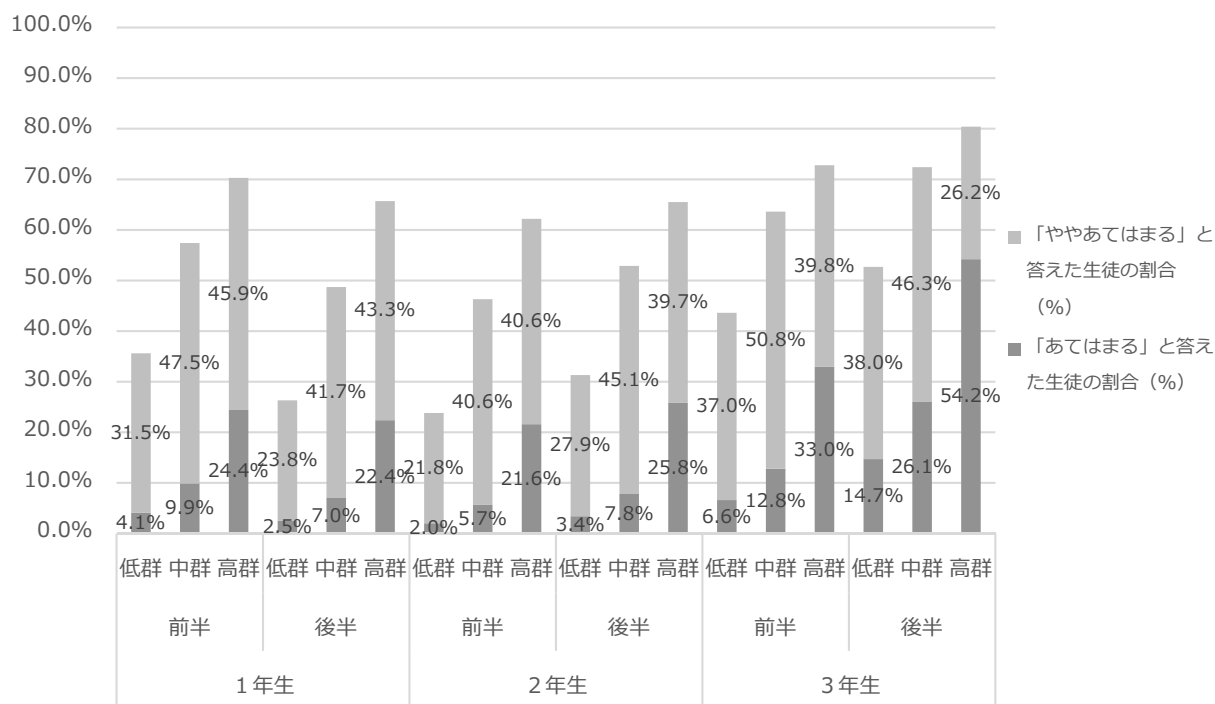


図4 「自己理解・自己管理能力」に対する自己評価得点群別の
「家での学習を積極的に取り組んでいる」割合 (%)

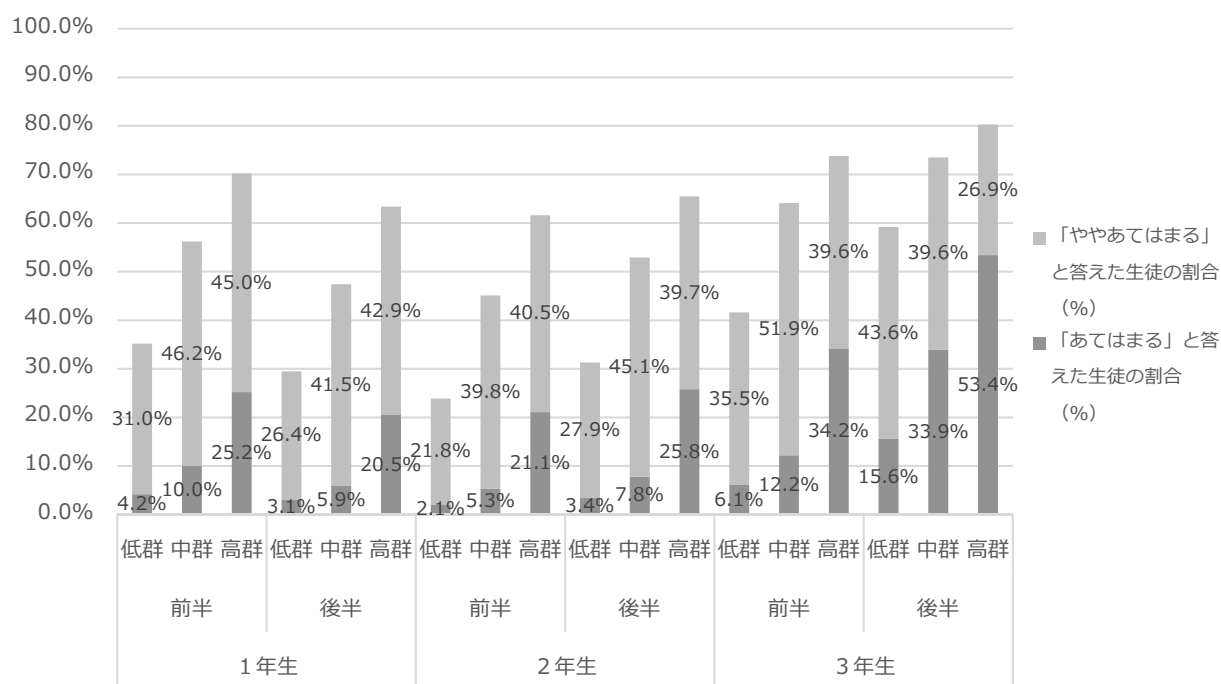


図5 「課題対応能力」に対する自己評価得点群別の
「家での学習を積極的に取り組んでいる」割合 (%)

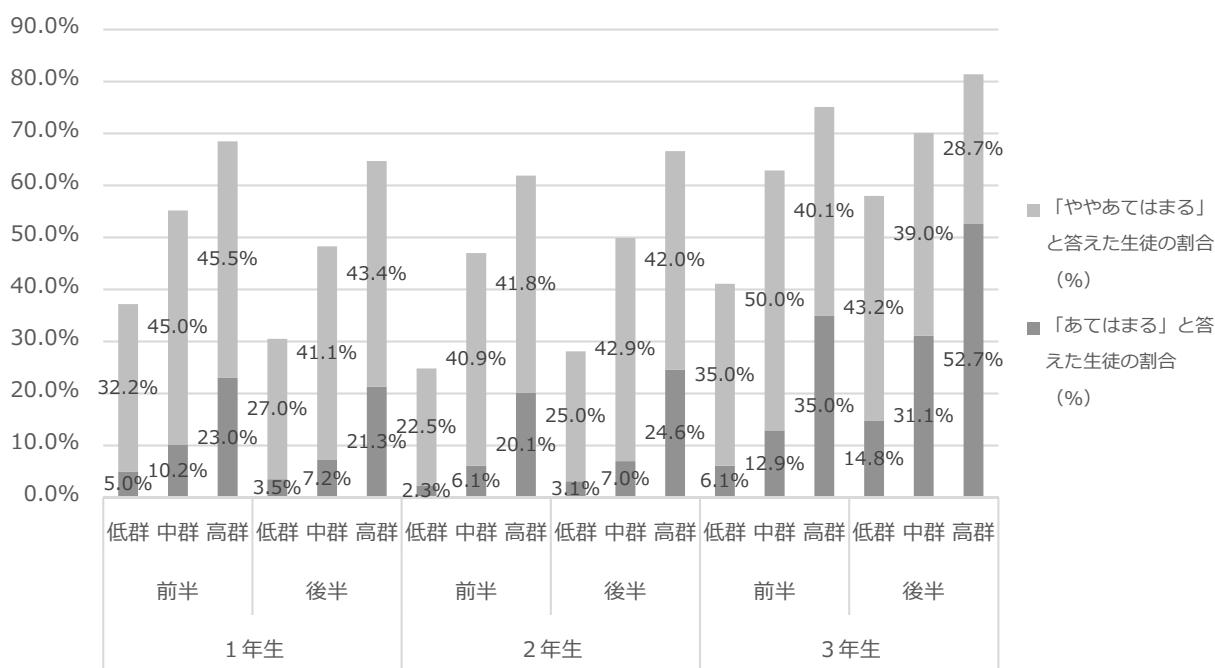


図6 「キャリアプランニング能力」に対する自己評価得点群別の
「家での学習を積極的に取り組んでいる」割合 (%)

4. 「基礎的・汎用的能力」の個別項目と「学習意欲」の関連

次に、「基礎的・汎用的能力」を構成する個別の質問項目と「学習意欲」（「家での学習を積極的に取り組んでいる」）との相関を求めた。結果の詳細は、参考資料（付表7-1）に示した。

総じて、「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の中に、「学習意欲」（「家での学習を積極的に取り組んでいる」）と比較的強い関連を示す項目が含まれていた。具体的には、以下の項目が「家での学習に積極的に取り組んでいる」と比較的強い関連があった。

特に「キャリアプランニング能力」に含まれる「勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている」と「学習意欲」は、学年・時期を追うごとに互いの関連を強めていく傾向があった。この結果は、学ぶことに対する「自分なりの意味付け」を生徒自身の中で深めていくことが、具体的な学習行動（家庭学習）を喚起する可能性を示唆するものと考えられる。

「学習意欲」（「家での学習に積極的に取り組んでいる」）と比較的強い関連のあった項目

◆「自己理解・自己管理能力」

- ・「必要なときには、苦手なことにもがんばって取り組むようにしている」
- ・「やるべきことがわかっているときには、ほかの人から指示される前に取り組むことができる」

◆「課題対応能力」

- ・「何かに取り組むときには、計画を立てて取り組むようにしている」

◆「キャリアプランニング能力」

- ・「勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている」
- ・「将来の夢や目標に向かって努力している」

5. 「学ぶことについての意識・意味付け」の個別項目と「学習意欲」の関連

また、「学ぶことについての意識・意味付け」「生活の充実度」「意欲・態度」「勤労観・職業観」に関する個別項目と、「学習意欲」（「家での学習を積極的に取り組んでいる」）の相関を求めた（詳細は参考資料付表7-1参照）。その結果、以下の項目が「家での学習に積極的に取り組んでいる」と比較的強い関連があった。

「学習意欲」（「家での学習に積極的に取り組んでいる」）と比較的強い関連のあった項目

◆「学ぶことについての意識・意味付け」

- ・「学校でたくさんのことを学びたいと思う／これからもっとたくさんのことを学びたいと思う」
- ・「学校での勉強はふだんの生活を送る上で役に立つと思う」
- ・「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う」
- ・「学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う」

◆「意欲・態度」

- ・「授業を熱心に受けている」

上記の「学ぶことについての意識・意味付け」の項目は、質問文の内容を考慮すると、「学校での学習の有用性」を尋ねている質問と読み取ることができる。この結果から、「ふだんの生活・将来の仕事・将来の生活」といった様々な場面において、「学校での学習の有用性」があると思うほど、積極的な学習行動（家庭学習）を取る傾向があると考えられる。

また、上記の結果から「学校でたくさんのことを学びたいと思う／これからもっとたくさんのことを学びたいと思う」という「学びへの志向性」を有するほど、「家庭学習場面」において積極的に学習を行う可能性が示唆された。

6. まとめと今後の方向性

キャリア教育を通じて育成が期待されている「基礎的・汎用的能力」と「学習意欲」の関係について、各学年段階での「基礎的・汎用的能力」の状態と「学習意欲」（家庭学習行動）の関連を検討した結果、両者の間に関連が見いだせた。

このことは、これまでも「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」の「学校調査」及び「学級担任調査」による分析結果に基づく、キャリア教育実践と学習意欲の関連に関する報告と整合的な結果である（注8）。本分析では「生徒調査」からも「基礎的・汎用的能力」の育成と「学習意欲」向上の関連の可能性が示唆された。

今後は、具体的にどのようなキャリア教育実践が基礎的・汎用的能力を育成し、かつ、それらと関連しつつ学習意欲が高まっていくのかという統合的枠組みの観点から検討することが必要である。

（注1） 国立教育政策研究所 2002『職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)』。

（注2） 中央教育審議会 2011「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」。

（注3） 中央教育審議会 2008「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」。

（注4） 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター2013『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第二次報告書』。

（注5） 本章では、「基礎的・汎用的能力」の上昇ができるようになることを増やし、その結果、更なる能力の伸びに対して肯定的になるからこそ、学習意欲が向上するという仮定の下、分析を進めている。

（注6） 図3～図6は全て統計的検定を行っている。その詳細については、参考資料欄を参照のこと。

（注7） 中央教育審議会 2011「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」。

（注8） 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター2013『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第二次報告書』。

第8章 「キャリアプランニング能力」とキャリア教育諸活動との関連

1. 「キャリアプランニング能力」の構成要素

「キャリアプランニング能力」は「基礎的・汎用的能力」のうちの一つであり、「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究」（以下、「変容調査」）では、以下の六つの質問項目によって測定されている。

- ① 勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている
- ② 仕事をするすることの意味について自分なりの考えを持っている
- ③ 世の中には、様々な働き方や生き方があることを理解している
- ④ 職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている
- ⑤ 将来の夢や目標が具体的になっている
- ⑥ 将来の夢や目標に向かって努力している

これらの問いに対して、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の四つの選択肢から回答を求めたところ、「あてはまる」「ややあてはまる」を選択する割合は、いずれの項目においても、調査の進行とともに高くなる傾向が見られた。『変容調査報告書』では、以下の図によってそのことが示された（図1）。

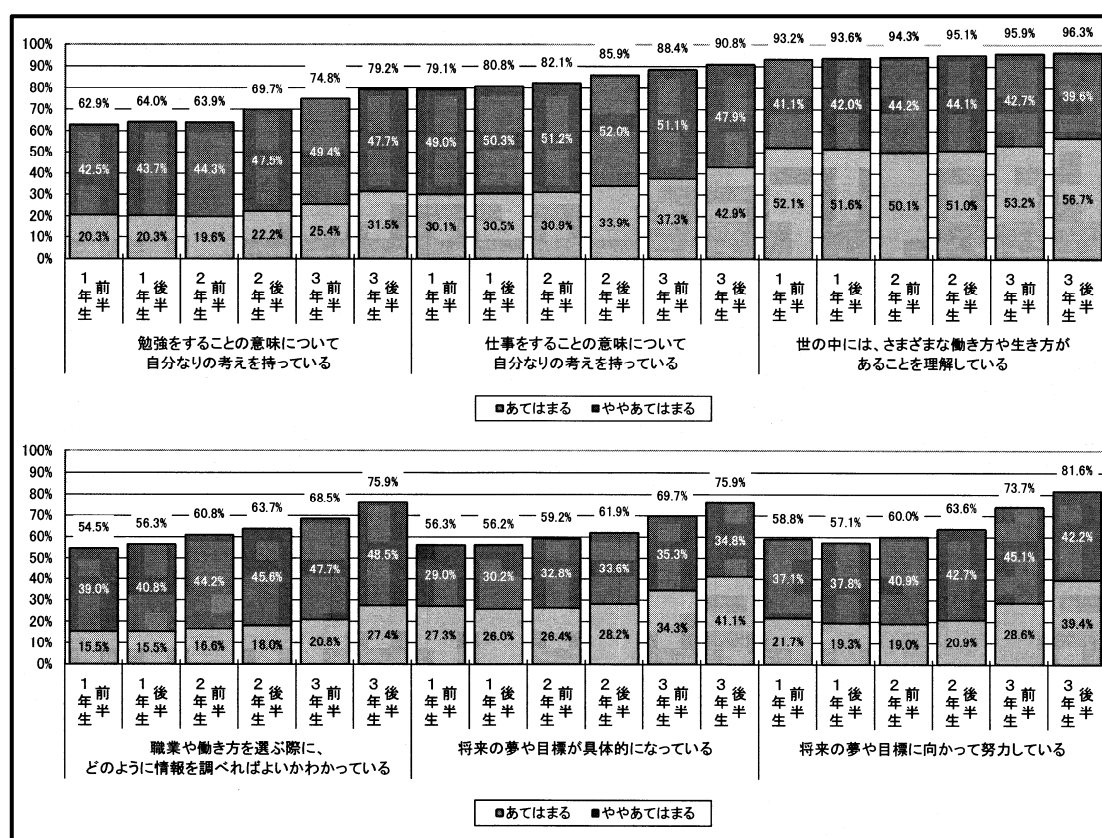


図1 「キャリアプランニング能力に関する設問の集計結果

(出典：『変容調査報告書』14ページ)

「①勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている」「④職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」「⑤将来の夢や目標が具体的にになっている」「⑥将来の夢や目標に向かって努力している」の四つの項目では、1年生前半の時点での5～6割の水準から3年生後半の時点での7～8割の水準へと上昇している。また、2年生後半から3年生にかけての時期の伸び率が大きく、進路の展望がこの時期に明確化することが推測された。加えて、変化の幅が相対的に小さかった「②仕事をするこゝの意味について自分なりの考えを持っている」「③世の中には、様々な働き方や生き方があることを理解している」の2項目についても、「あてはまる」の割合は上昇傾向にあることが指摘された。

これらの結果から推し量ることができるのは、「高等学校生活の3年間を通じて、自身の進路についての考え方や職業に対する考え方が高まった生徒が多い」ということである。

それでは、これらの諸要素は高等学校生活に関する意識・態度とはどのような関係にあり、また、キャリア教育の諸活動とはいかなる関連をもつのだろうか。以下ではこれらの点について概観する。

2. 六つの構成要素と高等学校生活に関する意識・態度の相関

「変容調査」では、高校生の「生活の充実度」「意欲・態度」「学ぶことについての意識・意味付け」「職業観・勤労観」についての問いも設定されている。例えば「学校生活は充実している」「自分の能力をいかせる仕事がしたい」といった項目に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の四つの選択肢から回答を求めている。

これらの回答と、キャリアプランニング能力の構成要素に対する回答との相関を求めると、その結果からは以下のことを指摘することができる（詳細は、参考資料付表8-1を参照）^(注1)。

まず総じて、キャリアプランニング能力の構成要素と高等学校生活に関する意識・態度が、高等学校生活の進行に伴って次第に互いの関わりが強さを増していることである。先に確認したように、キャリアプランニング能力は高等学校3年間を通じてポジティブな反応を示す生徒の割合が高まる傾向にある。すなわちそれに伴って、学校生活や職業についてもポジティブな意識や意欲が表明される割合が次第に高まっていることになる。

キャリアプランニング能力の構成要素ごとに、関わりの強い項目を整理すると、以下のようになる。

①勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている

- ✧ 「家で学習に積極的に取り組んでいる」
- ✧ 「学校で（これから）たくさんのことを学びたいと思う」
- ✧ 「学校での勉強はふだんの生活を送る上で役に立つと思う」
- ✧ 「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う」
- ✧ 「学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う」

②仕事をするこゝの意味について自分なりの考えを持っている

- ✧ 「学校で（これから）たくさんことを学びたいと思う」

- ◇ 「自分の将来が楽しみだ」
- ◇ 「自分の能力をいかせる仕事がしたい」

③世の中には、様々な働き方や生き方があることを理解している

- ◇ 「学校で（これから）たくさんのことを学びたいと思う」
- ◇ 「自分の能力をいかせる仕事がしたい」

④職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている、⑤将来の夢や目標が具体的になっている、及び、⑥将来の夢や目標に向かって努力している

- ◇ 「自分の将来が楽しみだ」

「⑥将来の夢や目標に向かって努力している」ことは、とりわけ「自分の将来が楽しみだ」との関わりを強く示しており、また非常に多くの高等学校生活に関する意識・態度の項目と強く関わっていることがわかる。

さらに、「自分の将来が楽しみだ」への回答は、キャリアプランニング能力の構成要素の全てと強い関わりがある。

これらのことから、「キャリアプランニング能力」が高められることは、学校生活や将来のビジョンに対してもポジティブであることと、直接的に関わり合っていると指摘できる。

3. 「職業・働き方についての情報源の理解」の変容パターン

ただし、キャリアプランニング能力の構成要素や、高等学校生活に関する意識・態度は、生徒個人の中で必ずしも累積的に高められていくものではない。確かに、これらの質問項目に対して「ポジティブに回答する者の割合」は調査が重ねられるにつれて高まるが、それは回答者一人一人の中で「一度ポジティブな状態になれば以降もそれが持続する」ことを意味してはいない。

このことを確認するために、ここではキャリアプランニング能力のうちの「④職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」に着目したい。キャリア教育の最重要成果の一つは、生徒が職業に至り付く経路を具体的に見いだせるようになることであるため、この指標に注目することには重要な意味がある。

「④職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」の問いに対して、「あてはまる」「ややあてはまる」の回答を○、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の回答を×とし、○×の変遷を表現するためのタイプを作成した。タイプごとの回答者数を示したのが、表1である。

ここからは、ある調査で○と表明したけれども次の調査では×と表明されるケースが、決して少なくないことがわかる。例えばタイプ43番は、第1回調査から第6回調査にかけて、「×→○→×→○→×→○」と非常に激しく回答が移り変わっている。一方、一度○を表明し、以後もそれが持続したケースをタイプ1番、33番、49番、57番、61番、63番と考えると、その回答者総数は13,151人であり、全体に占める割合は44.5%である。

このことから、「キャリアプランニング能力の高まり」と一口に言っても、個人のレベルでは進路の決定や変更、そのほか様々な生活経験により、揺れ動いていることが推測できる。生徒における資質・能力や意識・態度は、このような個々人における意味の捉えられ方と重ね合わせながら評価される必要がある。

なお，第 1 回調査から第 6 回調査にかけて，全て○を表明した回答者の数は 7,889 人（26.7%）であった。また逆に，全ての調査で×を表明した回答者の数は 2,210 人（7.5%）であった。後者のタイプの生徒については，詳細な背景の探索が別途必要と思われる。

表 1 理解の変容パターン

(「職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」)

タイプ	1年前半	1年後半	2年前半	2年後半	3年前半	3年後半	度数	%
1	○	○	○	○	○	○	7889	26.7
2	○	○	○	○	○	×	359	1.2
3	○	○	○	○	×	○	508	1.7
4	○	○	○	○	×	×	136	.5
5	○	○	○	×	○	○	678	2.3
6	○	○	○	×	○	×	132	.4
7	○	○	○	×	×	○	181	.6
8	○	○	○	×	×	×	100	.3
9	○	○	×	○	○	○	791	2.7
10	○	○	×	○	○	×	107	.4
11	○	○	×	○	×	○	188	.6
12	○	○	×	○	×	×	87	.3
13	○	○	×	×	○	○	317	1.1
14	○	○	×	×	○	×	88	.3
15	○	○	×	×	×	○	192	.6
16	○	○	×	×	×	×	161	.5
17	○	×	○	○	○	○	1264	4.3
18	○	×	○	○	○	×	129	.4
19	○	×	○	○	×	○	226	.8
20	○	×	○	○	×	×	76	.3
21	○	×	○	×	○	○	299	1.0
22	○	×	○	×	○	×	66	.2
23	○	×	○	×	×	○	135	.5
24	○	×	○	×	×	×	108	.4
25	○	×	×	○	○	○	411	1.4
26	○	×	×	○	○	×	86	.3
27	○	×	×	○	×	○	180	.6
28	○	×	×	○	×	×	104	.4
29	○	×	×	×	○	○	343	1.2
30	○	×	×	×	○	×	134	.5
31	○	×	×	×	×	○	294	1.0
32	○	×	×	×	×	×	391	1.3
33	×	○	○	○	○	○	1787	6.0
34	×	○	○	○	○	×	169	.6
35	×	○	○	○	×	○	228	.8
36	×	○	○	○	×	×	84	.3
37	×	○	○	×	○	○	332	1.1
38	×	○	○	×	○	×	80	.3
39	×	○	○	×	×	○	164	.6
40	×	○	○	×	×	×	113	.4
41	×	○	×	○	○	○	473	1.6
42	×	○	×	○	○	×	106	.4
43	×	○	×	○	×	○	166	.6
44	×	○	×	○	×	×	91	.3
45	×	○	×	×	○	○	290	1.0
46	×	○	×	×	○	×	117	.4
47	×	○	×	×	×	○	253	.9
48	×	○	×	×	×	×	306	1.0
49	×	×	○	○	○	○	1011	3.4
50	×	×	○	○	○	×	176	.6
51	×	×	○	○	×	○	259	.9
52	×	×	○	○	×	×	128	.4
53	×	×	○	×	○	○	419	1.4
54	×	×	○	×	○	×	131	.4
55	×	×	○	×	×	○	278	.9
56	×	×	○	×	×	×	287	1.0
57	×	×	×	○	○	○	706	2.4
58	×	×	×	○	○	×	167	.6
59	×	×	×	○	×	○	375	1.3
60	×	×	×	○	×	×	324	1.1
61	×	×	×	×	○	○	738	2.5
62	×	×	×	×	○	×	410	1.4
63	×	×	×	×	×	○	1020	3.5
64	×	×	×	×	×	×	2210	7.5
合計							29558	100.0

4. 「職業・働き方についての情報源の理解」の変容の背景

それでは、生徒の資質・能力や意識・態度の変容の背景にはどのようなことがあるのか。ここでは引き続き、キャリアプランニング能力の中の「④職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」を検討対象とし、回答の変容パターンに対して、キャリア教育の諸活動がどのように関わっているのかを示したい。

回答の変容を把握するために着目したのは、以下の時期である。

- 高等学校1年時の変容
第1回調査（1年生前半）から第3回調査（2年生前半）への変化
- 高等学校2年時の変容
第3回調査（2年生前半）から第5回調査（3年生前半）への変化
- 高等学校3年時の変容
第5回調査（3年生前半）から第6回調査（3年生後半）への変化

それぞれの2回の調査のあいだで、「④職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」への回答がどのように推移したかにより、回答の在り方を四つのパターンに分類した。「わかっている」状態の持続（○→○：理解の持続）, 「わからない状態」の改善（×→○：理解の改善）, 「わかっている」状態の断絶（○→×：理解の断絶）, 「わからない」状態の持続（×→×：無理解）の4パターンである。

そしてこの回答の推移と、キャリア教育に関する七つの活動の取組状況^(注2)、及び「卒業後の進路希望」の決定状況^(注3)との関わりを探索した。分析の結果からは以下のことを指摘することができる（詳細は参考資料付表8－2を参照）。

●**進路希望** 1・2・3年時のいずれの時点においても、「進学したい、就職したい」と決まっていることは、「職業・働き方についての情報源の理解」の持続と改善に有意味な関わりをもっている。

●**キャリアプラン等の作成** 1年時においては、「職業・働き方についての情報源の理解」の持続と改善に有意味な関わりをもつが、2年時においては理解の持続のみに関わることとなる。そして3年時においては有効な関わりが見いだされなくなる。

●**キャリア・ポートフォリオの作成・活用** 1年時・2年時においては、「職業・働き方についての情報源の理解」の持続のみに関連するが、3年時においてはそれに加えて理解の改善にも関連する。

●**上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会** 1年時においては、「職業・働き方についての情報源の理解」の持続と改善に関連するが、2年時・3年時においては理解の持続のみに関連する。

●**卒業生（大学生や若手社会人など）による講演・体験発表会・懇談会** 1年時においては、「職業・働き方についての情報源の理解」の持続と改善に関連するが、2年時においては有効な関わりが見いだされなくなる。さらに、3年時においてはこれを実施していないことの方が理解の持続に関連することとなる。3年時にこれを実施することは、理解の改善に関連する面はあるが、他方で理解の断絶や無理解と関わることとなる。

●就業体験（インターンシップ） 「職業・働き方についての情報源の理解」に関しては、1年時・2年時では一定の方向性をもった関わりは見いだされない。3年時においては、これを実施しないことの方が理解の持続に関連する。逆にこれを実施することは、理解の改善に関連する面はあるが、他方で理解の断絶や無理解と関わる面も生じることとなる。

なお、「上級学校のオープンキャンパス等への参加」と「職場見学・ジョブシャドウイング」については、どの学年においても「職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」ことに対しては有効な関わりは見いだされなかった。

以上のように、キャリア教育の諸活動と「キャリアプランニング能力」の構成要素との関わりは、活動内容や、それが実施される学年によっても、様々な関わり方が見いだされる。生徒の資質・能力及び意識・態度に対する教育活動の寄与を考える際には、その活動の性質と実施対象学年のマッチングが重要だといえる。

（注1） 「キャリアプランニング能力の構成要素」と「高等学校生活に関する意識・態度」に関する質問への回答を、「あてはまる」＝4、「ややあてはまる」＝3、「あまりあてはまらない」＝2、「あてはまらない」＝1と数量化し、両者の相関係数を求めた。付表8－1では、キャリアプランニング能力の六つの構成要素ごとに、全6回分の調査データから求められる相関係数を示しており、第6回調査において相関係数が0.3を上回っている項目について、白黒反転させた強調表示をしている。

（注2） 1年時の取組を把握するためには、第2回調査（1年生後半）での実施状況を参照した（「今年度予定」も実施に含めた）。2年時の取組を把握するためには、第4回調査（2年生後半）での実施状況を参照した（「今年度予定」も実施に含めた）。3年時の取組を把握するためには、第6回調査（3年生後半）での実施状況を参照し、その時点での「今年度予定」は「実施していない」に含めることとした。これによって、各学年におけるキャリア教育諸活動の実施の有無を把握した。

（注3） 第3回調査（2年生前半）での「進学したい、就職したい」と考えるか否かを1年時での変容パターンの分析に、第5回調査（3年生前半）での結果を2年時での変容パターンの分析に第6回調査（3年生後半）での結果を3年時での変容パターンの分析に用いた。

參考資料

○ 各章共通

－ 「総合的実態調査」「高等学校卒業生調査」設問

問 8 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったとき、あなたはどのようにしますか。あてはまるものを一つ選んでください。

- 問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っているので、活用する
- 相談や支援に関する公的な機関の存在は知っているが、活用の仕方がわからない
- 相談や支援に関する公的な機関は知らないが、家族や友人などに相談や支援を求める
- 1人で問題を解決しようとする
- 解決のための方法を知らない
- その他

問 9 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったときに相談できる以下の機関のうち、高校生のときに学校から情報提供を受けたものを全て選んでください。

- 大学や専門学校等の就職支援センター
- 大学や専門学校等の学生相談窓口
- 公共職業安定所（ハローワーク）
- ジョブカフェ
- 地域若者サポートステーション（サポステ）
- 労働基準監督署
- 総合労働相談コーナー（都道府県労働局など）
- 労政事務所（労働相談情報センターなど、地域によって名称は異なる）
- 上記の機関に関する情報提供はなかった
- 上記の機関に関する情報提供の有無について覚えていない

* 回答の分布やそのほかの変数等、更なる詳細については、下記URLを参照のこと。

『第一次報告書』

http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report.htm

『第二次報告書』

http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report_2.htm

－ 「変容調査」設問

付表 「変容調査」生徒向け質問紙調査における主な調査内容・質問項目

内容	具体的な質問項目
「生活の充実度」に関する項目	「学校生活は充実している」 「学校での友人関係に満足している」 「自分の将来が楽しみだ」
「意欲・態度」に関する項目	「授業を熱心に受けている」 「家での学習に積極的に取り組んでいる」 「学校行事に積極的に参加している」 「授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる」
「学ぶことについての意識・意味付け」に関する項目	「学校でたくさんのことを学びたいと思う／これからもっとたくさんのことを学びたいと思う」 「学校での勉強はふだんの生活を送る上で役に立つと思う」 「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う」 「学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う」
「人間関係形成・社会形成能力」に関する項目	「相手の気持ちを考えて話をするようにしている」 「自分とはちがう考え方を持つ人のことも受けとめようとしている」 「意見はわかりやすく伝えるように意識している」 「ほかの人と一緒に何かをするときには、自分ができることは何かを考えて行動するようにしている」 「ほかの人と一緒に何かをするときには、周りの人と力を合わせるということを意識している」 「必要なときには、自分の意見をはっきり言うことができる」
「自己理解・自己管理能力」に関する項目	「自分にはよいところがあると思っている」 「自分が何に興味や関心があるのかわかっている」 「身の回りのことは、できるだけ自分でしている」 「必要なときには、苦手なことにもがんばって取り組むようにしている」 「やるべきことがわかっているときには、ほかの人から指示される前に取り組むことができる」 「気持ちが沈んでいるときなどであっても、しなければならないことにはきちんと取り組むことができる」
「課題対応能力」に関する項目	「わからないことがあったときには、自分からすすんで情報を集めることができる」 「何か問題がおきたときには、なぜそうなったかを考えるようにしている」 「何か問題がおきたときには、どのようにしたらその問題が解決できるかを考えるようにしている」 「何か問題がおきたときには、次に同じようなことがおきないよう工夫をするようにしている」 「何かに取り組むときには、計画を立てて取り組むようにしている」

	「何かに取り組むときには、進め方や考え方が間違っていないか、ふり返って考えるようにしている」
「キャリアプランニング能力」に関する項目	「勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている」 「仕事をする意味について自分なりの考えを持っている」 「世の中には、様々な働き方や生き方があることを理解している」 「職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」 「将来の夢や目標が具体的にになっている」 「将来の夢や目標に向かって努力している」
「職業観・労働観」に関する項目	「自分の能力をいかせる仕事がしたい」 「人の役に立つ仕事がしたい」 「責任を伴う仕事はできるだけ避けたい」 「努力や訓練が必要な仕事はやりたくない」

「変容調査」学校質問項目

キャリア教育の取組

* 回答の選択肢は、a から g まで共通のため、a から f までは割愛した。ただし、本報告書の分析において、選択肢の表現にある「〇年生を対象にしている」といった〇年生の学年に当たる部分については、当該分析が対象とする学年に応じて1年生や2年生である場合がある。

- a) キャリアプラン等の作成
- b) キャリア・ポートフォリオの作成・活用
- c) 上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会
- d) 卒業生（大学生や若手社会人など）による講演・体験発表会・懇談会
- e) 上級学校のオープンキャンパス等への参加
- f) 職場見学・ジョブシャドウイング
- g) 就業体験（インターンシップ）
 - 1. 3年生を対象に実施している（今年度既に実施済み）
 - 2. 3年生を対象に実施している（今年度中に実施予定）
 - 3. 実施しているが、3年生対象ではない
 - 4. 実施していない

出典：『変容調査報告書』87-88 ページ

キャリア教育の取組にかかる事前指導・事後指導の内容

- * 事前指導・事後指導については、第3回学校調査において、c) 上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会、f) 職場見学・ジョブシャドウイングとg) 就業体験（インターンシップ）の設問に関して尋ねられている。基本的には同じ設問内容で体験活動の内容の箇所が差し替えられているため、ここでは、本報告書の分析で用いられているg) 就業体験（インターンシップ）に関するものだけを抜粋、掲載した。

g-1) 就業体験（インターンシップ）について、「実施していない」以外の選択肢1～3を選択した場合におたずねします。就業体験（インターンシップ）に関連して、貴校ではどのようなことを実施していますか。（あてはまるものに全て○）

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. マナー指導 | 2. 就業体験の内容に関する事前の調べ学習 |
| 3. 就業体験の目的を確認するための指導 | 4. 訪問・受入先に対するお礼状の作成 |
| 5. 報告書・レポートの作成 | 6. 就業体験に関連した成果発表会の実施 |
| 7. 就業体験に関する内容での個人面談・個人指導 | 8. 就業体験と教科の学習内容とを結び付けた指導 |
| 9. その他の事前・事後指導 | |
| 10. 上記のようなことは特に実施していない | |

出典：『変容調査報告書』88 ページ

○ 第 1 章

付表 1－1 情報提供を受けていないか覚えていない者とそれ以外の者の「困難への対応」(図 1)

問 9 困難な問題が起こったときの相談できる学校から情報提供を受けた機関	問 8 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったとき、あなたはどのようにしますか						
	問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っているので、活用する	相談や支援に関する公的な機関の存在は知っているが、活用の仕方がわからない	相談や支援に関する公的な機関は知らないが、家族や友人などに相談や支援を求める	1人で問題を解決しようとする	解決の方法を知らない	その他	合計
情報提供はなかった＋覚えていない	7.6% (54 人)	6.0% (43 人)	74.1% (528 人)	7.6% (54 人)	2.5% (18 人)	2.2% (16 人)	100.0% (713 人)
上記以外	18.0% (77 人)	9.3% (40 人)	65.9% (282 人)	4.2% (18 人)	0.9% (4 人)	1.6% (7 人)	100.0% (428 人)
合計	11.5% (131 人)	7.3% (83 人)	71.0% (810 人)	6.3% (72 人)	1.9% (22 人)	2.0% (23 人)	100.0% (1,141 人)

$$\chi^2(5) = 40.360, \quad p < .001$$

付表 1－2 諸リスクへの対応についての学習状況にみる「困難への対応」(図 2)

問 11(25) 就職後の離職・失業など、将来起こりうる人生上の諸リスクへの対応についての学習	問 8 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったとき、あなたはどのようにしますか						
	問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っているので、活用する	相談や支援に関する公的な機関の存在は知っているが、活用の仕方がわからない	相談や支援に関する公的な機関は知らないが、家族や友人などに相談や支援を求める	1人で問題を解決しようとする	解決の方法を知らない	その他	合計
役に立った	15.1% (89 人)	6.3% (37 人)	70.0% (413 人)	4.9% (29 人)	1.5% (9 人)	2.2% (13 人)	100.0% (590 人)
役に立たなかった	7.9% (6 人)	6.6% (5 人)	71.1% (54 人)	7.9% (6 人)	2.6% (2 人)	3.9% (3 人)	100.0% (76 人)
取り組んでいない(指導がなかった)	7.5% (37 人)	9.1% (45 人)	71.8% (354 人)	7.9% (39 人)	2.2% (11 人)	1.4% (7 人)	100.0% (493 人)
合計	11.4% (132 人)	7.5% (87 人)	70.8% (821 人)	6.4% (74 人)	1.9% (22 人)	2.0% (23 人)	100.0% (1,159 人)

$$\chi^2(10) = 24.967, \quad p < .01$$

付表 1－3 困難への対応別にみる「情報提供の有無」(図 3)

問 8 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったとき、あなたはどうしますか	問 9 困難な問題が起こったときの相談できる学校から情報提供を受けた機関		
	情報提供はなかった＋覚えていない	上記以外	合計
問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っているので、活用する	41.2% (54 人)	58.8% (77 人)	100.0% (131 人)
相談や支援に関する公的な機関の存在は知っているが、活用の仕方がわからない	51.8% (43 人)	48.2% (40 人)	100.0% (83 人)
相談や支援に関する公的な機関は知らないが、家族や友人などに相談や支援を求める	65.2% (528 人)	34.8% (282 人)	100.0% (810 人)
1 人で問題を解決しようとする	75.0% (54 人)	25.0% (18 人)	100.0% (72 人)
解決のための方法を知らない	81.8% (18 人)	18.2% (4 人)	100.0% (22 人)
その他	69.6% (16 人)	30.4% (7 人)	100.0% (23 人)
合計	62.5% (713 人)	37.5% (428 人)	100.0% (1,141 人)

$$\chi^2(5) = 40.636, \quad p < .001$$

付表 1－3 諸リスクへの対応についての学習状況にみる「情報提供の有無」(図 4)

問 11 (25) 就職後の離職・失業など、将来起こりうる人生上の諸リスクへの対応についての学習	問 9 困難な問題が起こったときの相談できる学校から情報提供を受けた機関		
	情報提供はなかった＋覚えていない	上記以外	合計
役に立った	55.3% (324 人)	44.7% (262 人)	100.0% (596 人)
役に立たなかった	73.3% (55 人)	26.7% (20 人)	100.0% (75 人)
取り組んでいない (指導がなかった)	69.8% (339 人)	30.2% (147 人)	100.0% (486 人)
合計	62.6% (718 人)	37.4% (429 人)	100.0% (1,147 人)

$$\chi^2(2) = 27.686, \quad p < .001$$

○ 第2章

付表2-1 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったときに相談できる以下の機関のうち、高校生のときに学校から情報提供を受けたもの（複数回答）（図1）

問9 学校から情報提供を受けたもの											
問8 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こった時、あなたはどのような（複数回答）	大学や専門学校等の就職支援センター	大学や専門学校等の学生相談窓口	公共職業安定所（ハローワーク）	ジョブカフェ	地域若者サポートステーション（サポステ）	労働基準監督署	総合労働相談コーナー（都道府県労働局など）	労政事務所（労働相談情報センターなど、地域によって名称は異なる）	上記の機関に関する情報提供はなかった	上記の機関に関する情報提供の有無について覚えていない	合計
その他（回答者=23）	8.7	8.7	13.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	21.7	47.8	23
解決のための方法を知らない（回答者=22）	4.5	9.1	13.6	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	40.9	40.9	22
1人で問題を解決しようとする（回答者数=72）	6.9	8.3	13.9	6.9	0.0	0.0	1.4	0.0	27.8	47.2	72
相談や支援に関する公的な機関は知らないが、家族や友人などに相談や支援を求める（回答者数=810）	9.9	13.6	20.2	4.3	0.9	1.6	1.9	0.7	16.2	49.0	810
相談や支援に関する公的な機関の存在は知っているが、活用の仕方がわからない（回答者数=83）	13.3	19.3	34.9	4.8	2.4	2.4	3.6	2.4	14.5	37.3	83
問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っているので、活用する（回答者数=131）	28.2	35.9	20.6	2.3	0.0	3.8	1.5	1.5	11.5	29.8	131
合計	136 11.9%	183 16.0%	236 20.7%	47 4.1%	10 .9%	21 1.8%	21 1.8%	10 .9%	192 16.8%	521 45.7%	1,141 100.0%

付表2-2 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こったとき、あなたはどのようにするかへの回答（図2）

		問8 学校や職場などで学んだり働いたりすることが困難な問題が起こった時、あなたはどのようにするか						合計
		問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っているので、活用する	相談や支援に関する公的な機関の存在は知っているが、活用の仕方がわからない	相談や支援に関する公的な機関は知らないが、家族や友人などに相談や支援を求める	1人で問題を解決しようとする	解決のための方法を知らない	その他	
「公共職業安定所（ハローワーク）」 学校から情報提供を	受けていない (回答者数=905)	11.5	6.0	71.4	6.9	2.1	2.2	905
	受けた (回答者数=236)	11.4	12.3	69.5	4.2	1.3	1.3	236
「大学や専門学校等の学生相談窓口」 学校から情報提供を	受けていない (回答者数=958)	8.8	7.0	73.1	6.9	2.1	2.2	958
	受けた (回答者数=183)	25.7	8.7	60.1	3.3	1.1	1.1	183
「大学や専門学校等の就職支援センター」 学校から情報提供を	受けていない (回答者数=1,005)	9.4	7.2	72.6	6.7	2.1	2.1	1,005
	受けた (回答者数=136)	27.2	8.1	58.8	3.7	0.7	1.5	136

付表 2 - 3

関連が見られた 7 項目

①自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習		問13 指導してほしかったこと_自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	158	209	367
	期待度数	144.4	222.6	367.0
	%	43.1%	56.9%	100.0%
	調整済み残差	1.8	-1.8	
少しは役に立った	度数	190	317	507
	期待度数	199.5	307.5	507.0
	%	37.5%	62.5%	100.0%
	調整済み残差	-1.2	1.2	
役に立たなかった	度数	32	96	128
	期待度数	50.4	77.6	128.0
	%	25.0%	75.0%	100.0%
	調整済み残差	-3.5	3.5	
取り組んでいない（指導がなかった）	度数	73	76	149
	期待度数	58.6	90.4	149.0
	%	49.0%	51.0%	100.0%
	調整済み残差	2.6	-2.6	
合計	度数	453	698	1151
	期待度数	453.0	698.0	1151.0
	%	39.4%	60.6%	100.0%

$$\chi^2(3)=19.703, \quad p < .01$$

②社会人・職業人としての常識やマナーについての学習		問13 指導してほしかったこと_社会人・職業人としての常識やマナー		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	205	315	520
	期待度数	208.0	312.0	520.0
	%	39.4%	60.6%	100.0%
	調整済み残差	-.4	.4	
少しは役に立った	度数	137	253	390
	期待度数	156.0	234.0	390.0
	%	35.1%	64.9%	100.0%
	調整済み残差	-2.4	2.4	
役に立たなかった	度数	18	22	40
	期待度数	16.0	24.0	40.0
	%	45.0%	55.0%	100.0%
	調整済み残差	.7	-.7	
取り組んでいない（指導がなかった）	度数	100	100	200
	期待度数	80.0	120.0	200.0
	%	50.0%	50.0%	100.0%
	調整済み残差	3.2	-3.2	
合計	度数	460	690	1150
	期待度数	460.0	690.0	1150.0
	%	40.0%	60.0%	100.0%

$$\chi^2(3)=12.679, \quad p < .01$$

③進学にかかる費用や奨学金についての情報		問13 指導してほしかったこと_進学にかかる費用や奨学金制度		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	86	354	440
	期待度数	73.1	366.9	440.0
	%	19.5%	80.5%	100.0%
	調整済み残差	2.1	-2.1	
少しは役に立った	度数	67	330	397
	期待度数	66.0	331.0	397.0
	%	16.9%	83.1%	100.0%
	調整済み残差	.2	-.2	
役に立たなかった	度数	21	106	127
	期待度数	21.1	105.9	127.0
	%	16.5%	83.5%	100.0%
	調整済み残差	.0	.0	
取り組んでいない（指導がなかった）	度数	17	168	185
	期待度数	30.8	154.2	185.0
	%	9.2%	90.8%	100.0%
	調整済み残差	-3.0	3.0	
合計	度数	191	958	1149
	期待度数	191.0	958.0	1149.0
	%	16.6%	83.4%	100.0%

$$\chi^2(3)=10.107, \quad p < .05$$

④社会全体のグローバル化（国際化）の動向についての学習		問13 指導してほしかったこと_社会全体のグローバル化（国際化）の動向		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	34	164	198
	期待度数	23.2	174.8	198.0
	%	17.2%	82.8%	100.0%
	調整済み残差	2.6	-2.6	
少しは役に立った	度数	39	435	474
	期待度数	55.6	418.4	474.0
	%	8.2%	91.8%	100.0%
	調整済み残差	-3.1	3.1	
役に立たなかった	度数	9	125	134
	期待度数	15.7	118.3	134.0
	%	6.7%	93.3%	100.0%
	調整済み残差	-1.9	1.9	
取り組んでいない（指導がなかった）	度数	53	292	345
	期待度数	40.5	304.5	345.0
	%	15.4%	84.6%	100.0%
	調整済み残差	2.5	-2.5	
合計	度数	135	1016	1151
	期待度数	135.0	1016.0	1151.0
	%	11.7%	88.3%	100.0%

$$\chi^2(3)=18.928, \quad p < .01$$

⑤就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応についての学習		問13 指導してほしかったこと_就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	51	132	183
	期待度数	47.9	135.1	183.0
	%	27.9%	72.1%	100.0%
	調整済み残差	.6	-.6	
少しは役に立った	度数	85	317	402
	期待度数	105.1	296.9	402.0
	%	21.1%	78.9%	100.0%
	調整済み残差	-2.8	2.8	
役に立たなかった	度数	14	61	75
	期待度数	19.6	55.4	75.0
	%	18.7%	81.3%	100.0%
	調整済み残差	-1.5	1.5	
取り組んでいない（指導がなかった）	度数	151	340	491
	期待度数	128.4	362.6	491.0
	%	30.8%	69.2%	100.0%
	調整済み残差	3.1	-3.1	
合計	度数	301	850	1151
	期待度数	301.0	850.0	1151.0
	%	26.2%	73.8%	100.0%

$$\chi^2(3)=13.059, \quad p < .01$$

⑥転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組みについての学習		問13 指導してほしかったこと_転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組み		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	14	86	100
	期待度数	16.8	83.2	100.0
	%	14.0%	86.0%	100.0%
	調整済み残差	-.8	.8	
少しは役に立った	度数	44	270	314
	期待度数	52.7	261.3	314.0
	%	14.0%	86.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.5	1.5	
役に立たなかった	度数	10	93	103
	期待度数	17.3	85.7	103.0
	%	9.7%	90.3%	100.0%
	調整済み残差	-2.0	2.0	
取り組んでいない（指導がなかった）	度数	125	509	634
	期待度数	106.3	527.7	634.0
	%	19.7%	80.3%	100.0%
	調整済み残差	3.0	-3.0	
合計	度数	193	958	1151
	期待度数	193.0	958.0	1151.0
	%	16.8%	83.2%	100.0%

$$\chi^2(3)=9.883, \quad p < .05$$

⑦男女が対等な構成員として様々な活動に参画できる社会（男女共同参画社会）の重要性についての学習		問13 指導してほしかったこと_男女が対等な構成員として様々な活動に参画できる社会（男女共同参画社会）の		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	28	177	205
	期待度数	14.2	190.8	205.0
	%	13.7%	86.3%	100.0%
	調整済み残差	4.2	-4.2	
少しは役に立った	度数	26	449	475
	期待度数	33.0	442.0	475.0
	%	5.5%	94.5%	100.0%
	調整済み残差	-1.7	1.7	
役に立たなかった	度数	5	96	101
	期待度数	7.0	94.0	101.0
	%	5.0%	95.0%	100.0%
	調整済み残差	-.8	.8	
取り組んでいない（指導がなかった）	度数	21	349	370
	期待度数	25.7	344.3	370.0
	%	5.7%	94.3%	100.0%
	調整済み残差	-1.2	1.2	
合計	度数	80	1071	1151
	期待度数	80.0	1071.0	1151.0
	%	7.0%	93.0%	100.0%

$$\chi^2(3)=17.419, \quad p < .01$$

関連が見られなかった6項目

⑧学ぶことや働くことの意義についての学習		問13 指導してほしかったこと_学ぶことや働くことの意義や目的		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	85	252	337
	期待度数	71.5	265.5	337.0
	%	25.2%	74.8%	100.0%
	調整済み残差	2.1	-2.1	
少しは役に立った	度数	122	474	596
	期待度数	126.5	469.5	596.0
	%	20.5%	79.5%	100.0%
	調整済み残差	-.6	.6	
役に立たなかった	度数	15	80	95
	期待度数	20.2	74.8	95.0
	%	15.8%	84.2%	100.0%
	調整済み残差	-1.4	1.4	
取り組んでいない（指導がなかった）	度数	22	100	122
	期待度数	25.9	96.1	122.0
	%	18.0%	82.0%	100.0%
	調整済み残差	-.9	.9	
合計	度数	244	906	1150
	期待度数	244.0	906.0	1150.0
	%	21.2%	78.8%	100.0%

$$\chi^2(3)=5.848, \quad p > .1$$

⑨卒業後の進路（進学や就職）に関する情報の入手方法とその利用の仕方		問13 指導してほしかったこと_卒業後の進路（進学や就職）に関する情報の入手方法とその利用の仕方		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	126	454	580
	期待度数	125.6	454.4	580.0
	%	21.7%	78.3%	100.0%
	調整済み残差	.1	-.1	
少しは役に立った	度数	102	359	461
	期待度数	99.8	361.2	461.0
	%	22.1%	77.9%	100.0%
	調整済み残差	.3	-.3	
役に立たなかった	度数	10	46	56
	期待度数	12.1	43.9	56.0
	%	17.9%	82.1%	100.0%
	調整済み残差	-.7	.7	
取り組んでいない（指導がなかった）	度数	11	42	53
	期待度数	11.5	41.5	53.0
	%	20.8%	79.2%	100.0%
	調整済み残差	-.2	.2	
合計	度数	249	901	1150
	期待度数	249.0	901.0	1150.0
	%	21.7%	78.3%	100.0%

$$\chi^2(3)=0.563, \quad p > .1$$

⑩将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計		問13 指導してほしかったこと_将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	92	273	365
	期待度数	88.8	276.2	365.0
	%	25.2%	74.8%	100.0%
	調整済み残差	.5	-.5	
少しは役に立った	度数	126	437	563
	期待度数	137.0	426.0	563.0
	%	22.4%	77.6%	100.0%
	調整済み残差	-1.5	1.5	
役に立たなかった	度数	27	76	103
	期待度数	25.1	77.9	103.0
	%	26.2%	73.8%	100.0%
	調整済み残差	.5	-.5	
取り組んでいない（指導がなかった）	度数	35	85	120
	期待度数	29.2	90.8	120.0
	%	29.2%	70.8%	100.0%
	調整済み残差	1.3	-1.3	
合計	度数	280	871	1151
	期待度数	280.0	871.0	1151.0
	%	24.3%	75.7%	100.0%

$$\chi^2(3)=3.038, \quad p > .1$$

⑪上級学校（大学、短期大学、専門学校等）や企業への合格・採用の可能性		問13 指導してほしかったこと_上級学校（大学、短期大学、専門学校等）や企業への合格・採用の可能性		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	61	321	382
	期待度数	56.4	325.6	382.0
	%	16.0%	84.0%	100.0%
	調整済み残差	.8	-.8	
少しは役に立った	度数	60	380	440
	期待度数	65.0	375.0	440.0
	%	13.6%	86.4%	100.0%
	調整済み残差	-.9	.9	
役に立たなかった	度数	19	90	109
	期待度数	16.1	92.9	109.0
	%	17.4%	82.6%	100.0%
	調整済み残差	.8	-.8	
取り組んでいない（指導がなかった）	度数	30	190	220
	期待度数	32.5	187.5	220.0
	%	13.6%	86.4%	100.0%
	調整済み残差	-.5	.5	
合計	度数	170	981	1151
	期待度数	170.0	981.0	1151.0
	%	14.8%	85.2%	100.0%

$$\chi^2(3)=1.723, \quad p > .1$$

⑫労働に関する法律や制度 の仕組みについての学習		問13 指導してほしかったこと_労働 に関する法制や制度の仕組み		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	32	149	181
	期待度数	26.1	154.9	181.0
	%	17.7%	82.3%	100.0%
	調整済み残差	1.4	-1.4	
少しは役に 立った	度数	77	433	510
	期待度数	73.6	436.4	510.0
	%	15.1%	84.9%	100.0%
	調整済み残差	.6	-.6	
役に立たな かった	度数	11	110	121
	期待度数	17.5	103.5	121.0
	%	9.1%	90.9%	100.0%
	調整済み残差	-1.8	1.8	
取り組んで いない（指 導がなかつ た）	度数	46	292	338
	期待度数	48.8	289.2	338.0
	%	13.6%	86.4%	100.0%
	調整済み残差	-.5	.5	
合計	度数	166	984	1150
	期待度数	166.0	984.0	1150.0
	%	14.4%	85.6%	100.0%

$\chi^2(3)=4.709$, $p > .1$

⑬近年の若者の雇用・就 職・就業の動向についての 学習		問13 指導してほしかったこと_近年 の若者の雇用・就職・就業の動向		合計
		選択	非選択	
役に立った	度数	54	239	293
	期待度数	54.3	238.7	293.0
	%	18.4%	81.6%	100.0%
	調整済み残差	.0	.0	
少しは役に 立った	度数	98	423	521
	期待度数	96.5	424.5	521.0
	%	18.8%	81.2%	100.0%
	調整済み残差	.2	-.2	
役に立たな かった	度数	9	81	90
	期待度数	16.7	73.3	90.0
	%	10.0%	90.0%	100.0%
	調整済み残差	-2.2	2.2	
取り組んで いない（指 導がなかつ た）	度数	52	194	246
	期待度数	45.6	200.4	246.0
	%	21.1%	78.9%	100.0%
	調整済み残差	1.2	-1.2	
合計	度数	213	937	1150
	期待度数	213.0	937.0	1150.0
	%	18.5%	81.5%	100.0%

$\chi^2(3)=5.477$, $p > .1$

○ 第 3 章

付表 3－1 職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学んだ割合（高等学校時代の学科別）（図 1）

	普通科	職業に関する 専門学科	総合学科	検定結果
近年の若者の雇用・就職・就業の 動向についての学習	70.7%	87.9%	86.9%	***
就職後の離職・転職など、 将来起こり得る人生上の諸リスクへの 対応についての学習	47.1%	70.6%	62.6%	***
転職希望者や再就職希望者などへの 就職支援の仕組についての学習	34.5%	58.3%	50.5%	***

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

付表 3－2 職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学んだ割合（高等学校時代の学科別・卒業 1 年目の状況別）（図 2）

		普通科	職業に関する 専門学科	総合学科	検定結果
在学中・ 進学準備 中	近年の若者の雇用・就職・就業の 動向についての学習	69.8%	82.6%	86.1%	***
	就職後の離職・転職など、 将来起こり得る人生上の諸リスクへの 対応についての学習	46.0%	66.9%	56.9%	***
	転職希望者や再就職希望者などへの 就職支援の仕組についての学習	32.7%	50.6%	45.8%	***
就業中・ 求職中	近年の若者の雇用・就職・就業の 動向についての学習	77.8%	91.7%	91.3%	
	就職後の離職・転職など、 将来起こり得る人生上の諸リスクへの 対応についての学習	66.7%	72.8%	73.9%	
	転職希望者や再就職希望者などへの 就職支援の仕組についての学習	66.7%	63.4%	65.2%	

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

付表３－３ 職業生活に関する各相談機関の情報提供を受けた割合（高等学校時代の学科別）（図３）

	普通科	職業に関する 専門学科	総合学科	検定結果
◆公共職業安定所 （ハローワーク）	15.7%	26.3%	25.8%	***
★ジョブカフェ	2.2%	6.7%	5.2%	**
★地方若者サポート ステーション（サポステ）	0.5%	1.6%	0.0%	
★労働基準監督署	0.7%	3.2%	2.1%	**
★総合労働相談コーナー （都道府県労働局など）	1.2%	3.2%	0.0%	*
★労政事務所	0.0%	2.3%	0.0%	***
上記の6つの相談機関を いずれも選択していない	82.8%	67.5%	72.2%	***

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

付表３－４ 職業生活に関する各相談機関の情報提供を受けた割合（高等学校時代の学科別・卒業１年目の状況別）（図４）

	普通科	職業に関する 専門学科	総合学科	検定結果
◆公共職業安定所 （ハローワーク）	14.6%	21.2%	21.1%	
★（公共職業安定所以外の 就労に関する相談機関） を1つ以上選択	3.5%	11.2%	5.6%	***
◆公共職業安定所 （ハローワーク）	38.5%	29.2%	45.5%	
★（公共職業安定所以外の 就労に関する相談機関） を1つ以上選択	7.7%	17.1%	13.6%	

付表３－５ 働くことが困難な問題が起こったときの対応（就業中・求職中の対象者に限定）（図５）

	就業中・求職中		
	普通科	職業に関する 専門学科	総合学科
問題を解決するための相談や支援に関する 公的な機関を知っているので、活用する	7.7%	11.2%	0.0%
相談や支援に関する公的な機関の存在は 知っているが、活用の仕方がわからない	3.8%	6.2%	8.7%
相談や支援に関する公的な機関は知らないが、 家族や友人などに相談や支援を求める	73.1%	71.9%	87.0%
1人で問題を解決しようとする	0.0%	5.8%	4.3%
解決の方法を知らない	7.7%	1.7%	0.0%
その他	7.7%	3.3%	0.0%
※有意確率			p=0.267

※リスクや再転職に関する情報は、普通科や、在学者になされていない傾向にある。相談機関も、普通科や在学者が知らない傾向にある。困ったときに公的機関を活用しようとする卒業生は、程度の差はあれどの学科出身者でもごく少数となっている。

→ 実際に相談活動につながるようなリスクや再転職、相談機関の情報の仕方を検討することが課題

付表３－６ 働くことが困難な問題が起こったときに相談機関を活用する割合（各相談機関の情報提供の有無別、就業中・求職中の対象者に限定）（図６）

		情報提供を受 けた	情報提供を受 けなかった	検定結果
就業中・ 求職中	◆公共職業安定所 (ハローワーク)	10.1%	10.2%	p=0.992
	★（公共職業安定所以外の 就労に関する相談機関） を1つ以上選択	13.0%	9.6%	p=0.476

○ 第 4 章

付表 4 - 1 学級担任の指導状況と保護者の指導へのニーズ（図 1）

		教師：よく指導 している	保護者：重点を おいて指導して ほしいと思う	保護者 - 教師
人間関係形成・社 会形成能力	様々な立場や考えの相手に対して、 その意見を聴き理解しようとする	54.7%	62.8%	8.1%
	相手が理解しやすいように、 自分の考えや気持ちを整理して伝えること	44.1%	70.2%	26.1%
	自分の果たすべき役割や分担を考え、 周囲の人と力を合わせて行動しようとする	67.9%	70.2%	2.3%
	自分の興味や関心、長所や短所などについて把握し、 自分らしさを発揮すること	32.6%	52.0%	19.4%
自己理解・自己管 理能力	喜怒哀楽の感情に流されず、 自分の行動を適切に律して取り組もうとする	36.9%	36.1%	-0.8%
	不得意なことや苦手なことでも、 自分の成長のために進んで取り組もうとする	55.5%	51.6%	-3.9%
	調べたいことがある時、自ら進んで資料や情報を集め、 必要な情報を取捨選択すること	32.3%	57.7%	25.4%
	起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、 どう解決するのかを工夫すること	27.6%	61.1%	33.5%
課題対応能力	活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、 評価や改善を加えて実行したりすること	17.8%	47.4%	29.6%
	学ぶことや働くことの意義について理解し、 学校での学習と自分の将来をつなげて考えること	31.6%	50.2%	18.6%
	自分の将来について具体的な目標をたて、 現実を考えながらその実現のための方法を考えること	13.0%	38.9%	25.9%
	自分の将来の目標の実現に向かって具体的に行動したり、 その方法を工夫・改善したりすること	10.7%	41.3%	30.6%
キャリアプラン ニング能力	調べたいことがある時、 自ら進んで資料や情報を集め、 必要な情報を取捨選択すること	26.2%	35.0%	**
	起きた問題の原因、 解決すべき課題はどこにあり、 どう解決するのかを工夫すること	21.2%	30.3%	***
	活動や学習を進める際、 適切な計画を立てて進めたり、 評価や改善を加えて実行したりすること	12.1%	20.3%	***
	学ぶことや働くことの意義について理解し、 学校での学習と自分の将来を つなげて考えること	21.8%	35.6%	***
キャリアプ ランニング 能力	自分の将来について具体的な目標をたて、 現実を考えながらその実現のための 方法を考えること	10.0%	14.4%	*
	自分の将来の目標の実現に向かって 具体的に行動したり、 その方法を工夫・改善したりすること	8.7%	11.5%	

付表 4 - 2 「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況と「指導の内容・方法をどのようにしたらよいかわからない」との関連（図 3）

※%は「よく指導している」と回答した担任の割合		指導の内容・方法を どのようにしたらよいかわからない		
		選択	非選択	検定結果
課題対応能力	調べたいことがある時、 自ら進んで資料や情報を集め、 必要な情報を取捨選択すること	26.2%	35.0%	**
	起きた問題の原因、 解決すべき課題はどこにあり、 どう解決するのかを工夫すること	21.2%	30.3%	***
	活動や学習を進める際、 適切な計画を立てて進めたり、 評価や改善を加えて実行したりすること	12.1%	20.3%	***
キャリアプラン ニング能力	学ぶことや働くことの意義について理解し、 学校での学習と自分の将来を つなげて考えること	21.8%	35.6%	***
	自分の将来について具体的な目標をたて、 現実を考えながらその実現のための 方法を考えること	10.0%	14.4%	*
	自分の将来の目標の実現に向かって 具体的に行動したり、 その方法を工夫・改善したりすること	8.7%	11.5%	

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

付表４－３ 「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況とキャリア教育の授業実践に関する校内研修への参加との関連（図４）

※%は「よく指導している」と回答した担任の割合		キャリア教育の授業実践に関する研修（校内・今年度）		
		参加（参加予定）	不参加	検定結果
課題対応能力	調べたいことがある時、自ら進んで資料や情報を集め、必要な情報を取捨選択すること	<u>38.8%</u>	31.4%	*
	起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること	<u>33.1%</u>	26.8%	*
	活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること	<u>26.1%</u>	16.3%	***
キャリアプランニング能力	学ぶことや働くことの意義について理解し、学校での学習と自分の将来をつなげて考えること	<u>42.9%</u>	30.1%	***
	自分の将来について具体的な目標をたて、現実を考えながらその実現のための方法を考えること	16.7%	12.5%	
	自分の将来の目標の実現に向かって具体的に行動したり、その方法を工夫・改善したりすること	<u>16.0%</u>	9.9%	**

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

付表４－４ 「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況とほかの小学校のキャリア教育に関する授業研究会への参加との関連（図５）

※%は「よく指導している」と回答した担任の割合		他の小学校のキャリア教育に関する授業研究会（最近5年間）		
		参加	不参加	検定結果
課題対応能力	調べたいことがある時、自ら進んで資料や情報を集め、必要な情報を取捨選択すること	<u>45.8%</u>	30.2%	***
	起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること	<u>34.4%</u>	26.6%	*
	活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること	<u>27.3%</u>	16.4%	***
キャリアプランニング能力	学ぶことや働くことの意義について理解し、学校での学習と自分の将来をつなげて考えること	<u>43.6%</u>	29.8%	***
	自分の将来について具体的な目標をたて、現実を考えながらその実現のための方法を考えること	<u>20.7%</u>	11.9%	***
	自分の将来の目標の実現に向かって具体的に行動したり、その方法を工夫・改善したりすること	<u>18.9%</u>	9.3%	***

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

付表４－５ 「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況と「学級のキャリア教育について困ったり悩んだりしていること」の関連

			問6 学級のキャリア教育に関して困ったり悩んだりしていること										
			キャリア教育の全体 計画がない		キャリア教育に関する 学年や学級の計画 がない		キャリア教育を実施 する十分な時間が確 保できない		キャリア教育に関する 指導の内容・方法 をどのようにしたら よいかわからない		キャリア教育の適切 な教材が得られない		
重 点 を 置 いて 指 導 教 育 を 行 う こ と	課 題 対 応 能 力	調べたいことがある時、自ら進んで資料や情報を集め、必要な情報を取捨選択すること	「よく指導している」の割合	31.7%	32.6%	31.8%	32.6%	32.1%	32.7%	26.2%	35.0%	32.8%	32.3%
			ポイント差 (選択－非選択)	-0.9		-0.8		-0.6		-8.8 **		0.5	
		起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること	「よく指導している」の割合	24.0%	28.7%	22.3%	29.0%	25.2%	29.4%	21.2%	30.3%	26.2%	28.2%
			ポイント差 (選択－非選択)	-4.7		-6.7 *		-4.2		-9.1 ***		-2.0	
		活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること	「よく指導している」の割合	15.7%	18.5%	17.9%	17.9%	14.9%	20.0%	12.1%	20.3%	16.0%	18.6%
			ポイント差 (選択－非選択)	-2.8		0.0		-5.1 **		-8.2 ***		-2.6	
	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ 能 力	学ぶことや働くことの意義について理解し、学校での学習と自分の将来をつなげて考えること	「よく指導している」の割合	26.0%	33.2%	25.2%	33.2%	29.0%	33.5%	21.8%	35.6%	31.3%	31.8%
			ポイント差 (選択－非選択)	-7.2 *		-8.0 **		-4.5		-13.8 ***		-0.5	
		自分の将来について具体的な目標をたて、現実を考えながらその実現のための方法を考えること	「よく指導している」の割合	10.9%	13.7%	10.7%	13.7%	11.0%	14.5%	10.0%	14.4%	12.1%	13.5%
			ポイント差 (選択－非選択)	-2.8		-3.0		-3.5 *		-4.4 *		-1.4	
		自分の将来の目標の実現に向かって具体的に行動したり、その方法を工夫・改善したりすること	「よく指導している」の割合	9.1%	11.1%	8.2%	11.3%	9.3%	11.6%	8.7%	11.5%	10.2%	10.8%
			ポイント差 (選択－非選択)	-2.0		-3.1		-2.3		-2.8		-0.6	

			問6 学級のキャリア教育に関して困ったり悩んだりしていること									
			キャリア・カウンセリングの内容・方法がわからない		キャリア教育を推進する予算が確保されない		キャリア教育に関する研修の機会が得られない		キャリア教育の計画・実施についての評価の仕方がわからない			
			選択	非選択	選択	非選択	選択	非選択	選択	非選択		
重 点 を 置 いて 指 導 教 育 を 行 う こ と	課 題 対 応 能 力	調べたいことがある時、自ら進んで資料や情報を集め、必要な情報を取捨選択すること	「よく指導している」の割合	34.3%	31.3%	36.4%	31.7%	28.7%	33.3%	27.3%	35.0%	
			ポイント差 (選択－非選択)	3.0		4.7		-4.6		-7.7 **		
		起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること	「よく指導している」の割合	25.4%	29.1%	35.2%	26.3%	27.1%	27.8%	26.4%	28.4%	
			ポイント差 (選択－非選択)	-3.7		8.9 **		-0.7		-2.0		
		活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること	「よく指導している」の割合	16.4%	18.9%	22.6%	17.1%	16.8%	18.2%	13.0%	20.4%	
			ポイント差 (選択－非選択)	-2.5		5.5 *		-1.4		-7.4 ***		
	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ 能 力	学ぶことや働くことの意義について理解し、学校での学習と自分の将来をつなげて考えること	「よく指導している」の割合	29.9%	32.7%	43.7%	29.4%	26.5%	32.8%	29.1%	32.9%	
			ポイント差 (選択－非選択)	-2.8		14.3 ***		-6.3 *		-3.8		
		自分の将来について具体的な目標をたて、現実を考えながらその実現のための方法を考えること	「よく指導している」の割合	12.0%	13.8%	16.9%	12.4%	9.7%	13.9%	12.6%	13.4%	
			ポイント差 (選択－非選択)	-1.8		4.5		-4.2 *		-0.8		
		自分の将来の目標の実現に向かって具体的に行動したり、その方法を工夫・改善したりすること	「よく指導している」の割合	9.0%	11.7%	14.6%	10.0%	8.4%	11.2%	9.4%	11.3%	
			ポイント差 (選択－非選択)	-2.7		4.6 *		-2.8		-1.9		

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

付表４－６ 「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の指導状況と「今年度参加した（参加予定がある）校内研修会」「学校外における研修等への参加状況」との関連

			問1(3) 今年度参加した（参加予定がある）校内研修会				問1(4) 学校外の研修等への参加状況 （平成20年度から5年間）																			
			キャリア教育の概要 や推進方策全般に関する研修		キャリア教育の授業 実践に関する研修		他の小学校のキャリア教育に関する授業 研究会		幼稚園・保育所の公開授業（キャリア教育にかかわらず）		中学校の公開授業（キャリア教育にかかわらず）		教育相談、キャリアカウンセリングの研修会													
			（定）	（参）	（参）	（不）	（定）	（参）	（参）	（不）	（参）	（不）	（参）	（不）	（参）	（不）										
			予	加	加	参	加	予	加	加	参	加	参	加	予	加	加	参	加	参	加	予	加	加	参	加
重 点 を 置 い て リ ア 導 教 育 を 行 う こ と	課 題 対 応 能 力	調べたいことがある時、自ら進んで資料や情報を集め、必要な情報を取捨選択すること	「よく指導している」の割合	33.6%	32.2%	38.8%	31.4%	45.8%	30.2%	35.2%	31.9%	36.6%	29.4%	36.1%	30.9%											
			ポイント差 （参加－不参加）	1.4		7.4 *		15.6 ***		3.3		7.2 **		5.2 *												
		起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること	「よく指導している」の割合	31.4%	26.7%	33.1%	26.8%	34.4%	26.6%	35.2%	26.5%	31.8%	24.8%	35.7%	24.5%											
			ポイント差 （参加－不参加）	4.7		6.3 *		7.8 *		8.7 *		7.0 **		11.2 ***												
		活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること	「よく指導している」の割合	21.5%	16.8%	26.1%	16.3%	27.3%	16.4%	21.5%	17.3%	19.8%	16.5%	20.6%	16.8%											
			ポイント差 （参加－不参加）	4.7 *		9.8 ***		10.9 ***		4.2		3.3		3.8												
	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ 能 力	学ぶことや働くことの意義について理解し、学校での学習と自分の将来をつなげて考えること	「よく指導している」の割合	42.9%	29.0%	42.9%	30.1%	43.6%	29.8%	33.9%	31.3%	33.9%	30.2%	34.9%	30.4%											
			ポイント差 （参加－不参加）	13.9 ***		12.8 ***		13.8 ***		2.6		3.7		4.5												
		自分の将来について具体的な目標をたて、現実を考えながらその実現のための方法を考えること	「よく指導している」の割合	16.4%	12.3%	16.7%	12.5%	20.7%	11.9%	12.0%	13.3%	13.3%	12.9%	14.1%	12.7%											
			ポイント差 （参加－不参加）	4.1 *		4.2		8.8 ***		-1.3		0.4		1.4												
		自分の将来の目標の実現に向かって具体的に行動したり、その方法を工夫・改善したりすること	「よく指導している」の割合	12.2%	10.4%	16.0%	9.9%	18.9%	9.3%	10.7%	10.6%	12.0%	9.7%	13.5%	9.5%											
			ポイント差 （参加－不参加）	1.8		6.1 **		9.6 ***		0.1		2.3		4.0 *												

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

○ 第5章

付表5－1 「卒業生の体験発表会」を希望する卒業生が「将来の生き方や進路について考えるために指導してほしいこと」

	卒業生の 体験発表 会	それ以外	差	
自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習	39.8%	34.4%	5.4%	
高等学校など上級学校の教育内容や特色	<u>45.4%</u>	29.0%	16.4%	***
産業や職業の種類や内容	29.8%	21.9%	7.9%	**
学ぶことや働くことの意義や目的	27.7%	17.9%	9.8%	***
卒業後の進路（進学や就職）選択の考え方や方法	<u>44.9%</u>	34.5%	10.4%	***
卒業後の進路（進学者や就職）に関する情報の入手方法とその利用の仕方	28.5%	20.8%	7.7%	**
卒業後の進路（進学や就職）についての相談の方法や内容	<u>29.3%</u>	16.8%	12.5%	***
将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計	<u>31.1%</u>	20.9%	10.2%	***
高等学校などの上級学校や企業への合格・採用の可能性	<u>28.0%</u>	17.3%	10.7%	***
社会人・職業人としての常識やマナー	30.6%	25.4%	5.2%	
進学にかかる費用や奨学金制度	21.1%	13.4%	7.7%	***
労働に関する法制や制度の仕組み	11.9%	6.3%	5.6%	***
近年の若者の雇用・就職・就業状況の動向	20.8%	13.9%	6.9%	**
社会全体のグローバル化（国際化）の動向	15.0%	8.5%	6.5%	***
就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応	26.6%	19.1%	7.5%	**
転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組み	16.1%	7.9%	8.2%	***
男女が対等な構成員として様々な活動に参画できる社会（男女共同参画社会）の重要性	9.2%	6.0%	3.2%	*
特に指導してほしいことはない	7.9%	19.5%	11.6%	***

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

付表５－２ 「高等学校など上級学校への訪問や見学，体験入学，学校説明会」を希望する卒業生が「将来の生き方や進路について考えるために指導してほしかったこと」

	上級学校 訪問等	それ以外	差	
自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習	<u>49.3%</u>	31.7%	17.6%	***
高等学校など上級学校の教育内容や特色	<u>53.4%</u>	27.1%	26.3%	***
産業や職業の種類や内容	32.2%	21.5%	10.7%	***
学ぶことや働くことの意義や目的	28.3%	18.1%	10.2%	***
卒業後の進路（進学や就職）選択の考え方や方法	<u>53.7%</u>	32.2%	21.5%	***
卒業後の進路（進学者や就職）に関する情報の入手方法とその利用の仕方	36.0%	18.7%	17.3%	***
卒業後の進路（進学や就職）についての相談の方法や内容	<u>31.6%</u>	16.5%	15.1%	***
将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計	28.3%	22.1%	6.2%	*
高等学校などの上級学校や企業への合格・採用の可能性	<u>35.4%</u>	15.4%	20.0%	***
社会人・職業人としての常識やマナー	36.9%	23.7%	13.2%	***
進学にかかる費用や奨学金制度	26.6%	12.2%	14.4%	***
労働に関する法制や制度の仕組み	11.2%	6.7%	4.5%	**
近年の若者の雇用・就職・就業状況の動向	20.1%	14.4%	5.7%	*
社会全体のグローバル化（国際化）の動向	14.2%	9.0%	5.2%	**
就職後の離職・失業など，将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応	28.0%	18.9%	9.1%	***
転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組み	11.2%	9.7%	1.5%	
男女が対等な構成員として様々な活動に参画できる社会（男女共同参画社会）の重要性	10.3%	5.8%	4.5%	**
特に指導してほしかったことはない	3.5%	20.5%	17.0%	***

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

付表５－３ 「社会人や職業人の講演・講話」を希望する卒業生が「将来の生き方や進路について考えるために指導してほしかったこと」

	社会人の 講話	それ以外	差	
自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習	45.7%	33.7%	12.0%	***
高等学校など上級学校の教育内容や特色	36.7%	32.6%	4.1%	
産業や職業の種類や内容	<u>41.0%</u>	20.3%	20.7%	***
学ぶことや働くことの意義や目的	<u>37.1%</u>	16.9%	20.2%	***
卒業後の進路（進学や就職）選択の考え方や方法	46.1%	35.3%	10.8%	**
卒業後の進路（進学者や就職）に関する情報の入手方法とその利用の仕方	31.3%	21.0%	10.3%	***
卒業後の進路（進学や就職）についての相談の方法や内容	30.1%	17.9%	12.2%	***
将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計	<u>37.9%</u>	20.5%	17.4%	***
高等学校などの上級学校や企業への合格・採用の可能性	24.6%	19.1%	5.5%	*
社会人・職業人としての常識やマナー	<u>43.8%</u>	23.1%	20.7%	***
進学にかかる費用や奨学金制度	20.7%	14.3%	6.4%	*
労働に関する法制や制度の仕組み	18.0%	5.5%	12.5%	***
近年の若者の雇用・就職・就業状況の動向	28.1%	13.0%	15.1%	***
社会全体のグローバル化（国際化）の動向	21.5%	7.8%	13.7%	***
就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応	<u>35.9%</u>	17.8%	18.1%	***
転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組み	19.1%	8.1%	11.0%	***
男女が対等な構成員として様々な活動に参画できる社会（男女共同参画社会）の重要性	13.3%	5.4%	7.9%	***
特に指導してほしかったことはない	5.5%	18.9%	13.4%	***

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

○ 第 6 章

付表 6－1 インターンシップ経験の有無別に見た基礎的・汎用的能力（図 3）

		人間関係形成・社会形成能力		自己理解・自己管理能力		課題対応能力		キャリアプランニング能力	
		2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半
インターンシップ経験無し	平均値	17.42	19.40	19.92	17.56	18.41	17.84	18.69	18.87
	度数	3,958	3,970	3,970	3,965	3,972	3,966	3,966	3,955
	標準偏差	3.48	2.90	2.96	3.14	3.24	3.19	3.31	3.45
3年生でのみ経験あり	平均値	17.47	19.27	20.06	17.37	18.61	17.17	18.41	19.24
	度数	483	483	485	484	483	485	483	483
	標準偏差	3.39	2.91	2.94	3.15	3.28	3.16	3.45	3.35
合計	平均値	17.43	19.38	19.94	17.54	18.43	17.77	18.66	18.91
	度数	4,441	4,453	4,455	4,449	4,455	4,451	4,449	4,438
	標準偏差	3.47	2.91	2.95	3.15	3.25	3.19	3.32	3.44

対応のある平均値の検定

	実施していない	実施している
人間関係形成・社会形成能力	t = 12.398, p < .001, N=3,962	t = 6.004, p < .001, N=483
自己理解・自己管理能力	t = 18.281, p < .001, N=3,959	t = 8.104, p < .001, N=482
課題対応能力	t = 17.166, p < .001, N=3,954	t = 8.311, p < .001, N=483
キャリアプランニング能力	t = 28.458, p < .001, N=3,935	t = 11.472, p < .001, N=481

付表 6－2 マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法の指導等）の実施別に見た基礎的・汎用的能力の推移（図 5）

		人間関係形成・社会形成能力		自己理解・自己管理能力		課題対応能力		キャリアプランニング能力	
		2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半
実施していない	平均値	19.60	20.21	17.34	18.46	17.57	18.62	17.99	19.71
	度数	190	191	191	190	191	191	190	191
	標準偏差	2.66	2.95	3.04	3.42	2.91	3.46	3.13	3.28
実施している	平均値	19.05	19.95	17.39	18.71	16.91	18.27	17.13	18.92
	度数	293	294	293	293	294	292	293	292
	標準偏差	3.05	2.93	3.23	3.19	3.30	3.44	3.51	3.37
合計	平均値	19.27	20.06	17.37	18.61	17.17	18.41	17.47	19.24
	度数	483	485	484	483	485	483	483	483
	標準偏差	2.91	2.94	3.15	3.28	3.16	3.45	3.39	3.35

対応のある平均値の検定（N が異なる場合は、N が小さい方と自由度が一致する）

	実施していない	実施している
人間関係形成・社会形成能力	t = 3.005, p < .05	t = 5.264, p < .001
自己理解・自己管理能力	t = 4.259, p < .001	t = 7.062, p < .001
課題対応能力	t = 4.324, p < .001	t = 7.238, p < .001
キャリアプランニング能力	t = 7.335, p < .001	t = 8.811, p < .001

付表 6－3 就業体験の目的を確認するための指導の実施別に見た基礎的・汎用的能力の推移（図 6）

		人間関係形成・社会形成能力		自己理解・自己管理能力		課題対応能力		キャリアプランニング能力	
		2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半
実施していない	平均値	19.40	20.35	17.54	18.53	17.03	18.54	17.85	19.81
	度数	154	155	155	155	155	155	155	155
	標準偏差	2.84	2.81	3.00	3.32	2.93	3.41	3.12	3.29
実施している	平均値	19.21	19.92	17.29	18.65	17.23	18.34	17.30	18.97
	度数	329	330	329	328	330	328	328	328
	標準偏差	2.95	2.99	3.22	3.27	3.27	3.47	3.50	3.36
合計	平均値	19.27	20.06	17.37	18.61	17.17	18.41	17.47	19.24
	度数	483	485	484	483	485	483	483	483
	標準偏差	2.91	2.94	3.15	3.28	3.16	3.45	3.39	3.35

対応のある平均値の検定（N が異なる場合は、N が小さい方と自由度が一致する）

	実施していない	実施している
人間関係形成・社会形成能力	t = 4.094, p < .001	t = 4.472, p < .001
自己理解・自己管理能力	t = 3.941, p < .001	t = 7.100, p < .001
課題対応能力	t = 5.933, p < .001	t = 6.042, p < .001
キャリアプランニング能力	t = 7.557, p < .001	t = 8.785, p < .001

付表 6－4 職場体験の内容に関する事前の調べ学習の実施別に見た基礎的・汎用的能力の推移

		人間関係形成・社会形成能力		自己理解・自己管理能力		課題対応能力		キャリアプランニング能力	
		2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半
実施していない	平均値	19.55	20.27	17.35	18.58	17.25	18.47	17.94	19.58
	度数	260	262	262	261	262	260	260	262
	標準偏差	2.71	2.82	3.01	3.30	2.91	3.44	3.11	3.22
実施している	平均値	18.94	19.80	17.39	18.65	17.07	18.33	16.92	18.83
	度数	223	223	222	222	223	223	223	221
	標準偏差	3.10	3.05	3.32	3.28	3.44	3.46	3.62	3.47
合計	平均値	19.27	20.06	17.37	18.61	17.17	18.41	17.47	19.24
	度数	483	485	484	483	485	483	483	483
	標準偏差	2.91	2.94	3.15	3.28	3.16	3.45	3.39	3.35

対応のある平均値の検定（N が異なる場合は、N が小さい方と自由度が一致する）

	実施していない	実施している
人間関係形成・社会形成能力	t = 4.011, p < .001	t = 4.492, p < .001
自己理解・自己管理能力	t = 5.823, p < .001	t = 5.632, p < .001
課題対応能力	t = 5.777, p < .001	t = 6.015, p < .001
キャリアプランニング能力	t = 8.244, p < .001	t = 7.968, p < .001

付表 6－5 報告書・レポートの実施別に見た基礎的・汎用的能力の推移

		人間関係形成・社会 形成能力		自己理解・自己管理 能力		課題対応能力		キャリアプランニン グ能力	
		2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半
実施していない	平均値	19.50	20.46	17.29	18.58	16.96	18.50	17.70	19.50
	度数	121	121	121	121	121	119	120	121
	標準偏差	2.78	2.75	3.03	3.28	2.96	3.41	3.33	3.14
実施している	平均値	19.19	19.92	17.40	18.62	17.24	18.37	17.40	19.15
	度数	362	364	363	362	364	364	363	362
	標準偏差	2.95	2.99	3.20	3.29	3.23	3.46	3.41	3.42
合計	平均値	19.27	20.06	17.37	18.61	17.17	18.41	17.47	19.24
	度数	483	485	484	483	485	483	483	483
	標準偏差	2.91	2.94	3.15	3.28	3.16	3.45	3.39	3.35

対応のある平均値の検定（Nが異なる場合は、Nが小さい方と自由度が一致する）

	実施していない	実施している
人間関係形成・社会形成能力	t = 3.946, p < .001	t = 4.690, p < .001
自己理解・自己管理能力	t = 4.432, p < .001	t = 6.802, p < .001
課題対応能力	t = 5.058, p < .001	t = 6.681, p < .001
キャリアプランニング能力	t = 5.975, p < .001	t = 9.790, p < .001

付表 6－6 訪問・受入先に対するお礼状の作成の実施別に見た基礎的・汎用的能力の推移（図 7）

		人間関係形成・社会 形成能力		自己理解・自己管理 能力		課題対応能力		キャリアプランニン グ能力	
		2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半
実施していない	平均値	19.46	20.15	17.42	18.46	17.24	18.34	17.76	19.47
	度数	264	265	265	264	265	265	263	265
	標準偏差	2.75	2.81	2.96	3.30	2.88	3.43	3.11	3.27
実施している	平均値	19.04	19.95	17.31	18.79	17.08	18.49	17.13	18.95
	度数	219	220	219	219	220	218	220	218
	標準偏差	3.08	3.08	3.38	3.26	3.48	3.48	3.67	3.43
合計	平均値	19.27	20.06	17.37	18.61	17.17	18.41	17.47	19.24
	度数	483	485	484	483	485	483	483	483
	標準偏差	2.91	2.94	3.15	3.28	3.16	3.45	3.39	3.35

対応のある平均値の検定（Nが異なる場合は、Nが小さい方と自由度が一致する）

	実施していない	実施している
人間関係形成・社会形成能力	t = 3.916, p < .001	t = 4.604, p < .001
自己理解・自己管理能力	t = 4.867, p < .001	t = 6.813, p < .001
課題対応能力	t = 5.418, p < .001	t = 6.425, p < .001
キャリアプランニング能力	t = 8.694, p < .001	t = 7.506, p < .001

付表 6－7 就業体験に関連した成果発表会等の実施別に見た基礎的・汎用的能力の推移
(図 7)

		人間関係形成・社会 形成能力		自己理解・自己管理 能力		課題対応能力		キャリアプランニン グ能力	
		2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半
実施していない	平均値	19.32	20.09	17.43	18.63	17.17	18.40	17.50	19.28
	度数	455	457	456	455	457	455	455	456
	標準偏差	2.90	2.87	3.12	3.24	3.15	3.42	3.37	3.31
実施している	平均値	18.43	19.43	16.46	18.32	17.11	18.54	17.07	18.44
	度数	28	28	28	28	28	28	28	27
	標準偏差	2.95	3.89	3.68	4.04	3.50	3.94	3.70	3.96
合計	平均値	19.27	20.06	17.37	18.61	17.17	18.41	17.47	19.24
	度数	483	485	484	483	485	483	483	483
	標準偏差	2.91	2.94	3.15	3.28	3.16	3.45	3.39	3.35

対応のある平均値の検定 (N が異なる場合は、N が小さい方と自由度が一致する)

	実施していない	実施している
人間関係形成・社会形成能力	t = 5.741, p < .001	t = 1.753, p > .05
自己理解・自己管理能力	t = 7.612, p < .001	t = 2.981, p < .01
課題対応能力	t = 7.912, p < .001	t = 2.744, p < .05
キャリアプランニング能力	t = 11.328, p < .001	t = 1.942, p > .05

付表 6－8 体験に関する内容での個人面談・個人指導の実施別に見た基礎的・汎用的能力の推移

		人間関係形成・社会 形成能力		自己理解・自己管理 能力		課題対応能力		キャリアプランニン グ能力	
		2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半	2年生後半	3年生後半
実施していない	平均値	19.31	20.05	17.34	18.61	17.23	18.43	17.57	19.35
	度数	425	427	426	425	427	425	425	425
	標準偏差	2.88	2.93	3.18	3.22	3.16	3.39	3.44	3.28
実施している	平均値	18.98	20.12	17.62	18.62	16.67	18.21	16.74	18.40
	度数	58	58	58	58	58	58	58	58
	標準偏差	3.14	2.98	2.94	3.76	3.15	3.87	2.94	3.76
合計	平均値	19.27	20.06	17.37	18.61	17.17	18.41	17.47	19.24
	度数	483	485	484	483	485	483	483	483
	標準偏差	2.91	2.94	3.15	3.28	3.16	3.45	3.39	3.35

対応のある平均値の検定 (N が異なる場合は、N が小さい方と自由度が一致する)

	実施していない	実施している
人間関係形成・社会形成能力	t = 5.402, p < .001	t = 2.626, p < .05
自己理解・自己管理能力	t = 7.901, p < .001	t = 2.083, p < .05
課題対応能力	t = 7.673, p < .001	t = 3.179, p < .01
キャリアプランニング能力	t = 11.058, p < .001	t = 3.274, p < .01

○ 第7章

付表7-1 「家での学習に積極的に取り組んでいる」と各質問項目の相関

調査内容	具体的な質問項目	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
		高校1年（前半）	高校1年（後半）	高校2年（前半）	高校2年（後半）	高校3年（前半）	高校3年（後半）
人間関係形成・社会形成能力	相手の気持ちを考えて話をするようにしている	.195**	.208**	.205**	.209**	.218**	.229**
	自分とはちがう考え方を持つ人のことも受けとめようとしている	.193**	.188**	.197**	.207**	.206**	.225**
	意見はわかりやすく伝えるように意識している	.221**	.220**	.221**	.223**	.220**	.240**
	ほかの人と一緒に何かをするときには、自分ができることは何かを考えて行動するようにしている	.233**	.184**	.244**	.245**	.229**	.252**
	ほかの人と一緒に何かをするときには、周りの人と力を合わせるということを意識している	.215**	.227**	.230**	.227**	.220**	.239**
	必要なときには、自分の意見をはっきり言うことができる	.158**	.163**	.171**	.194**	.183**	.189**
自己理解・自己管理能力	自分にはよいところがあると思っている	.190**	.208**	.218**	.242**	.229**	.236**
	自分が何に興味や関心があるのかわかっている	.129**	.148**	.167**	.171**	.176**	.175**
	身の回りのことは、できるだけ自分でしている	.244**	.230**	.238**	.241**	.236**	.206**
	必要なときには、苦手なことにがんばって取り組むようにしている	.360**	.362**	.363**	.373**	.356**	.352**
	やるべきことがわかっているときには、ほかの人から指示される前に取り組むことができる	.298**	.302**	.291**	.303**	.292**	.298**
	気持ちが沈んでいるときなどであっても、しなければならぬことにはきちんと取り組むことができる	.283**	.274**	.283**	.287**	.255**	.243**
課題対応能力	わからないことがあったときには、自分からすすんで情報を集めることができる	.282**	.275**	.270**	.268**	.292**	.295**
	何か問題がおきたときには、なぜそうなったかを考えるようにしている	.216**	.218**	.221**	.233**	.243**	.267**
	何か問題がおきたときには、どのようにしたらその問題が解決できるかを考えるようにしている	.227**	.225**	.248**	.255**	.260**	.295**
	何か問題がおきたときには、次に同じようなことがおきないよう工夫をするようにしている	.244**	.245**	.255**	.258**	.250**	.273**
	何かに取り組むときには、計画を立てて取り組むようにしている	.312**	.326**	.316**	.317**	.322**	.289**
	何かに取り組むときには、進め方や考え方がまちがっていないか、ふり返って考えるようにしている	.270**	.286**	.296**	.294**	.299**	.299**
キャリアプランニング能力	勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている	.338**	.360**	.378**	.380**	.410**	.422**
	仕事をする意味について自分なりの考えを持っている	.208**	.214**	.224**	.234**	.235**	.244**
	世の中には、さまざまな働き方や生き方があることを理解している	.155**	.156**	.154**	.174**	.177**	.196**
	職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている	.205**	.215**	.247**	.247**	.232**	.193**
	将来の夢や目標が具体的にになっている	.160**	.187**	.207**	.219**	.189**	.143**
	将来の夢や目標に向かって努力している	.299**	.333**	.367**	.386**	.372**	.331**
の学び意識・意味づけ	学校でたくさんのことを学びたいと思う（第1回・第2回）／これからもっとたくさんすることを学びたいと思う（第3回～第6回）	.334**	.339**	.356**	.358**	.370**	.396**
	学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つと思う	.289**	.306**	.332**	.328**	.330**	.349**
	学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う	.279**	.275**	.302**	.304**	.329**	.386**
	学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う	.283**	.284**	.313**	.312**	.338**	.383**
生活の充実度	学校生活は充実している	.204**	.228**	.234**	.248**	.254**	.279**
	学校での友人関係に満足している	.133**	.145**	.169**	.170**	.204**	.217**
	自分の将来が楽しみだ	.209**	.228**	.236**	.250**	.249**	.247**
意欲・態度	授業を熱心に受けている	.465**	.482**	.479**	.466**	.451**	.478**
	学校行事に積極的に参加している	.218**	.237**	.236**	.230**	.221**	.256**
	授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる	.197**	.225**	.221**	.226**	.210**	.253**
職業観・勤労観	自分の能力をいかせる仕事がしたい	.141**	.140**	.150**	.157**	.157**	.189**
	人の役に立つ仕事がしたい	.180**	.187**	.191**	.193**	.168**	.186**
	責任を伴う仕事はできるだけ避けたい	-.117**	-.086**	-.066**	-.070**	-.059**	-.058**
	努力や訓練が必要な仕事はやりたくない	-.111**	-.091**	-.072**	-.064**	-.046**	-.050**

** p<.01（両側）

※ 各質問項目への回答については、「あてはまらない」＝１，「あまりあてはまらない」＝２，「ややあてはまる」＝３，「あてはまる」＝４，と得点化した。また，同様の手続で「家での学習に積極的に取り組んでいる」の項目を得点化して，各質問項目との Pearson の相関係数を求めた。相関係数が±0.3 を上回っている項目を太字と下線で示した。プラスの場合は「正の相関」があり，マイナスの場合は「負の相関」があることを表している。

付表 7-2 「人間関係形成・社会形成能力」に対する自己評価得点群別の「家での学習を積極的に取り組んでいる」割合（図 3）（N=29,752～N=29,909）

			N	「あてはまる」と答えた 生徒の割合（％）	「ややあてはまる」と答 えた生徒の割合（％）	あてはまる+やや あてはまる 合計	高群-低群
1 年生	前半	低群	11,466	4.8%	33.2%	38.0%	28.4%
		中群	10,179	10.6%	44.0%	54.6%	
		高群	8,099	22.2%	44.2%	66.4%	
	後半	低群	12,281	3.5%	29.6%	33.1%	28.3%
		中群	9,598	8.6%	39.3%	47.9%	
		高群	7,873	19.8%	41.6%	61.4%	
2 年生	前半	低群	12,184	2.6%	28.3%	30.9%	26.6%
		中群	9,074	6.8%	37.0%	43.8%	
		高群	8,538	18.6%	38.9%	57.5%	
	後半	低群	12,269	3.7%	31.9%	35.6%	26.7%
		中群	8,704	9.8%	39.6%	49.4%	
		高群	8,833	22.8%	39.5%	62.3%	
3 年生	前半	低群	11,190	6.5%	41.1%	47.6%	24.1%
		中群	11,606	16.9%	44.3%	61.2%	
		高群	7,019	33.2%	38.5%	71.7%	
	後半	低群	10,702	12.9%	45.7%	58.6%	19.5%
		中群	10,891	30.5%	38.7%	69.2%	
		高群	8,316	51.2%	26.9%	78.1%	

※ χ^2 検定の結果，全ての調査時期において群間に有意差が見られた。

1 年生前半 ($\chi^2(6)=2318.692$, $p<.001$)，1 年生後半 ($\chi^2(6)=2377.487$, $p<.001$)

2 年生前半 ($\chi^2(6)=2417.156$, $p<.001$)，2 年生後半 ($\chi^2(6)=2558.421$, $p<.001$)

3 年生前半 ($\chi^2(6)=2514.769$, $p<.001$)，3 年生後半 ($\chi^2(6)=3303.240$, $p<.001$)

付表 7-3 「自己理解・自己管理能力」に対する自己評価得点群別の「家での学習を積極的に取り組んでいる」割合（図 4）（N=29,672～N=29,889）

			N	「あてはまる」と答えた 生徒の割合 (%)	「ややあてはまる」と答 えた生徒の割合 (%)	あてはまる+やや あてはまる 合計	高群-低群
1 年生	前半	低群	13,248	4.1%	31.5%	35.6%	34.7%
		中群	7,883	9.9%	47.5%	57.4%	
		高群	8,541	24.4%	45.9%	70.3%	
	後半	低群	10,283	2.5%	23.8%	26.3%	39.4%
		中群	11,702	7.0%	41.7%	48.7%	
		高群	7,743	22.4%	43.3%	65.7%	
2 年生	前半	低群	10,517	2.0%	21.8%	23.8%	38.4%
		中群	11,653	5.7%	40.6%	46.3%	
		高群	7,613	21.6%	40.6%	62.2%	
	後半	低群	13,454	3.4%	27.9%	31.3%	34.2%
		中群	8,097	7.8%	45.1%	52.9%	
		高群	8,245	25.8%	39.7%	65.5%	
3 年生	前半	低群	12,091	6.6%	37.0%	43.6%	29.2%
		中群	8,409	12.8%	50.8%	63.6%	
		高群	9,305	33.0%	39.8%	72.8%	
	後半	低群	10,252	14.7%	38.0%	52.7%	27.7%
		中群	11,395	26.1%	46.3%	72.4%	
		高群	8,242	54.2%	26.2%	80.4%	

※ χ^2 検定の結果、全ての調査時期において群間に有意差が見られた。

1 年生前半 ($\chi^2(6)=3812.454$, $p<.001$), 1 年生後半 ($\chi^2(6)=4165.414$, $p<.001$)

2 年生前半 ($\chi^2(6)=4281.693$, $p<.001$), 2 年生後半 ($\chi^2(6)=4433.092$, $p<.001$)

3 年生前半 ($\chi^2(6)=3934.096$, $p<.001$), 3 年生後半 ($\chi^2(6)=4208.840$, $p<.001$)

付表 7-4 「課題対応能力」に対する自己評価得点群別の「家での学習を積極的に取り組んでいる」割合（図 5）（N=29,556～N=29,869）

			N	「あてはまる」と答えた 生徒の割合 (%)	「ややあてはまる」と答 えた生徒の割合 (%)	あてはまる+やや あてはまる 合計	高群-低群
1 年生	前半	低群	11,614	4.2%	31.0%	35.2%	35.0%
		中群	10,452	10.0%	46.2%	56.2%	
		高群	7,490	25.2%	45.0%	70.2%	
	後半	低群	11,875	3.1%	26.4%	29.5%	33.9%
		中群	8,167	5.9%	41.5%	47.4%	
		高群	9,572	20.5%	42.9%	63.4%	
2 年生	前半	低群	9,948	2.1%	21.8%	23.9%	37.7%
		中群	11,874	5.3%	39.8%	45.1%	
		高群	7,941	21.1%	40.5%	61.6%	
	後半	低群	12,381	3.4%	27.9%	31.3%	34.2%
		中群	8,836	7.8%	45.1%	52.9%	
		高群	8,577	25.8%	39.7%	65.5%	
3 年生	前半	低群	11,400	6.1%	35.5%	41.6%	32.2%
		中群	8,971	12.2%	51.9%	64.1%	
		高群	9,424	34.2%	39.6%	73.8%	
	後半	低群	16,171	15.6%	43.6%	59.2%	21.1%
		中群	4,589	33.9%	39.6%	73.5%	
		高群	9,109	53.4%	26.9%	80.3%	

※ χ^2 検定の結果、全ての調査時期において群間に有意差が見られた。

1 年生前半 ($\chi^2(6)=3523.451$, $p<.001$), 1 年生後半 ($\chi^2(6)=3646.059$, $p<.001$)

2 年生前半 ($\chi^2(6)=4110.279$, $p<.001$), 2 年生後半 ($\chi^2(6)=4130.571$, $p<.001$)

3 年生前半 ($\chi^2(6)=4353.834$, $p<.001$), 3 年生後半 ($\chi^2(6)=4097.700$, $p<.001$)

付表 7-5 「キャリアプランニング能力」に対する自己評価得点群別の「家での学習を積極的に取り組んでいる」割合（図 6）（N=29,569～N=29,833）

			N	「あてはまる」と答えた 生徒の割合 (%)	「ややあてはまる」と答 えた生徒の割合 (%)	あてはまる+やや あてはまる 合計	高群-低群
1 年生	前半	低群	12,242	5.0%	32.2%	37.2%	31.3%
		中群	9,120	10.2%	45.0%	55.2%	
		高群	8,207	23.0%	45.5%	68.5%	
	後半	低群	12,176	3.5%	27.0%	30.5%	34.2%
		中群	9,490	7.2%	41.1%	48.3%	
		高群	7,947	21.3%	43.4%	64.7%	
2 年生	前半	低群	11,596	2.3%	22.5%	24.8%	37.1%
		中群	9,911	6.1%	40.9%	47.0%	
		高群	8,221	20.1%	41.8%	61.9%	
	後半	低群	10,252	3.1%	25.0%	28.1%	38.5%
		中群	10,270	7.0%	42.9%	49.9%	
		高群	9,235	24.6%	42.0%	66.6%	
3 年生	前半	低群	10,706	6.1%	35.0%	41.1%	34.0%
		中群	10,415	12.9%	50.0%	62.9%	
		高群	8,565	35.0%	40.1%	75.1%	
	後半	低群	13,467	14.8%	43.2%	58.0%	23.4%
		中群	7,793	31.1%	39.0%	70.1%	
		高群	8,573	52.7%	28.7%	81.4%	

※ χ^2 検定の結果、全ての調査時期において群間に有意差が見られた。

1 年生前半 ($\chi^2(6)=2833.746$, $p<.001$), 1 年生後半 ($\chi^2(6)=3349.794$, $p<.001$)

2 年生前半 ($\chi^2(6)=4016.612$, $p<.001$), 2 年生後半 ($\chi^2(6)=4389.815$, $p<.001$)

3 年生前半 ($\chi^2(6)=4288.272$, $p<.001$), 3 年生後半 ($\chi^2(6)=3725.711$, $p<.001$)

○ 第 8 章

付表 8-1 キャリアプランニング能力の構成要素と高等学校生活に関する意識・態度との関連

「① 勉強をすることの意味について自分なりの考えを持っている」との関連

	学校生活は充実している	授業を熱心に受けている	学校行事に積極的に参加している	授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる	家での学習に積極的に取り組んでいる	学校での友人関係に満足している	学校で（これから）たくさん学ぶたいと思う	学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つと思う	学校での勉強は将来の仕事を豊かにすると思う	学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う	自分の将来が楽しみだ	自分の能力をいかせる仕事したい	人の役に立つ仕事したい	責任を伴う仕事はできるだけ避けたい	努力や訓練が必要な仕事はやりたくない
1年前半	.186**	.304**	.177**	.198**	.338**	.101**	.356**	.353**	.365**	.385**	.279**	.201**	.202**	-.137**	-.153**
1年後半	.200**	.320**	.191**	.216**	.360**	.118**	.379**	.378**	.374**	.394**	.297**	.207**	.207**	-.131**	-.140**
2年前半	.216**	.331**	.203**	.222**	.378**	.131**	.400**	.380**	.379**	.401**	.303**	.217**	.200**	-.088**	-.107**
2年後半	.236**	.337**	.215**	.229**	.380**	.161**	.416**	.392**	.395**	.411**	.326**	.218**	.212**	-.107**	-.111**
3年前半	.251**	.340**	.215**	.231**	.410**	.185**	.422**	.395**	.406**	.418**	.340**	.239**	.222**	-.104**	-.108**
3年後半	.270**	.357**	.246**	.251**	.422**	.211**	.446**	.414**	.431**	.445**	.345**	.285**	.252**	-.089**	-.083**

「② 仕事をすることの意味について自分なりの考えを持っている」との関連

	学校生活は充実している	授業を熱心に受けている	学校行事に積極的に参加している	授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる	家での学習に積極的に取り組んでいる	学校での友人関係に満足している	学校で（これから）たくさん学ぶたいと思う	学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つと思う	学校での勉強は将来の仕事を豊かにすると思う	学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う	自分の将来が楽しみだ	自分の能力をいかせる仕事したい	人の役に立つ仕事したい	責任を伴う仕事はできるだけ避けたい	努力や訓練が必要な仕事はやりたくない
1年前半	.164**	.210**	.200**	.183**	.208**	.122**	.269**	.202**	.241**	.241**	.297**	.230**	.227**	-.153**	-.182**
1年後半	.182**	.217**	.217**	.198**	.214**	.132**	.286**	.216**	.263**	.267**	.316**	.265**	.253**	-.161**	-.191**
2年前半	.203**	.240**	.234**	.199**	.224**	.163**	.320**	.230**	.270**	.270**	.330**	.267**	.247**	-.136**	-.161**
2年後半	.225**	.251**	.246**	.207**	.234**	.190**	.330**	.233**	.287**	.281**	.339**	.286**	.263**	-.155**	-.167**
3年前半	.250**	.272**	.256**	.208**	.235**	.217**	.355**	.257**	.298**	.297**	.361**	.304**	.289**	-.159**	-.165**
3年後半	.277**	.288**	.294**	.234**	.244**	.252**	.363**	.274**	.325**	.319**	.376**	.357**	.332**	-.145**	-.150**

「③ 世の中には、様々な働き方や生き方があることを理解している」との関連

	学校生活は充実している	授業を熱心に受けている	学校行事に積極的に参加している	授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる	家での学習に積極的に取り組んでいる	学校での友人関係に満足している	学校で（これから）たくさん学ぶたいと思う	学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つと思う	学校での勉強は将来の仕事を豊かにすると思う	学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う	自分の将来が楽しみだ	自分の能力をいかせる仕事したい	人の役に立つ仕事したい	責任を伴う仕事はできるだけ避けたい	努力や訓練が必要な仕事はやりたくない
1年前半	.158**	.188**	.195**	.150**	.155**	.112**	.247**	.146**	.225**	.200**	.225**	.255**	.213**	-.126**	-.156**
1年後半	.185**	.191**	.211**	.162**	.156**	.152**	.268**	.164**	.249**	.231**	.229**	.291**	.243**	-.132**	-.167**
2年前半	.207**	.205**	.228**	.160**	.154**	.186**	.309**	.170**	.265**	.231**	.253**	.301**	.240**	-.119**	-.163**
2年後半	.218**	.227**	.237**	.164**	.174**	.204**	.311**	.188**	.277**	.247**	.262**	.310**	.255**	-.128**	-.169**
3年前半	.218**	.243**	.242**	.154**	.177**	.214**	.317**	.197**	.264**	.248**	.264**	.323**	.266**	-.131**	-.164**
3年後半	.261**	.259**	.274**	.170**	.196**	.258**	.338**	.228**	.311**	.278**	.295**	.379**	.327**	-.117**	-.154**

「④ 職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」との関連

	学校生活は充実している	授業を熱心に受けている	学校行事に積極的に参加している	授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる	家での学習に積極的に取り組んでいる	学校での友人関係に満足している	学校で（これから）たくさん学ぶたいと思う	学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つと思う	学校での勉強は将来の仕事を豊かにすると思う	学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う	自分の将来が楽しみだ	自分の能力をいかせる仕事したい	人の役に立つ仕事したい	責任を伴う仕事はできるだけ避けたい	努力や訓練が必要な仕事はやりたくない
1年前半	.138**	.185**	.182**	.155**	.205**	.130**	.163**	.188**	.143**	.172**	.259**	.163**	.179**	-.101**	-.078**
1年後半	.152**	.190**	.195**	.170**	.215**	.131**	.183**	.204**	.156**	.188**	.275**	.171**	.187**	-.095**	-.077**
2年前半	.188**	.227**	.209**	.187**	.247**	.164**	.216**	.223**	.174**	.207**	.305**	.188**	.206**	-.071**	-.065**
2年後半	.197**	.231**	.234**	.202**	.247**	.184**	.224**	.230**	.183**	.209**	.324**	.198**	.218**	-.079**	-.060**
3年前半	.212**	.232**	.241**	.229**	.232**	.194**	.235**	.236**	.180**	.207**	.346**	.209**	.237**	-.094**	-.056**
3年後半	.237**	.239**	.274**	.271**	.193**	.220**	.244**	.252**	.209**	.230**	.362**	.256**	.296**	-.091**	-.051**

「⑤ 将来の夢や目標が具体的にになっている」との相関

	学校生活は充実している	授業を熱心に受けている	学校行事に積極的に参加している	授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる	家での学習に積極的に取り組んでいる	学校での友人関係に満足している	学校で（これから）たくさんのごことを学びたいと思う	学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つと思う	学校での勉強は将来の仕事を豊かにしてくれると思う	学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う	自分の将来が楽しみだ	自分の能力をいかせる仕事したい	人の役に立つ仕事したい	責任を伴う仕事はできるだけ避けたい	努力や訓練が必要な仕事はやりたくない
1年前半	.135**	.138**	.158**	.133**	.160**	.104**	.156**	.140**	.115**	.133**	.382**	.151**	.215**	-.165**	-.176**
1年後半	.145**	.159**	.170**	.149**	.187**	.106**	.162**	.150**	.124**	.144**	.392**	.177**	.223**	-.162**	-.164**
2年前半	.177**	.193**	.198**	.168**	.207**	.142**	.224**	.166**	.141**	.155**	.413**	.199**	.247**	-.148**	-.145**
2年後半	.192**	.194**	.205**	.181**	.219**	.152**	.229**	.177**	.147**	.161**	.429**	.213**	.263**	-.154**	-.143**
3年前半	.222**	.199**	.223**	.195**	.189**	.179**	.250**	.187**	.148**	.169**	.444**	.238**	.285**	-.166**	-.155**
3年後半	.249**	.208**	.267**	.236**	.143**	.212**	.264**	.202**	.183**	.196**	.471**	.308**	.339**	-.166**	-.150**

「⑥ 将来の夢や目標に向かって努力している」との相関

	学校生活は充実している	授業を熱心に受けている	学校行事に積極的に参加している	授業や学校行事以外の学校での活動に積極的に取り組んでいる	家での学習に積極的に取り組んでいる	学校での友人関係に満足している	学校で（これから）たくさんのごことを学びたいと思う	学校での勉強は普段の生活を送るうえで役に立つと思う	学校での勉強は将来の仕事を豊かにしてくれると思う	学校での勉強は将来の生活を豊かにすると思う	自分の将来が楽しみだ	自分の能力をいかせる仕事したい	人の役に立つ仕事したい	責任を伴う仕事はできるだけ避けたい	努力や訓練が必要な仕事はやりたくない
1年前半	.190**	.257**	.207**	.197**	.299**	.139**	.250**	.224**	.197**	.211**	.415**	.237**	.250**	-.171**	-.205**
1年後半	.203**	.282**	.224**	.209**	.333**	.138**	.252**	.238**	.200**	.225**	.433**	.240**	.256**	-.159**	-.184**
2年前半	.240**	.322**	.248**	.228**	.367**	.174**	.307**	.251**	.204**	.224**	.450**	.266**	.278**	-.134**	-.152**
2年後半	.247**	.326**	.250**	.232**	.386**	.183**	.315**	.255**	.221**	.236**	.459**	.260**	.282**	-.139**	-.146**
3年前半	.276**	.335**	.265**	.235**	.372**	.213**	.337**	.260**	.219**	.241**	.476**	.300**	.307**	-.149**	-.154**
3年後半	.317**	.329**	.323**	.274**	.331**	.254**	.358**	.287**	.275**	.285**	.505**	.375**	.380**	-.163**	-.160**

** p<.01（両側）

付表 8-2 キャリア教育に関する七つの活動の取組状況と「卒業後の進路希望」の決定状況の関連

(1)

2年前半：卒業後の進路希望		1年前半→2年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
進学したい、就職したい	度数	11911	5440	3634	7236	28221
	期待度数	11718.1	5399.9	3699.7	7403.3	28221.0
	%	42.2%	19.3%	12.9%	25.6%	100.0%
	調整済み残差	10.2	2.7	-5.1	-9.9	
進学・就職以外のことをしたい、決めていない、具体的に考えたことがない	度数	454	258	270	576	1558
	期待度数	646.9	298.1	204.3	408.7	1558.0
	%	29.1%	16.6%	17.3%	37.0%	100.0%
	調整済み残差	-10.2	-2.7	5.1	9.9	
合計	度数	12365	5698	3904	7812	29779
	期待度数	12365.0	5698.0	3904.0	7812.0	29779.0
	%	41.5%	19.1%	13.1%	26.2%	100.0%

$$\chi^2(3)=160.985, \quad p < .01$$

(2)

3年前半：卒業後の進路希望		2年前半→3年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
進学したい、就職したい	度数	14939	5269	2973	6264	29445
	期待度数	14854.7	5259.7	3000.7	6329.9	29445.0
	%	50.7%	17.9%	10.1%	21.3%	100.0%
	調整済み残差	8.4	1.2	-4.6	-8.0	
進学・就職以外のことをしたい、決めていない、具体的に考えたことがない	度数	120	63	69	153	405
	期待度数	204.3	72.3	41.3	87.1	405.0
	%	29.6%	15.6%	17.0%	37.8%	100.0%
	調整済み残差	-8.4	-1.2	4.6	8.0	
合計	度数	15059	5332	3042	6417	29850
	期待度数	15059.0	5332.0	3042.0	6417.0	29850.0
	%	50.4%	17.9%	10.2%	21.5%	100.0%

$$\chi^2(3)=106.001, \quad p < .01$$

(3)

3年後半：卒業後の進路および進路希望		3年前半→3年後半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
既に決まっている、進学したい、就職したい	度数	16675	4361	2272	4472	27780
	期待度数	16638.4	4358.5	2285.5	4497.6	27780.0
	%	60.0%	15.7%	8.2%	16.1%	100.0%
	調整済み残差	5.5	.5	-3.6	-5.1	
決まっておらず、進学・就職以外のことをしたい、決めていない、具体的に考えたことがない	度数	76	27	29	56	188
	期待度数	112.6	29.5	15.5	30.4	188.0
	%	40.4%	14.4%	15.4%	29.8%	100.0%
	調整済み残差	-5.5	-.5	3.6	5.1	
合計	度数	16751	4388	2301	4528	27968
	期待度数	16751.0	4388.0	2301.0	4528.0	27968.0
	%	59.9%	15.7%	8.2%	16.2%	100.0%

$$\chi^2(3)=45.725, \quad p < .01$$

(4)

1年後半：キャリアプラン等の作成		1年前半→2年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
1年生対象に実施（今年度予定を含む）	度数	5720	2583	1744	3398	13445
	期待度数	5578.8	2560.4	1775.8	3530.0	13445.0
	%	42.5%	19.2%	13.0%	25.3%	100.0%
	調整済み残差	3.4	.7	-1.1	-3.5	
実施していない	度数	6460	3007	2133	4309	15909
	期待度数	6601.2	3029.6	2101.2	4177.0	15909.0
	%	40.6%	18.9%	13.4%	27.1%	100.0%
	調整済み残差	-3.4	-.7	1.1	3.5	
合計	度数	12180	5590	3877	7707	29354
	期待度数	12180.0	5590.0	3877.0	7707.0	29354.0
	%	41.5%	19.0%	13.2%	26.3%	100.0%

$$\chi^2(3)=17.124, \quad p < .01$$

(5)

2年後半：キャリアプラン等の作成		2年前半→3年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
2年生対象に実施（今年度予定を含む）	度数	5123	1681	962	1923	9689
	期待度数	4888.3	1729.5	986.5	2084.7	9689.0
	%	52.9%	17.3%	9.9%	19.8%	100.0%
	調整済み残差	5.8	-1.6	-1.0	-4.9	
実施していない	度数	9837	3612	2057	4457	19963
	期待度数	10071.7	3563.5	2032.5	4295.3	19963.0
	%	49.3%	18.1%	10.3%	22.3%	100.0%
	調整済み残差	-5.8	1.6	1.0	4.9	
合計	度数	14960	5293	3019	6380	29652
	期待度数	14960.0	5293.0	3019.0	6380.0	29652.0
	%	50.5%	17.9%	10.2%	21.5%	100.0%

$$\chi^2(3)=38.296, \quad p < .01$$

(6)

3年後半：キャリアプラン等の作成		3年前半→3年後半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
3年生対象に実施済	度数	3089	777	392	803	5061
	期待度数	3039.8	795.1	420.2	805.9	5061.0
	%	61.0%	15.4%	7.7%	15.9%	100.0%
	調整済み残差	1.6	-.8	-1.6	-.1	
実施していない（今年度予定を含む）	度数	14525	3830	2043	3867	24265
	期待度数	14574.2	3811.9	2014.8	3864.1	24265.0
	%	59.9%	15.8%	8.4%	15.9%	100.0%
	調整済み残差	-1.6	.8	1.6	.1	
合計	度数	17614	4607	2435	4670	29326
	期待度数	17614.0	4607.0	2435.0	4670.0	29326.0
	%	60.1%	15.7%	8.3%	15.9%	100.0%

$$\chi^2(3)=3.764, \quad p > .1$$

(7)

1年後半：キャリア・ポートフォリオの作成・		1年前半→2年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
1年生対象に 実施（今年 度予定を含 む）	度数	4,196	1,841	1,239	2,449	9,725
	期待度数	4034.6	1858.7	1279.2	2552.5	9725.0
	%	43.1%	18.9%	12.7%	25.2%	100.0%
	調整済み残差	4.1	-.6	-1.5	-2.9	
実施してい ない	度数	8,016	3,785	2,633	5,277	19,711
	期待度数	8177.4	3767.3	2592.8	5173.5	19711.0
	%	40.7%	19.2%	13.4%	26.8%	100.0%
	調整済み残差	-4.1	.6	1.5	2.9	
合計	度数	12,212	5,626	3,872	7,726	29,436
	期待度数	12212.0	5626.0	3872.0	7726.0	29436.0
	%	41.5%	19.1%	13.2%	26.2%	100.0%

$$\chi^2(3)=18.053, \quad p < .01$$

(8)

2年後半：キャリア・ポートフォリオの作成・		2年前半→3年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
2年生対象に 実施（今年 度予定を含 む）	度数	4,771	1,607	924	1,773	9,075
	期待度数	4574.1	1616.9	927.0	1957.0	9075.0
	%	52.6%	17.7%	10.2%	19.5%	100.0%
	調整済み残差	5.0	-.3	-.1	-5.6	
実施してい ない	度数	10,146	3,666	2,099	4,609	20,520
	期待度数	10342.9	3656.1	2096.0	4425.0	20520.0
	%	49.4%	17.9%	10.2%	22.5%	100.0%
	調整済み残差	-5.0	.3	.1	5.6	
合計	度数	14,917	5,273	3,023	6,382	29,595
	期待度数	14917.0	5273.0	3023.0	6382.0	29595.0
	%	50.4%	17.8%	10.2%	21.6%	100.0%

$$\chi^2(3)=37.264, \quad p < .01$$

(9)

3年後半：キャリア・ポートフォリオの作成・		3年前半→3年後半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
3年生対象に 実施済	度数	2,765	729	342	618	4,454
	期待度数	2675.8	700.9	368.7	708.6	4454.0
	%	62.1%	16.4%	7.7%	13.9%	100.0%
	調整済み残差	3.0	1.3	-1.6	-4.0	
実施してい ない（今年 度予定を含 む）	度数	15,095	3,949	2,119	4,112	25,275
	期待度数	15184.2	3977.1	2092.3	4021.4	25275.0
	%	59.7%	15.6%	8.4%	16.3%	100.0%
	調整済み残差	-3.0	-1.3	1.6	4.0	
合計	度数	17,860	4,678	2,461	4,730	29,729
	期待度数	17860.0	4678.0	2461.0	4730.0	29729.0
	%	60.1%	15.7%	8.3%	15.9%	100.0%

$$\chi^2(3)=20.742, \quad p < .01$$

(1 0)

1年後半：上級学校の教員や社会 人講師による出張授業・講演会		1年前半→2年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
1年生対象に 実施（今年 度予定を含 む）	度数	10,335	4,735	3,228	6,410	24,708
	期待度数	10262.7	4726.7	3244.8	6473.8	24708.0
	%	41.8%	19.2%	13.1%	25.9%	100.0%
	調整済み残差	2.3	.3	-.8	-2.3	
実施してい ない	度数	1,965	930	661	1,349	4,905
	期待度数	2037.3	938.3	644.2	1285.2	4905.0
	%	40.1%	19.0%	13.5%	27.5%	100.0%
	調整済み残差	-2.3	-.3	.8	2.3	
合計	度数	12,300	5,665	3,889	7,759	29,613
	期待度数	12300.0	5665.0	3889.0	7759.0	29613.0
	%	41.5%	19.1%	13.1%	26.2%	100.0%

$\chi^2(3)=7.493$, $p < .1$

(1 1)

2年後半：上級学校の教員や社会 人講師による出張授業・講演会		2年前半→3年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
2年生対象に 実施（今年 度予定を含 む）	度数	13,087	4,584	2,623	5,450	25,744
	期待度数	13014.6	4591.4	2626.6	5511.4	25744.0
	%	50.8%	17.8%	10.2%	21.2%	100.0%
	調整済み残差	2.5	-.3	-.2	-2.6	
実施してい ない	度数	1,837	681	389	870	3,777
	期待度数	1909.4	673.6	385.4	808.6	3777.0
	%	48.6%	18.0%	10.3%	23.0%	100.0%
	調整済み残差	-2.5	.3	.2	2.6	
合計	度数	14,924	5,265	3,012	6,320	29,521
	期待度数	14924.0	5265.0	3012.0	6320.0	29521.0
	%	50.6%	17.8%	10.2%	21.4%	100.0%

$\chi^2(3)=8.628$, $p < .05$

(1 2)

3年後半：上級学校の教員や社会 人講師による出張授業・講演会		3年前半→3年後半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
3年生対象に 実施済	度数	8,704	2,248	1,166	2,163	14,281
	期待度数	8565.0	2252.2	1183.4	2280.5	14281.0
	%	60.9%	15.7%	8.2%	15.1%	100.0%
	調整済み残差	3.3	-.1	-.7	-3.7	
実施してい ない（今年 度予定を含 む）	度数	9,151	2,447	1,301	2,591	15,490
	期待度数	9290.0	2442.8	1283.6	2473.5	15490.0
	%	59.1%	15.8%	8.4%	16.7%	100.0%
	調整済み残差	-3.3	.1	.7	3.7	
合計	度数	17,855	4,695	2,467	4,754	29,771
	期待度数	17855.0	4695.0	2467.0	4754.0	29771.0
	%	60.0%	15.8%	8.3%	16.0%	100.0%

$\chi^2(3)=16.475$, $p < .01$

(1 3)

1年後半：卒業生（大学生や若手社会人など）による講演・体験発表会・懇談会		1年前半→2年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
1年生対象に実施（今年度予定を含む）	度数	7,609	3,510	2,262	4,658	18,039
	期待度数	7490.4	3455.5	2362.1	4731.0	18039.0
	%	42.2%	19.5%	12.5%	25.8%	100.0%
	調整済み残差	2.9	1.7	-3.6	-2.0	
実施していない	度数	4,571	2,109	1,579	3,035	11,294
	期待度数	4689.6	2163.5	1478.9	2962.0	11294.0
	%	40.5%	18.7%	14.0%	26.9%	100.0%
	調整済み残差	-2.9	-1.7	3.6	2.0	
合計	度数	12,180	5,619	3,841	7,693	29,333
	期待度数	12180.0	5619.0	3841.0	7693.0	29333.0
	%	41.5%	19.2%	13.1%	26.2%	100.0%

$$\chi^2(3)=21.054, \quad p < .01$$

(1 4)

2年後半：卒業生（大学生や若手社会人など）による講演・体験発表会・懇談会		2年前半→3年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
2年生対象に実施（今年度予定を含む）	度数	9,346	3,160	1,869	3,782	18,157
	期待度数	9158.8	3242.8	1851.6	3903.8	18157.0
	%	51.5%	17.4%	10.3%	20.8%	100.0%
	調整済み残差	4.4	-2.6	.7	-3.5	
実施していない	度数	5716	2173	1176	2638	11703
	期待度数	5903.2	2090.2	1193.4	2516.2	11703.0
	%	48.8%	18.6%	10.0%	22.5%	100.0%
	調整済み残差	-4.4	2.6	-.7	3.5	
合計	度数	15,062	5,333	3,045	6,420	29,860
	期待度数	15062.0	5333.0	3045.0	6420.0	29860.0
	%	50.4%	17.9%	10.2%	21.5%	100.0%

$$\chi^2(3)=25.283, \quad p < .01$$

(1 5)

3年後半：卒業生（大学生や若手社会人など）による講演・体験発表会・懇談会		3年前半→3年後半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
3年生対象に実施済	度数	4,637	1,318	673	1,317	7,945
	期待度数	4767.7	1252.3	658.8	1266.2	7945.0
	%	58.4%	16.6%	8.5%	16.6%	100.0%
	調整済み残差	-3.5	2.4	.7	1.8	
実施していない（今年度予定を含む）	度数	13,283	3,389	1,803	3,442	21,917
	期待度数	13152.3	3454.7	1817.2	3492.8	21917.0
	%	60.6%	15.5%	8.2%	15.7%	100.0%
	調整済み残差	3.5	-2.4	-.7	-1.8	
合計	度数	17,920	4,707	2,476	4,759	29,862
	期待度数	17920.0	4707.0	2476.0	4759.0	29862.0
	%	60.0%	15.8%	8.3%	15.9%	100.0%

$$\chi^2(3)=12.777, \quad p < .01$$

(1 6)

1年後半：就業体験（インターンシップ）		1年前半→2年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
1年生対象に 実施（今年 度予定を含 む）	度数	2,666	1,195	841	1,623	6,325
	期待度数	2626.2	1210.2	829.8	1658.8	6325.0
	%	42.2%	18.9%	13.3%	25.7%	100.0%
	調整済み残差	1.1	-.5	.5	-1.2	
実施してい ない	度数	9,705	4,506	3,068	6,191	23,470
	期待度数	9744.8	4490.8	3079.2	6155.2	23470.0
	%	41.4%	19.2%	13.1%	26.4%	100.0%
	調整済み残差	-1.1	.5	-.5	1.2	
合計	度数	12,371	5,701	3,909	7,814	29,795
	期待度数	12371.0	5701.0	3909.0	7814.0	29795.0
	%	41.5%	19.1%	13.1%	26.2%	100.0%

 $\chi^2(3)=2.182, \quad p > .1$

(1 7)

2年後半：就業体験（インターンシップ）		2年前半→3年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
2年生対象に 実施（今年 度予定を含 む）	度数	6,114	2,310	1,180	2,685	12,289
	期待度数	6198.3	2194.7	1253.8	2642.1	12289.0
	%	49.8%	18.8%	9.6%	21.8%	100.0%
	調整済み残差	-2.0	3.5	-2.9	1.2	
実施してい ない	度数	8,919	3,013	1,861	3,723	17,516
	期待度数	8834.7	3128.3	1787.2	3765.9	17516.0
	%	50.9%	17.2%	10.6%	21.3%	100.0%
	調整済み残差	2.0	-3.5	2.9	-1.2	
合計	度数	15,033	5,323	3,041	6,408	29,805
	期待度数	15033.0	5323.0	3041.0	6408.0	29805.0
	%	50.4%	17.9%	10.2%	21.5%	100.0%

 $\chi^2(3)=20.836, \quad p < .01$

(1 8)

3年後半：就業体験（インターンシップ）		3年前半→3年後半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
3年生対象に 実施済	度数	2,962	833	489	894	5,178
	期待度数	3120.5	813.1	428.8	815.6	5178.0
	%	57.2%	16.1%	9.4%	17.3%	100.0%
	調整済み残差	-5.0	.8	3.3	3.3	
実施してい ない（今年 度予定を含 む）	度数	14,607	3,745	1,925	3,698	23,975
	期待度数	14448.5	3764.9	1985.2	3776.4	23975.0
	%	60.9%	15.6%	8.0%	15.4%	100.0%
	調整済み残差	5.0	-.8	-3.3	-3.3	
合計	度数	17,569	4,578	2,414	4,592	29,153
	期待度数	17569.0	4578.0	2414.0	4592.0	29153.0
	%	60.3%	15.7%	8.3%	15.8%	100.0%

 $\chi^2(3)=29.835, \quad p < .01$

(1 9)

2年後半：上級学校のオープンキャンパス等への参加		2年前半→3年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
2年生対象に実施（今年度予定を含む）	度数	11880	4148	2396	5104	23528
	期待度数	11868.0	4202.1	2399.3	5058.6	23528.0
	%	50.5%	17.6%	10.2%	21.7%	100.0%
	調整済み残差	.3	-2.0	-.2	1.6	
実施していない	度数	3182	1185	649	1316	6332
	期待度数	3194.0	1130.9	645.7	1361.4	6332.0
	%	50.3%	18.7%	10.2%	20.8%	100.0%
	調整済み残差	-.3	2.0	.2	-1.6	
合計	度数	15062	5333	3045	6420	29860
	期待度数	15062.0	5333.0	3045.0	6420.0	29860.0
	%	50.4%	17.9%	10.2%	21.5%	100.0%

 $\chi^2(3)=5.285, \quad p > .1$

(2 0)

3年後半：上級学校のオープンキャンパス等への参加		3年前半→3年後半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
3年生対象に実施済	度数	6467	1765	892	1687	10811
	期待度数	6491.5	1700.1	897.2	1722.2	10811.0
	%	59.8%	16.3%	8.3%	15.6%	100.0%
	調整済み残差	-.6	2.1	-.2	-1.2	
実施していない（今年度予定を含む）	度数	11426	2921	1581	3060	18988
	期待度数	11401.5	2985.9	1575.8	3024.8	18988.0
	%	60.2%	15.4%	8.3%	16.1%	100.0%
	調整済み残差	.6	-2.1	.2	1.2	
合計	度数	17893	4686	2473	4747	29799
	期待度数	17893.0	4686.0	2473.0	4747.0	29799.0
	%	60.0%	15.7%	8.3%	15.9%	100.0%

 $\chi^2(3)=5.214, \quad p > .1$

(2 1)

1年後半：職場見学・ジョブシャドウイング		1年前半→2年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
1年生対象に実施（今年度予定を含む）	度数	2465	1140	777	1633	6015
	期待度数	2497.5	1150.9	789.1	1577.5	6015.0
	%	41.0%	19.0%	12.9%	27.1%	100.0%
	調整済み残差	-1.0	-.4	-.5	1.8	
実施していない	度数	9906	4561	3132	6181	23780
	期待度数	9873.5	4550.1	3119.9	6236.5	23780.0
	%	41.7%	19.2%	13.2%	26.0%	100.0%
	調整済み残差	1.0	.4	.5	-1.8	
合計	度数	12371	5701	3909	7814	29795
	期待度数	12371.0	5701.0	3909.0	7814.0	29795.0
	%	41.5%	19.1%	13.1%	26.2%	100.0%

 $\chi^2(3)=3.340, \quad p > .1$

(2 2)

2年後半：職場見学・ジョブシャドウイング		2年前半→3年前半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
2年生対象 に実施(今 年度予定を 含む)	度数	2504	900	516	1090	5010
	期待度数	2527.1	894.8	510.9	1077.2	5010.0
	%	50.0%	18.0%	10.3%	21.8%	100.0%
	調整済み残差	-.7	.2	.3	.5	
実施してい ない	度数	12558	4433	2529	5330	24850
	期待度数	12534.9	4438.2	2534.1	5342.8	24850.0
	%	50.5%	17.8%	10.2%	21.4%	100.0%
	調整済み残差	.7	-.2	-.3	-.5	
合計	度数	15062	5333	3045	6420	29860
	期待度数	15062.0	5333.0	3045.0	6420.0	29860.0
	%	50.4%	17.9%	10.2%	21.5%	100.0%

$$\chi^2(3)=0.536, \quad p > .1$$

(2 3)

3年後半：職場見学・ジョブシャドウイング		3年前半→3年後半：理解の変容パターン				合計
		○→○	×→○	○→×	×→×	
3年生対象 に実施済	度数	2719	751	387	728	4585
	期待度数	2751.4	722.7	380.2	730.7	4585.0
	%	59.3%	16.4%	8.4%	15.9%	100.0%
	調整済み残差	-1.1	1.2	.4	-.1	
実施してい ない(今年 度予定を含 む)	度数	15201	3956	2089	4031	25277
	期待度数	15168.6	3984.3	2095.8	4028.3	25277.0
	%	60.1%	15.7%	8.3%	15.9%	100.0%
	調整済み残差	1.1	-1.2	-.4	.1	
合計	度数	17920	4707	2476	4759	29862
	期待度数	17920.0	4707.0	2476.0	4759.0	29862.0
	%	60.0%	15.8%	8.3%	15.9%	100.0%

$$\chi^2(3)=1.917, \quad p > .1$$

キャリア教育に関する調査データ二次分析委員会

平成 28 年 3 月現在

協力者委員

伊藤 秀樹	国立大学法人東京学芸大学教育学部講師
岡本 智周	国立大学法人筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授
京免 徹雄	国立大学法人愛知教育大学学校教育講座講師
山田 亮	大妻嵐山中学校・高等学校教諭（進路指導部主任）

文部科学省においては、以下のものが作成に携わった

福井 孝夫	初等中等教育局高校教育改革 P T 児童生徒課 キャリア教育・進路指導担当専門職
-------	---

国立教育政策研究所においては、以下のものが作成に携わった

頼本 維樹	生徒指導・進路指導研究センター長
滝 充	生徒指導・進路指導研究センター総括研究官
長田 徹	生徒指導・進路指導研究センター総括研究官
立石 慎治	生徒指導・進路指導研究センター研究員
五十嵐祐子	生徒指導・進路指導研究センター企画課長
木村香奈子	生徒指導・進路指導研究センター企画課指導係主任